

群馬県鳥類目録

改訂版



日本野鳥の会群馬

群馬県鳥類目録

改訂版 (2019.08.31 現在)



日本野鳥の会群馬

編集 日本野鳥の会群馬 (目録改訂作業チーム)

発行 日本野鳥の会群馬

目次

はじめに	1
日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表 (鳥類リスト)	6
群馬県鳥類目録 改訂版	
・在来種	17
・外来種	62
補遺	
・新記録種等の画像記録	67
・改訂に関する識別ノート	
目録へ追加した種 (リストの●)	71
目録へ追加した種 (リストの○)	83
確実な記録へ変更した種 (リストの○→●)	86
参考記録とした種 (リストの△)	88
初版の記録を削除した種 (リストの△/●→×)	91
検討中の種 (リストでは×)	93
編集後記	94

はじめに

群馬県鳥類目録改訂の経緯

2014年に発行した「群馬県鳥類目録2012」（以下、初版と表記する）は、本会の50周年記念事業の一環として発行された。日本鳥類目録改訂第7版のために日本鳥学会から依頼を受けて、2012年現在の群馬県の記録をまとめたものがベースとなっているが、2019年、同じく日本鳥類目録改訂第8版に向けての情報提供の依頼があった。その作業の延長で、群馬県鳥類目録も改訂する運びとなった。

群馬県鳥類目録の改訂内容と使用したデータについて

初版は、県内の鳥類相を定性的にまとめた目録編と、各種調査の結果を定量的に解析した資料編からなっている。今回の改訂では、定量的な変化を解析するだけのデータの蓄積が不十分であることから、目録編だけを対象とした。2022年には日本野鳥の会群馬が創立60周年を迎えるので、60周年記念として発行予定の「群馬県鳥類目録 第3版」で資料編の改訂を実施したい。

今回の改訂に使用したデータの種類は初版を踏襲したが、改訂の内容と時間的労力の制約から2019年8月までの記録を対象とし、また、定性的な改訂に主眼を置いているため、探鳥会や各種調査の全データではなく、県内初記録種や希少種、画像・音声などの記録が追加された種の記録を抜粋して収集した。また、群馬県野鳥病院と桐生が岡動物園で保護収容した個体の記録や、群馬県立自然史博物館の紀要、日本野鳥の会吾妻と日本野鳥の会埼玉の会報などから、対象種についてできるだけ多くの記録を収集することに努めた。また、本会のWebページと会報を通じて、個人記録の提供を呼びかけた。なお、ここでいう県内とは、行政区画の県境を基本とするが、県境を流れる河川や山の稜線に関しては鳥類の移動性も考慮して、その周辺も含めた。たとえば、本県と埼玉県との県境は、利根川に沿って右岸と左岸を縫うように設定されている部分があるため、ある個体が利根川に沿って移動すれば、本県と埼玉県を行き来することになり、行政区画はあまり意味を持たなくなるからである。ただし、河川敷等の一定の範囲にのみ生息していて、県外に属することが明らかな場合はこの限りではない。収集した記録の取り扱いも初版の方法を踏襲し、できるだけ客観的資料（画像や音声など）を第三者が検証可能なように保存することとした。これらの資料は、個人が著作権を有する画像なども含まれるため非公開とするが、必要に応じて閲覧できるように本会事務所で保管している。

目録への掲載基準について

リストおよび目録の種の整理番号と掲載順は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）に従った。亜種については、野外識別が比較的容易で、県内でも記録があるもの、あるいは今後記録される可能性があるものを抜粋して掲載し、国内で1亜種しか記録されていない種や、野外識別が困難な亜種、県内で記録される可能性がごく低い亜種は掲載しなかった。リストでは、県内で記録がある普通種および客観的資料が得られている種は●、客観的資料はないが同定に間違いがないと判断された種は○、同定はほぼ間違いがないと思われるが確証が得られない、あるいは分布などに疑問が残るため参考記録とした種は△、本県での記録が得られなかった種および在来種ではあるが逸出した飼育個体（かご脱け）と判断された種は×で示した。外来種については別のリストにまとめた。リストで●と○に該当した種について、目録に概要を記載した。種の整理番号は日本鳥類目録改訂第7版の番号に準じたため、県内の通し番号にはなっていない。本目録では在来種328種（日本鳥類目録改訂第7版で検討中の種および交雑種、各1種を含む）、外来種23種、合計351種を掲載した。初版から、在来

種が 17 種追加と 1 種削除、差し引き 16 種の増加となった。このうち、記録が少ない種については具体的な記録も載せた。その際、地名は基本的に合併後の現市町村名を用いたが、参照元の記録に従い旧市町村名を併記したのものもある。旧・現市町村名と主な地名は、図 1 と図 2 を参照されたい。また、観察日等が特定できない場合は、1990.01.// のように / を用いて表記した。

渡りと生息状況の区分（カテゴリー）について

群馬県内における渡りと生息状況からみた区分（カテゴリー）は、日本鳥学会の分布と生息状況の区分に準じ、記録の頻度（個体数の多寡は考慮しない）、生息する季節、繁殖の程度から、下表のように 13 に分類した。複数の区分にまたがる場合や、一部の個体が県内の大部分の個体とは別の区分に該当する場合は、複数の区分を併記し、本文中にその内容を記述した。

記録の頻度			季節			繁殖			渡りと生息状況の区分		
高	低	稀	夏	春秋	冬	毎年	不定	なし	学会	群馬版	
									RB	留鳥	通年生息し、繁殖している種
									MB	夏鳥	毎年渡来し、繁殖している種
									PV	旅鳥	毎年渡来するが、通過・一時滞在する種
									WV	冬鳥	毎年渡来し、越冬している種
									IV	不定期(通年)	不定期に、通年記録がある種（非繁殖を含む）
										不定期(夏鳥)	不定期に、夏に渡来する種（非繁殖を含む）
										不定期(旅鳥)	不定期に渡来し、通過・一時滞在する種
										不定期(冬鳥)	不定期に渡来し、越冬する種
									AV	迷鳥	数例以下の記録しかない種
									CB	稀に繁殖	不定期に繁殖し、それを特記すべき種
									FB	過去に繁殖	留鳥・夏鳥だったが、現在は繁殖しない種
									EX	絶滅	過去に記録があるが、世界的に絶滅した種
									IB	外来種	人為的に移入された種。

謝辞

今回の改訂にあたり、多くの方々から貴重な記録（画像や音声等を含む）をお寄せいただいた。論文や書籍、本会会報に掲載された記録は通常の文献として引用したが、本会 HP に寄せられた記録（画像を含む）は例数が多いため、文献の引用に準じて出展を示すにとどめた。公開されていない記録は私信として引用し、文献の項（p.66）にお名前と対象種を明記した。掲載した画像については、各画像に撮影者のお名前を明記した。ここでは個別にお名前をあげないが、失礼をご容赦いただきたい。また、群馬県自然環境課には群馬県野鳥病院と桐生が岡動物園の保護個体の記録の利用を許可していただいた。我孫子市鳥の博物館の小田谷嘉弥氏にはシロカモメとタイミルセグロカモメ、小田谷氏と田野井博之氏、先崎理之氏、西沢文吾氏にはシロハラミズナギドリ類の一種の同定に関してご教示いただいた。日本野鳥の会保全プロジェクト推進室長の田尻浩伸氏には文献収集にご協力いただいた。本書で使用した地図は「地図 AC」の無償地図を基にして作成した。これらすべての皆様に厚くお礼申し上げます。

群馬県鳥類目録改訂作業チーム

浅川千佳夫、谷畑藤男、柴田 栄（協力・元会員）、深井宣男



図1 市町村図

合併後の現市町村名を太字で、合併前の旧市町村名を細字で示した。目録内の市町村名は、基本的に合併後の現市町村名を用いたが、参照元の記録に従い旧市町村名を併記したものもある。



図2 主な山、湖沼、河川、探鳥地の位置図

目録に登場する主な山や湖沼、河川、探鳥地の位置を示した。

※記録提供のお願い

本書に掲載されていない種や記録が少ない種を群馬県内で観察された方は、ぜひ当会までご連絡ください。あなたの記録が目録改訂に反映されます！

<ご連絡いただきたい事項>

- ・種名
- ・観察日時
- ・観察場所（できるだけ詳しく。情報公開は鳥と近隣住民、環境等に十分配慮します。）
- ・個体数
- ・観察事項（その個体の形態的特徴、声や行動などで気がついたこと）
できるだけ客観的資料（画像や音声等）を添えてください。
- ・観察者名
- ・連絡先



<当会連絡先>

日本野鳥の会群馬

〒370-0046

群馬県高崎市江木町 980 新井ビル 2F

Tel. 027-325-5211

E-mail office@wbsj-gunma.org

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
キジ目							
キジ科							
001.	エゾライチョウ	×		-	情報不足		
002.	ライチョウ	×	△→×	-	I B類		尾瀬の古い記録は燧ヶ岳(福島県)
003.	ウズラ	●		不定期(冬鳥)・過去に繁殖	II類	I B類	
004.	ヤマドリ	●		留鳥			
005.	キジ	●		留鳥			
カモ目							
カモ科							
006.	リュウキュウガモ	×		-			
007.	サカツラガン	△		-	情報不足		古い記録/かご抜け
008.	ヒシクイ	●			I B類		
008-1	オオヒシクイ	●		不定期(冬鳥)	準		
008-2	ヒメヒシクイ	×		-			
008-3	ヒシクイ	●		不定期(冬鳥)	II類		
009.	ハイロガン	×		-			
010.	マガン	●		冬鳥	準	I B類	
011.	カリガネ	×		-	I B類		
012.	インドガン	×		-			
013.	ハクガン	×		-	I A類		
014.	ミカドガン	×		-			
015.	シジュウカラガン	●					
015-1	シジュウカラガン	●		迷鳥	I A類		
015-2	ヒメシジュウカラガン	×		-			
016.	コクガン	●		迷鳥	II類		
017.	コブハクチョウ	×		外来種			かご脱け
018.	ナキハクチョウ	×		-			
019.	コハクチョウ	●			情報不足		
019-1	コハクチョウ	●		冬鳥			
019-2	アメリカコハクチョウ	●		不定期(冬鳥)			
020.	オオハクチョウ	●		冬鳥	情報不足		
021.	ツクシガモ	●		迷鳥	II類		
022.	アカツクシガモ	×		-	情報不足		
023.	カンムリツクシガモ	×		-	絶滅		
024.	オンドリ	●		冬鳥・一部留鳥	情報不足 情報不足		
025.	ナンキンオシ	×		-			
026.	オカヨシガモ	●		冬鳥			
027.	ヨシガモ	●		冬鳥			
028.	ヒドリガモ	●		冬鳥			
029.	アメリカヒドリ	●		不定期(冬鳥)			
030.	マガモ	●		冬鳥・一部留鳥	尾瀬で繁殖記録		
031.	アカノカルガモ	×		-			
032.	カルガモ	●		留鳥			
033.	ミカヅキシマアジ	×		-			
034.	ハシビロガモ	●		冬鳥			
035.	オナガガモ	●		冬鳥			
036.	シマアジ	●		旅鳥	情報不足		
037.	トモエガモ	●		冬鳥	II類	情報不足	
038.	コガモ	●					
038-1	コガモ	●		冬鳥			
038-2	アメリカコガモ	●		不定期(冬鳥)			
039.	アカハシハジロ	●		迷鳥			
040.	オオホシハジロ	×	△→×	-	識別点不明		
041.	アメリカホシハジロ	×		-			
042.	ホシハジロ	●		冬鳥			
043.	アカハジロ	●		迷鳥	情報不足		
044.	メジロガモ	●		迷鳥			
045.	クビワキンクロ	×		-			
046.	キンクロハジロ	●		冬鳥			
047.	スズガモ	●		冬鳥			
048.	コスズガモ	×		-			
049.	コケワタガモ	×		-			
050.	ケワタガモ	×		-			
051.	シノリガモ	●		迷鳥・稀に繁殖	情報不足		繁殖記録あり
052.	アラナミキンクロ	●	×→●	迷鳥	情報不足		私信・埼玉会報「しらこぼと」
053.	ビロードキンクロ	○		迷鳥			観察記録のみ
054.	クロガモ	●		迷鳥			
055.	コオリガモ	×		-			
056.	ヒメハジロ	×		-			
057.	ホオジロガモ	●		不定期(冬鳥)			
058.	ミコアイサ	●		冬鳥			
059.	カワアイサ	●		冬鳥			
060.	ウミアイサ	●		不定期(冬鳥)			
061.	コウライアイサ	●		迷鳥			
カイツブリ目							
カイツブリ科							

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
062.	カイツブリ	●		留鳥			
063.	アカエリカイツブリ	●		不定期(旅鳥)			
064.	カンムリカイツブリ	●		冬鳥		情報不足	
065.	ミミカイツブリ	●		不定期(冬鳥)			
066.	ハジロカイツブリ	●		冬鳥		情報不足	
ネッタイチョウ目							
ネッタイチョウ科							
067.	アカオネッタイチョウ	●		迷鳥	I B類		
068.	シラオネッタイチョウ	●		迷鳥			
サケイ目							
サケイ科							
069.	サケイ	×		-			
ハト目							
ハト科							
070.	ヒメモリバト	×		-			
071.	カラスバト	×	△→×	-	準		識別点不明
072.	オガサワラカラスバト	×		-	絶滅		
073.	リュウキュウカラスバト	×		-	絶滅		
074.	キジバト	●		留鳥			
075.	シラコバト	●		過去に繁殖	I B類	情報不足	
076.	ベニバト	×		-			
077.	キンバト	×		-	I B類		かご脱け
078.	アオバト	●		留鳥		情報不足	
079.	ズアカアオバト	×		-			
080.	クロアゴヒメアオバト	×		-			
アビ目							
アビ科							
081.	アビ	●	○→●	迷鳥			会報「野の鳥」
082.	オオハム	●		迷鳥			
083.	シロエリオオハム	●	×→●	迷鳥			会報「野の鳥」
084.	ハシジロアビ	×		-			
085.	ハシジロアビ	×		-			
ミズナギドリ目							
アホウドリ科							
086.	コアホウドリ	○		迷鳥	I B類		保護記録
087.	クロアシアホウドリ	△	×→△	-			埼玉会報「しらこぼと」
088.	アホウドリ	×		-	II類		
ミズナギドリ科							
089.	フルマカモメ	×		-			
090.	ハジロミズナギドリ	×		-			
091.	オオシロハラミズナギドリ	×		-			
PU1.	クビワオオシロハラミズナギドリ	●		迷鳥			
092.	カワシロハラミズナギドリ	×		-			
093.	ハワイシロハラミズナギドリ	×		-			
094.	マダラシロハラミズナギドリ	×		-			
095.	ハグロシロハラミズナギドリ	×		-			
096.	シロハラミズナギドリ	●		迷鳥	情報不足		
097.	ヒメシロハラミズナギドリ	△	×→△	-			保護個体 識別点不明
098.	オオミズナギドリ	●		不定期(旅鳥)			栗島生まれの幼鳥が本州横断
099.	オナガミズナギドリ	×		-			
100.	ミナミオナガミズナギドリ	×		-			
101.	ハイロミズナギドリ	×		-			
102.	ハシボソミズナギドリ	×		-			
103.	シロハラアカアシミズナギドリ	×		-			
104.	アカアシミズナギドリ	×		-			
105.	コムズナギドリ	×		-			
106.	マンクスミズナギドリ	×		-			
107.	ハワイセグロミズナギドリ	×		-			
108.	セグロミズナギドリ	×		-	I B類		
109.	オガサワラヒメミズナギドリ	×		-	I A類		
110.	アナドリ	●		迷鳥			
ウミツバメ科							
111.	アシナガウミツバメ	×		-			
112.	クロコシジロウミツバメ	○	×→○	迷鳥	I A類		保護記録
113.	ヒメクロウミツバメ	×	△→×	-	II類		同定要再検討
114.	コシジロウミツバメ	●	○→●(訂正)	迷鳥			初版の○は●の誤り
115.	オーストンウミツバメ	×		-	準		
116.	クロウミツバメ	●		迷鳥	準		
117.	ハイロウミツバメ	×		-			
コウノトリ目							
コウノトリ科							
118.	ナベコウ	●		迷鳥			
119.	コウノトリ	●		迷鳥	I A類		
カツオドリ目							
グンカンドリ科							
120.	オオグンカンドリ	×		-			

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
121. コゲンカンドリ	×			-			
カツオドリ科							
122. アオツラカツオドリ	×			-			
123. アカアシカツオドリ	●			迷鳥	I B類		
124. カツオドリ	×			-			
ウ科							
125. ヒメウ	×		△→×	-	I B類		古い記録
126. チシマウガラス	×			-	I A類		
127. カワウ	●			留鳥			
128. ウミウ	●		○→●	迷鳥			本会HP
ペリカン目							
ペリカン科							
129. モモイロペリカン	×			-			
130. ホシバシペリカン	×			-			
131. ハイイロペリカン	×			-			
サギ科							
132. サンカノゴイ	●		○→●	迷鳥	I B類		本会HP
133. ヨシゴイ	●			夏鳥	準 II類		
134. オオヨシゴイ	○			過去に繁殖	I A類 I A類		観察記録のみ
135. リュウキュウヨシゴイ	×			-			
136. タカサゴクロサギ	×			-			
137. ミゾゴイ	●			不定期(夏鳥)	II類 II類		繁殖記録あり
138. ズグロミゾゴイ	×			-	II類		
139. ゴイサギ	●			留鳥			
140. ハシブトゴイ	×			-	絶滅		
141. ササゴイ	●			夏鳥			
142. アカガシラサギ	●			迷鳥			
143. アマサギ	●			夏鳥			
144. アオサギ	●			留鳥			
145. ムラサキサギ	●			迷鳥			
146. ダイサギ	●						
146-1 ダイサギ		●		不定期(冬鳥)			
146-2 チュウダイサギ		●		留鳥・一部夏鳥			
147. チュウサギ	●			夏鳥	準 準		
148. コサギ	●			留鳥		情報不足	
149. クロサギ	×		△→×	-			雑種の可能性
150. カラシラサギ	×			-	準		コサギ幼鳥の誤認
トキ科							
151. クロトキ	×			-	情報不足		かご抜け
152. トキ	×			-	野生絶滅		県立自然史博物館剥製あり
153. ヘラサギ	●			迷鳥	情報不足		
154. クロツラヘラサギ	●			迷鳥	I B類		
ツル目							
ツル科							
155. ソデグロツル	×			-			
156. カナダツル	×			-			
157. マナヅル	×			-	II類		中之条町博物館剥製あり
158. タンチョウ	●			迷鳥	II類		
159. クロヅル	×			-	情報不足		
160. ナベヅル	●			迷鳥	II類		
161. アネハヅル	×			-			
クイナ科							
162. シマクイナ	×			-			
163. オオクイナ	×			-	I B類		
164. ヤンバルクイナ	×			-	I A類		
165. ミナミクイナ	×			-			
166. クイナ	●			冬鳥・一部留鳥		情報不足	
167. シロハラクイナ	●			迷鳥			
168. ヒメクイナ	●			迷鳥			
169. コモンクイナ	×			-			
170. ヒクイナ	●		稀に冬季	不定期(夏鳥)	準 I B類		越冬期の記録追加
171. コウライクイナ	×			-			
172. マミジロクイナ	×			-	絶滅		
173. ツルクイナ	×		△→×	-			詳細不明
174. バン	●			留鳥			
175. オオバン	●			冬鳥・一部留鳥		準	
ノガン目							
ノガン科							
176. ノガン	×			-			
177. ヒメノガン	×			-			
カッコウ目							
カッコウ科							
178. バンケン	×			-			
179. カンムリカッコウ	×			-			
180. オニカッコウ	×			-			
181. キジカッコウ	×			-			

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
182. オウチュウカッコウ	×			-			
183. オオジュウイチ	×			-			
184. ジュウイチ	●			夏鳥		準	
185. ホトギス	●			夏鳥			
186. セグロカッコウ	●		×→●	迷鳥			録音あり
187. ツツドリ	●			夏鳥		情報不足	
188. カッコウ	●			夏鳥		準	
ヨタカ目							
ヨタカ科							
189. ヨタカ	●			夏鳥		準 II類	
アマツバメ目							
アマツバメ科							
190. ヒマラヤアナツバメ	×			-			
191. ハリオアマツバメ	●			夏鳥		情報不足	
192. アマツバメ	●			夏鳥			
193. ヒメアマツバメ	●			留鳥			
チドリ目							
チドリ科							
194. タゲリ	●			冬鳥		情報不足	
195. ケリ	●			冬鳥・一部留鳥		情報不足 情報不足	
196. ヨーロッパムナグロ	×			-			
197. ムナグロ	●			旅鳥			
198. アメリカムナグロ	×			-			
199. ダイゼン	●			不定期(旅鳥)・一部冬鳥			
200. ハジロコチドリ	●			迷鳥			
201. ミズカキチドリ	×			-			
202. イカルチドリ	●			留鳥		準	
203. コチドリ	●			留鳥		情報不足	
204. シロチドリ	●			不定期(通年)	II類	準	繁殖記録あり
205. メダイチドリ	●			迷鳥			
206. オオメダイチドリ	●			迷鳥			
207. オオチドリ	●		×→●	迷鳥			埼玉会報「しらこぼと」
208. コバシチドリ	×			-			
ミヤコドリ科							
209. ミヤコドリ	○		×→○	迷鳥			吾妻会報「さくいだき」
セイタカシギ科							
210. セイタカシギ	●			不定期(旅鳥)	II類	情報不足	繁殖記録は保留
211. ソリハシセイタカシギ	×			-			
シギ科							
212. ヤマシギ	●			冬鳥・一部留鳥		情報不足	
213. アマヤマシギ	×			-	II類		
214. コシギ	○			迷鳥			観察記録のみ
215. アオシギ	●		○→●	不定期(冬鳥)		情報不足	(初版の●は○の誤り)
216. オオジシギ	●			夏鳥		準 I B類	
217. ハリオシギ	○			迷鳥			観察記録のみ
218. チュウジシギ	○			不定期(旅鳥)			保護記録
219. タシギ	●			冬鳥			
220. アメリカオオハシシギ	×			-			
221. オオハシシギ	●			不定期(旅鳥)・一部冬鳥			越冬期の記録あり
222. シベリアオオハシシギ	×			-		情報不足	
223. オグロシギ	●			不定期(旅鳥)			
224. アメリカオグロシギ	×			-			
225. オオソリハシシギ	●			不定期(旅鳥)	II類		
226. コシャクシギ	●			迷鳥		I B類	
227. チュウシャクシギ	●			不定期(旅鳥)			
228. ハリモモチュウシャク	×			-			
229. シロハラチュウシャクシギ	×			-			
230. ダイシャクシギ	●			迷鳥			
231. ホウロクシギ	●			迷鳥		II類	
232. ツルシギ	●			不定期(旅鳥)・一部冬鳥	II類	情報不足	越冬期の記録あり
233. アカアシシギ	○			迷鳥	II類		観察記録のみ
234. コアアシシギ	●			旅鳥			
235. アアシシギ	●			旅鳥			
236. カラフトアアシシギ	×			-	I A類		
237. オオキアシシギ	×			-			
238. コキアシシギ	×		△→×	-			詳細不明
239. クサシギ	●			旅鳥・一部冬鳥			
240. タカブシギ	●			旅鳥	II類		
241. キアシシギ	●			旅鳥			
242. メリケンキアシシギ	×			-			
243. ソリハシシギ	●			不定期(旅鳥)			
244. インシギ	●			留鳥			
245. アメリカインシギ	×			-			
246. キョウジョシギ	●			不定期(旅鳥)		情報不足	
247. オバシギ	●			不定期(旅鳥)			
248. コバシギ	○			迷鳥			観察記録のみ

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
249. ミユビシギ	×			-			
250. ヒメハマシギ	×			-			
251. トウネン	●			旅鳥			
252. ヨーロッパトウネン	●			迷鳥			
253. オジロトウネン	●			旅鳥・一部冬鳥			
254. ヒバリシギ	●			旅鳥			
255. コシジロウズラシギ	×			-			
256. ヒメウズラシギ	×			-			
257. アメリカウズラシギ	●			不定期(旅鳥)			
258. ウズラシギ	●			旅鳥		情報不足	
259. サルハマシギ	●			迷鳥			
260. チシマシギ	×			-		情報不足	
261. ハマシギ	●			旅鳥・一部冬鳥		準	
262. アシナガシギ	×			-			
263. ヘラシギ	○			迷鳥	I A類		観察記録のみ
264. キリアイ	●			不定期(旅鳥)		情報不足	
265. コモンシギ	×			-			
266. エリマキシギ	●			旅鳥			
267. アメリカヒレアシシギ	×			-			
268. アカエリヒレアシシギ	●			旅鳥			
269. ハイイロヒレアシシギ	●			不定期(旅鳥)			
レンカク科							
270. レンカク	●		×→●	迷鳥			私信
タマシギ科							
271. タマシギ	●			不定期(通年)	II類	準	繁殖記録あり
ミフウズラ科							
272. ミフウズラ	×			-			
ツバメチドリ科							
273. ツバメチドリ	●			不定期(夏鳥)	II類	準	繁殖記録あり
カモメ科							
274. クロアジサシ	×			-			
275. ヒメクロアジサシ	×			-			
276. ハイイロアジサシ	×			-			
277. シロアジサシ	○			迷鳥			保護記録
278. ミツユビカモメ	●			不定期(冬鳥)			
279. アカアシミツユビカモメ	×			-			
280. ソウゲカモメ	×			-			
281. クビワカモメ	×			-			
282. ヒメクビワカモメ	×			-			
283. ハシボソカモメ	×			-			
284. ボナバルトカモメ	×			-			
285. チャガシラカモメ	×			-			
286. ユリカモメ	●			冬鳥			
287. ズグロカモメ	×		△→×	-	II類		詳細不明
288. ヒメカモメ	×			-			
289. ワライカモメ	×			-			
290. アメリカズグロカモメ	×			-			
291. ゴビズキンカモメ	×			-			
292. オオズグロカモメ	×			-			
293. ウミネコ	●			旅鳥・一部冬鳥			
294. カモメ	●			不定期(旅鳥)			
295. ワシカモメ	×			-			
296. シロカモメ	●			迷鳥			会報掲載写真の元写真確認
297. アイスランドカモメ	×			-			
298. カナダカモメ	×			-			
299. セグロカモメ	●			冬鳥			
300. キアシセグロカモメ	×			-			
301. オオセグロカモメ	●			不定期(旅鳥)			
302. ニシセグロカモメ	×			-			
PU2. タイミルセグロカモメ	●		×→●	不定期(冬鳥)			交雑個体群の扱い
303. ハシブトアジサシ	×			-			
304. オニアジサシ	×			-			
305. オオアジサシ	×			-	II類		
306. ベンガルアジサシ	×			-			
307. コアジサシ	●			夏鳥	II類	I B類	
308. コシジロアジサシ	●			不定期(旅鳥)			定期経路であった可能性もあり
309. ナンヨウマミジロアジサシ	×			-			
310. マミジロアジサシ	×			-			
311. セグロアジサシ	●			迷鳥			
312. ベニアジサシ	×			-	II類		
313. エリグロアジサシ	×		●→×	-	II類		同定の誤り
314. アジサシ	●			-			
314-1 アカアシアジサシ		×		-			
314-2 アジサシ		●		不定期(旅鳥)・稀に繁殖			繁殖行動の記録あり
315. キョクアジサシ	×			-			
316. クロハラアジサシ	●			不定期(旅鳥)			

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
317.	ハジロクロハラアジサシ	●		不定期(旅鳥)			
318.	ハシゲクロハラアジサシ	×		-			
トウゾクカモメ科							
319.	オオトウゾクカモメ	×		-			
320.	トウゾクカモメ	×	△→×(訂正)	-			初版の△は×の誤り
321.	クロトウゾクカモメ	●	×→●	迷鳥			埼玉会報「しらこぼと」
322.	シロハラトウゾクカモメ	●		迷鳥			
ウミスズメ科							
323.	ヒメウミスズメ	×		-			
324.	ハシブトウミガラス	×		-			
325.	ウミガラス	×		-	I A類		
326.	オオハシウミガラス	×		-			
327.	ウミバト	×		-			
328.	ケイマフリ	×		-	II類		
329.	マダラウミスズメ	●		迷鳥			
330.	ウミスズメ	△		-	I A類		標本あり 標本ラベルなし
331.	カンムリウミスズメ	×		-	II類		
332.	ウミオウム	×		-			
333.	コウミスズメ	×		-			
334.	シラヒゲウミスズメ	×		-			
335.	エトロフウミスズメ	×		-			
336.	ウトウ	×		-			
337.	ツノメドリ	×		-			
338.	エトビリカ	×		-	I A類		
タカ目							
ミサゴ科							
339.	ミサゴ	●		冬鳥・稀に繁殖	準	情報不足	繁殖記録あり
タカ科							
340.	ハチクマ	●		夏鳥	準	準	
341.	カタグロトビ	×		-			
342.	トビ	●		留鳥			
343.	オジロワシ	●		不定期(冬鳥)	II類	情報不足	
344.	ハクトウワシ	×		-			
345.	オオワシ	●		不定期(冬鳥)		情報不足	
346.	クロハゲワシ	×		-			
347.	カンムリワシ	×		-	I A類		
348.	ヨーロッパチュウヒ	×		-			
349.	チュウヒ	●		冬鳥	I B類	情報不足	
350.	ハイロチュウヒ	●		冬鳥		情報不足	
351.	ウスハイロチュウヒ	×		-			
352.	マダラチュウヒ	×		-			
353.	アカハラダカ	×		-			識別点不明
354.	ツミ	●		夏鳥・一部留鳥		情報不足	
355.	ハイタカ	●		留鳥	準	準	
356.	オオタカ	●		留鳥	準	準	
357.	サンバ	●		夏鳥	II類	I B類	
358.	ノスリ	●		留鳥			
359.	オオノスリ	×		-			
360.	ケアシノスリ	●		不定期(冬鳥)			
361.	カラフトワシ	×		-			
362.	カタシロワシ	×		-			
363.	イヌワシ	●		留鳥	I B類	I A類	
364.	クマタカ	●		留鳥	I B類	I B類	
フクロウ目							
メンフクロウ科							
365.	ヒガシメンフクロウ	×		-			
フクロウ科							
366.	オオコノハズク	●		留鳥		情報不足	
367.	コノハズク	●		不定期(夏鳥)		I B類	
368.	リュウキュウコノハズク	×		-			
369.	シロフクロウ	×		-			
370.	ワシミズク	×		-	I A類		
371.	シマフクロウ	×		-	I A類		
372.	フクロウ	●		留鳥		準	
373.	キンメフクロウ	×		-	I A類		
374.	アオバズク	●		夏鳥		II類	
375.	トラフズク	●		冬鳥・稀に繁殖		情報不足	
376.	コミズク	●		冬鳥		情報不足	
サイチョウ目							
ヤツガシラ科							
377.	ヤツガシラ	●		不定期(旅鳥)			
ブッポウソウ目							
カワセミ科							
378.	アカショウビン	●		不定期(夏鳥)		I B類	
379.	アオショウビン	×		-			
380.	ヤマショウビン	○		迷鳥			保護記録?

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
381. ナンヨウショウビン	×			-			
382. ミヤコショウビン	×			-	絶滅		
383. カワセミ	●			留鳥			
384. ミツユビカワセミ	×			-			
385. ヤマセミ	●			留鳥		情報不足	
ハチクイ科							
386. ハチクイ	×			-			
ブッポウソウ科							
387. ブッポウソウ	●			不定期(旅鳥)・過去に繁殖	I B類	I A類	
キツツキ目							
キツツキ科							
388. アリスイ	●			冬鳥		情報不足	
389. チャバラアカゲラ	×			-			
390. コゲラ	●			留鳥			
391. コアカゲラ	×			-			
392. オオアカゲラ	●			留鳥		情報不足	
393. アカゲラ	●			留鳥			
394. ミユビゲラ	×			-	I A類		
395. キタタキ	×			-	絶滅		
396. クマゲラ	△			-	II類		観察記録のみ
397. アオゲラ	●			留鳥			
398. ヤマゲラ	×			-			
399. ノグチゲラ	×			-	I A類		
ハヤブサ目							
ハヤブサ科							
400. ヒメチョウゲンボウ	×			-			
401. チョウゲンボウ	●			留鳥			
402. アカアシチョウゲンボウ	●		×→●	迷鳥			埼玉会報「しらこぼと」
403. コチョウゲンボウ	●			冬鳥		情報不足	
404. チゴハヤブサ	●			不定期(旅鳥)			
405. ワキシジハヤブサ	×			-			
406. シロハヤブサ	×		△→×	-			詳細不明
407. ハヤブサ	●			留鳥	II類	情報不足	
スズメ目							
ヤイロチョウ科							
408. ズグロヤイロチョウ	×			-			
409. ヤイロチョウ	○			迷鳥			記録追加あり?
モリツバメ科							
410. モリツバメ	×			-			
サンショウクイ科							
411. アサクラサンショウクイ	×			-			
412. サンショウクイ	●					準	
412-1 サンショウクイ	●			夏鳥	II類		
412-2 リュウキュウサンショウクイ	×			-			
コウライウグイス科							
413. コウライウグイス	●		○→●	迷鳥			本会HP
オウチュウ科							
414. オウチュウ	●			迷鳥			
415. ハイロオウチュウ	×			-			
416. カンムリオウチュウ	×			-			
カササギヒタキ科							
417. クロエリヒタキ	×			-			
418. サンコウチョウ	●			夏鳥		II類	
モズ科							
419. チゴモズ	●			不定期(旅鳥)・過去に繁殖	I A類	I B類	過去に繁殖
420. モズ	●			留鳥			
421. アカモズ	●					I B類	
421-1 シマアカモズ	●			迷鳥			
421-2 アカモズ	●			不定期(旅鳥)・過去に繁殖	I B類		過去に繁殖
422. セアカモズ	●		×→●	迷鳥			会報「野の鳥」
423. モウコアカモズ	×			-			
424. タカサゴモズ	×			-			
425. オオモズ	●			迷鳥			
426. オオカラモズ	●			迷鳥			
カラス科							
427. カケス	●			留鳥			
428. ルリカケス	×			-			
429. オナガ	●			留鳥			
430. カササギ	●			迷鳥			
431. ホシガラス	●			留鳥			
432. ニシコクマルガラス	×			-			
433. コクマルガラス	●			冬鳥			
434. ミヤマガラス	●			冬鳥			
435. ハシボソガラス	●			留鳥			
436. ハシブトガラス	●			留鳥			
437. ワタリガラス	×			-			

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
キクイタダキ科							
438.	キクイタダキ	●		留鳥			
ツリスガラ科							
439.	ツリスガラ	●	○→●	迷鳥			私信
シジュウカラ科							
440.	ハシブトガラ	×		-			
441.	コガラ	●		留鳥			
442.	ヤマガラ	●		留鳥			
443.	ヒガラ	●		留鳥			
444.	キバラガラ	×		-			
445.	シジュウカラ	●		留鳥			
446.	ルリガラ	×		-			
ヒゲガラ科							
447.	ヒゲガラ	×		-			
ヒバリ科							
448.	クビワコウテンシ	×		-			
449.	コウテンシ	×		-			
450.	ヒメコウテンシ	×		-			
451.	コヒバリ	×		-			
452.	ヒバリ	●		留鳥			
453.	ハマヒバリ	×		-			
ツバメ科							
454.	タイワンショウドウツバメ	×		-			
455.	ショウドウツバメ	●		旅鳥			
456.	ミドリツバメ	×		-			
457.	ツバメ	●		夏鳥			
458.	リュウキュウツバメ	×		-			
459.	コシアカツバメ	●		不定期(夏鳥)	情報不足		繁殖記録あり
460.	ニシイワツバメ	×		-			
461.	イワツバメ	●		夏鳥			
ヒヨドリ科							
462.	シロガシラ	×		-			
463.	ヒヨドリ	●		留鳥・一部冬鳥			
ウグイス科							
464.	ウグイス	●					
464-1	カラフトウグイス	×		-			
464-2	チョウセンウグイス	×		-			
464-3	ウグイス	●		留鳥			
465.	ヤブサメ	●		夏鳥			
エナガ科							
466.	エナガ	●					
466-1	シマエナガ	×		-			
466-3	エナガ	●		留鳥			
ムシクイ科							
467.	キタヤナギムシクイ	×		-			
468.	チフチャフ	×		-			渡良瀬栃木県側で記録
469.	モリムシクイ	×		-			
470.	ムジセッカ	×		-			渡良瀬栃木県側で記録
471.	キバラムシクイ	×		-			
472.	カラフトムジセッカ	×		-			
473.	カラフトムシクイ	×		-			
474.	キマユムシクイ	×		-			
475.	コムシクイ	×		-			
476.	オオムシクイ	●		旅鳥			
477.	メボソムシクイ	●		夏鳥			
478.	ヤナギムシクイ	×		-			
479.	エゾムシクイ	●		夏鳥			
480.	センダイムシクイ	●		夏鳥			
481.	イイジママムシクイ	×		-	Ⅱ類		
ズグロムシクイ科							
482.	コノドジロムシクイ	×		-			
メジロ科							
483.	メジロ	×		-	ⅠB類		
484.	チョウセンメジロ	×		-			
485.	メジロ	●		留鳥			
センニュウ科							
486.	マキノセンニュウ	●		不定期(旅鳥)・過去に繁殖	準 情報不足		
487.	シマセンニュウ	○		迷鳥			観察記録のみ
488.	ウチヤマセンニュウ	×		-	ⅠB類		
489.	シベリアセンニュウ	×		-			
490.	オオセッカ	○	×→○	迷鳥	ⅠB類		渡良瀬群馬県側で記録
491.	エゾセンニュウ	○		迷鳥			観察記録のみ
ヨシキリ科							
492.	オオヨシキリ	●		夏鳥			
493.	コヨシキリ	●		夏鳥	情報不足		
494.	セスジコヨシキリ	×		-			

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
495. イナダヨシキリ	×			-			
496. ヤブヨシキリ	×			-			
497. ハシブトオオヨシキリ	×			-			
498. ヒメウタイムシクイ	×			-			
セッカ科							
499. セッカ	●			留鳥			
レンジャク科							
500. キレンジャク	●			冬鳥			
501. ヒレンジャク	●			冬鳥			
ゴジュウカラ科							
502. ゴジュウカラ	●			留鳥			
キバシリ科							
503. キバシリ	●			留鳥		情報不足	
ミンサザイ科							
504. ミンサザイ	●			留鳥			
ムクドリ科							
505. ギンムクドリ	●			迷鳥			
506. ムクドリ	●			留鳥			
507. シベリアムクドリ	×			-			
508. コムクドリ	●			夏鳥			
509. カラムクドリ	×			-			
510. パライロムクドリ	×			-			
511. ホシムクドリ	●		×→●	迷鳥			私信
カワガラス科							
512. カワガラス	●			留鳥			
ヒタキ科							
513. マミジロ	●			夏鳥		情報不足	
514. トラツグミ	●			留鳥			
515. オガサワラガビチョウ	×			-		絶滅	
516. ハイロチャツグミ	×			-			
517. カラアカハラ	×			-			
518. クロツグミ	●			夏鳥			
519. クロウタドリ	×			-			
520. マミチャジナイ	●			旅鳥			
521. シロハラ	●			冬鳥			
522. アカハラ	●						
522-1 オオアカハラ		△		不定期(冬鳥)?			
522-2 アカハラ	●			夏鳥・一部留鳥?			
523. アカコッコ	×			-		I B類	
524. ノドグロツグミ	×			-			
524-1 ノドグロツグミ		×		-			
524-2 ノドアカツグミ		×		-			
525. ツグミ	●						
525-1 ツグミ		●		冬鳥			
525-2 ハチジョウツグミ		●		不定期(冬鳥)			
526. ノハラツグミ	●		×→●	迷鳥			私信
527. ワキアカツグミ	×			-			
528. ヤドリギツグミ	×			-			
529. ヨーロッパコマドリ	×			-			
530. コマドリ	●			夏鳥		準	
531. アカヒゲ	×			-		I B類	
532. オガワコマドリ	○			迷鳥			観察記録のみ
533. ノゴマ	●			不定期(旅鳥)			
534. コルリ	●			夏鳥			
535. シマゴマ	×			-			
536. ルリビタキ	●			留鳥			
537. セアカジョウビタキ	×			-			
538. クロジョウビタキ	×			-			
539. シロビタイジョウビタキ	×			-			
540. ジョウビタキ	●		稀に繁殖	冬鳥・稀に繁殖			繁殖記録追加
541. マミジロノビタキ	×			-			
542. ノビタキ	●			夏鳥		情報不足	
543. クロノビタキ	×			-			
544. ヤマザキヒタキ	×			-			
545. イナバヒタキ	×			-			
546. ハシグロヒタキ	×			-			
547. セグロサバクヒタキ	×			-			
548. サバクヒタキ	×			-			
549. イソヒヨドリ	●						
549-1 アオハラインソヒヨドリ		×		-			
549-2 イソヒヨドリ		●		不定期(通年)			繁殖の可能性?
550. ヒメインソ	×			-			
551. ムナフヒタキ	×			-			
552. エゾビタキ	●			旅鳥			繁殖期の記録あり
553. サメビタキ	●			旅鳥・一部夏鳥			
554. コサメビタキ	●			夏鳥		情報不足	

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
555. ミヤマヒタキ	×			-			
556. マダラヒタキ	×			-			
557. マミジロキビタキ	○		×→○	迷鳥			メッシュ調査
558. キビタキ	●			夏鳥			
559. ムギマキ	●			不定期(旅鳥)			
PU3. ニシオジロビタキ	△			-			同定困難
560. オジロビタキ	●		×→●	迷鳥			会報「野の鳥」
561. オオルリ	●			夏鳥			
562. ロクショウヒタキ	×			-			
563. チャバラオオルリ	×			-			
イワヒバリ科							
564. イワヒバリ	●			留鳥・一部冬鳥		情報不足	
565. ヤマヒバリ	○			迷鳥			観察記録のみ
566. カヤクグリ	●			留鳥			
スズメ科							
567. イエスズメ	×			-			
568. ニュウナイスズメ	●			留鳥		情報不足	
569. スズメ	●			留鳥			
セキレイ科							
570. イワミセキレイ	×			-			
571. ツメナガセキレイ	○			-			
571-1 シベリアツメナガセキレイ		×		-			
571-2 カオジロツメナガセキレイ		×		-			
571-3 キタツメナガセキレイ		×		-			
571-4 マミジロツメナガセキレイ		×		-			
571-5 ツメナガセキレイ		○		迷鳥			観察記録のみ
572. キガシラセキレイ	×			-			
573. キセキレイ	●			留鳥			
574. ハクセキレイ	●			-			
574-1 ニシシベリアハクセキレイ		×		-			
574-2 メンガタハクセキレイ		×		-			
574-3 ネパールハクセキレイ		×		-			
574-4 シベリアハクセキレイ		×		-			
574-5 タイワンハクセキレイ		×		-			
574-6 ハクセキレイ		●		留鳥			
574-7 ホオジロハクセキレイ		●		迷鳥			
575. セグロセキレイ	●			留鳥			
576. マミジロタヒバリ	×			-			
577. コマミジロタヒバリ	×			-			
578. マキバタヒバリ	×			-			
579. ヨーロッパビズイ	×			-			
580. ビズイ	●			留鳥			
581. セジロタヒバリ	×			-			
582. ウスベニタヒバリ	×			-			
583. ムネアカタヒバリ	○			迷鳥			観察記録のみ
584. タヒバリ	●			冬鳥			
アトリ科							
585. ズアオアトリ	×			-			
586. アトリ	●			冬鳥			
587. カワラヒワ	●			-			
587-1 オオカワラヒワ		●		冬鳥			
587-2 カワラヒワ		●		留鳥			
588. マヒワ	●			冬鳥			
589. ベニヒワ	●			迷鳥			
590. コベニヒワ	×			-			
591. ハギマシコ	●			不定期(冬鳥)		情報不足	
592. ベニマシコ	●			冬鳥			
593. オガサワラマシコ	×			-	絶滅		
594. アカマシコ	×			-			
595. オオマシコ	●			不定期(冬鳥)			
596. ギンザンマシコ	○			迷鳥			観察記録 画像未確認
597. イスカ	●			不定期(冬鳥)			
598. ナキイスカ	○			迷鳥			観察記録のみ
599. ウソ	●			-			
599-1 ベニバラウソ		×		-			
599-2 アカウソ		●		冬鳥			
599-3 ウソ		●		留鳥			
600. シメ	●			冬鳥			
601. コイカル	●			不定期(冬鳥)			
602. イカル	●			留鳥			
ツメナガホオジロ科							
603. ツメナガホオジロ	●			迷鳥			
604. ユキホオジロ	●		○→●	迷鳥			埼玉会報「しらこぼと」
アメリカムシクイ科							
605. キツタアメリカムシクイ	×			-			
606. ウィルソンアメリカムシクイ	×			-			

日本鳥類目録 改訂第7版 との対照表

	県内記録		改訂事項 初版→改訂版	渡りと生息状況の区分	RDB(2012)		備考
	種	亜種			環境省	群馬県	
ホオジロ科							
607.	レンジャクノジロ	×		-			
608.	キアオジ	×		-			
609.	シラガホオジロ	●	○→●	迷鳥			私信
610.	ホオジロ	●		留鳥			
611.	イワバホオジロ	×		-			
612.	ズアオホオジロ	×		-			
613.	シロハラホオジロ	○		迷鳥			観察記録のみ
614.	ホオアカ	●		留鳥		情報不足	
615.	コホオアカ	●		迷鳥			
616.	キマユホオジロ	×		-			
617.	カシラダカ	●		冬鳥			
618.	ミヤマホオジロ	●		冬鳥			
619.	シマアオジ	●		迷鳥	IA類		
620.	シマノジロ	×		-			
621.	ズグロチャキンチョウ	×		-			
622.	チャキンチョウ	×		-			
623.	ノジロ	●		夏鳥	準	情報不足	
624.	アオジ	●		-			
624-1	シベリアアオジ		×	-			
624-2	アオジ		●	留鳥			
625.	クロジ	●		留鳥		情報不足	
626.	シベリアジュリン	×		-			識別点不明
627.	コジュリン	●	△→×	冬鳥・過去に繁殖	II類	情報不足	繁殖地板倉沼河川改修により消滅
628.	オオジュリン	●		冬鳥			
629.	ゴマフスズメ	×		-			
630.	ウタスズメ	×		-			
631.	ミヤマシトド	●	×→●	迷鳥			文献
632.	キガシラシトド	●	×→●	迷鳥			吾妻会報「きくいただき」
633.	サバンナシトド	×		-			
	記録あり、確実	●	301				
	記録あり、画像等なし	○	25				
	疑問あり、参考記録	△	5				
	記録なし、逸出個体、誤同定	×	302				
	合計		633				
	日本鳥類目録改訂第7版 の検討種(PUと表記)	●	2				
		△	1				

外来種	県内記録		生息状況	備考
	種	亜種		
E01	コジュケイ	●	定着	
E03	キジ			
E03-1	コウライキジ		△	狩猟用の放鳥個体?
E//	コリンウズラ	●		定着
007	サカツラガン	△		逸出個体
E05	カナダガン	△		逸出個体
E06	コクチョウ	△		逸出個体
E07	コブハクチョウ	●		定着
E//	ノバリケン(バリケン)	●		定着
151	クロトキ	△		逸出個体
E08	カワラバト(ドンバト)	●		定着
E13	セキセイインコ	△		逸出個体
E15	ホンセイインコ			
E15-1	ワカケホンセイインコ	●		定着
E//	カラカラ	△		逸出個体
E//	フラミンゴ(種不明)	△		逸出個体
E21	ガビチョウ	●		定着
E23	カオグログビチョウ	○		一時定着
E24	カオジログビチョウ	●		定着
E25	ソウシチョウ	●		定着
E35	ベニスズメ	○		一時定着
E38	ギンバラ	△		逸出個体
E40	ヘキチョウ	△		逸出個体
E41	ブンチョウ	△		逸出個体
E43	コウカンチョウ	△		逸出個体
	定着	●	9	
	一時定着	○	2	
	逸出個体のみ	△	12	

群馬県鳥類目録

キジ目 GALLIFORMES

キジ科 PHASIANIDAE

003. ウズラ *Coturnix japonica*

不定期（冬鳥）・過去に繁殖。主に冬鳥として草原や農耕地に生息する。1960～70年代には中之条町野反湖畔や下仁田町神津牧場、榛東村相馬ヶ原など、高原の草地で繁殖期に記録された。1970～90年代には利根川河川敷など、平野部の草地で繁殖期の記録がある。近年の生息状況は不明。

004. ヤマドリ *Syrnaticus soemmerringii*

留鳥。森林に生息する。県内では平野部を除き、広く分布する。県内の亜種はヤマドリ *S. s. scintillans* とされる。狩猟用の放鳥個体と野生個体との識別は困難。群馬県の県鳥。

005. キジ *Phasianus colchicus*

留鳥。林縁部、草原、農耕地に生息する。県内では、亜高山帯を除く県内ほぼ全域に分布する。狩猟用の放鳥個体と野生個体との識別は困難。

カモ目 ANSERIFORMES

カモ科 ANATIDAE

008. ヒシクイ *Anser fabalis*008-1 亜種 オオヒシクイ *A. f. middendorffii*

不定期（冬鳥）。館林市多々良沼など県東部の沼や池に少数が飛来する。

008-2 亜種 ヒシクイ *A. f. serrirostris*

不定期（冬鳥）。館林市多々良沼など県東部の沼や池に少数が飛来する。

010. マガン *Anser albifrons*

冬鳥。館林市多々良沼など県東部の沼や池に少数が飛来するが記録は多くない。渡り途中の個体が県南部の休耕田に飛来した例もある。

015. シジュウカラガン *Branta hutchinsii*015-1 亜種 シジュウカラガン *B. h. leucopareia*

迷鳥。古くは邑楽地方にマガンなどとともに飛来したというが、詳細は不明。確実な記録は次の2例のみ。なお、カナダガン *Branta canadensis*（外来種）と思われる記録もある。

2008.12.01 板倉町東洋大学北の調節池、1羽が越冬（赤坂 野の鳥 292）

2011.12.31 館林市多々良沼、1羽（太田 群馬県鳥類目録）

016. コクガン *Branta bernicla*

迷鳥。次の1例のみ。

2002.11.03 伊勢崎市坂東大橋、1羽（富岡 野の鳥 255）

019. コハクチョウ *Cygnus columbianus*019-1 亜種コハクチョウ *C. c. jankowskyi*

冬鳥。給餌している館林市多々良沼と館林市城沼に 200~300 羽が越冬する。このほか、高崎市(新町)烏川など、各地に少数が渡来する。

019-2 亜種アメリカコハクチョウ *C. c. columbianus*

不定期(冬鳥)。館林市多々良沼と城沼、高崎市(新町)烏川などに単独~1 家族程度が渡来し、越冬する。

020. オオハクチョウ *Cygnus cygnus*

冬鳥。館林市多々良沼と館林市城沼で数十羽が越冬する。このほか、各地に少数が渡来することがあるが稀。

021. ツクシガモ *Tadorna tadorna*

迷鳥。次の 6 例およびその同一個体と思われる記録のみ。

1993.05.02 伊勢崎市坂東大橋、1 羽 (小茂田 野の鳥 198)

1993.12.23 伊勢崎市坂東大橋、1 羽 (小茂田 野の鳥 202)

2008.01.19 太田市刀水橋、1 羽 (富岡 野の鳥 286)

2011.12.29 千代田町利根大堰、11 羽 (読売新聞 しらこぼと 336)

2014.12.09 邑楽町(多々良沼)ガバ沼、2 羽 (MH 本会HP)

2018.01.20 伊勢崎市境島村利根川、2 羽 (tarjin 本会HP)

024. オシドリ *Aix galericulata*

冬鳥・一部留鳥。主に山間部の湖沼などで越冬するが局地的。定期渡来地は安中市妙義湖、みどり市高津戸ダム、みどり市草木ダム、渋川市真壁調整池など。少数が繁殖する。

026. オカヨシガモ *Anas strepera*

冬鳥。主に平地の河川や池沼で越冬する。県内では稀な種であったが、1980 年頃から定期的に観察されるようになった。

027. ヨシガモ *Anas falcate*

冬鳥。普通にみられるが個体数は多くない。主に平地の河川や池沼で越冬する。

028. ヒドリガモ *Anas penelope*

冬鳥。個体数は多い。主に平地の河川や池沼で越冬する。

029. アメリカヒドリ *Anas americana*

不定期(冬鳥)。個体数も少ない。主に平地の河川や池沼で単独または数羽が越冬する。本種とヒドリガモとの雑種が渡来することも多く、本種の記録とされるものの中には雑種の記録が含まれている可能性がある。逆に、雌はヒドリガモとの野外識別が困難なため、見逃されている可能性がある。

030. マガモ *Anas platyrhynchos*

冬鳥・一部留鳥。個体数は多い。県内では比較的広範囲に生息し、河川や湖沼で越冬する。少数が繁殖しており、片品村尾瀬沼、桐生市、甘楽町などで繁殖記録または繁殖期の記録がある。

032. カルガモ *Anas zonorhyncha*

留鳥。個体数は多い。主に平地の水辺で繁殖し、夏は標高がやや高い地域へも進出している。都市部では、建物の植込みや小さな池などで繁殖する個体がみられ、雛の引越しが話題になることがある。

034. ハシビロガモ *Anas clypeata*
 冬鳥。主に平地の沼や池で越冬するが個体数は多くない。採餌に適した環境が限られるためか、まとまった個体数が記録されるのは局地的である。
035. オナガガモ *Anas acuta*
 冬鳥。個体数は多い。主に河川や池沼で越冬する。ハクチョウ類に給餌している館林市多々良沼や館林市城沼では特に個体数が多い。
036. シマアジ *Anas querquedula*
 旅鳥。主に平地の河川や池沼などで記録されるが多くない。個体数も単独または数羽のことが多いが、伊勢崎市西部の休耕地で16羽が記録されたことがある。
037. トモエガモ *Anas formosa*
 冬鳥。県内各地の河川、湖沼で記録があるが少ない。数羽の記録が多いが、館林市多々良沼で60羽が記録されたことがある。
038. コガモ *Anas crecca*
- 038-1 亜種コガモ *A. c. crecca*
 冬鳥。個体数は多い。主に河川や湖沼で越冬する。
- 038-2 亜種アメリカコガモ *A. c. carolinensis*
 不定期（冬鳥）。伊勢崎市坂東大橋、館林市多々良沼、館林市城沼、高崎市鳴沢湖、富岡市大塩湖、藤岡市竹沼などで記録がある。雌は亜種コガモとの識別が困難。
039. アカハシハジロ *Netta rufina*
 迷鳥。次の6例のみ。2015年以降、同一個体と思われる雄1羽が3月下旬に定期的に記録されている。同時期に栃木県宇都宮市周辺で越冬している個体がいるので、この個体（あるいは他所で越冬している別個体）が春の渡り途中に立ち寄っていた可能性もある。
- 1988.11.23 太田市利根川・早川合流点、雄1羽（井上 野の鳥 171）
 2015.03.24 高崎市榛名湖、雄1羽（清水 本会HP）
 2016.03.31 高崎市榛名湖、雄1羽（森野 本会HP）
 2017.04.04 高崎市榛名湖、雄1羽（森野 本会HP）
 2018.03.15 高崎市榛名湖、雄1羽（森野 本会HP）
 2019.03.15 高崎市榛名湖、雄1羽（匿名 私信）
042. ホシハジロ *Aythya ferina*
 冬鳥。主に平地の河川や池沼で越冬する。稀に越夏記録もある。
043. アカハジロ *Aythya baeri*
 迷鳥。次の5例があるが、撮影されたのは1996年の記録のみ。
- 1976.02.11 太田市(尾島町)利根川（卯木 1985）
 1988.03.12 高崎市鳴沢湖、雄1羽（竹内 野の鳥 166）
 1989.03.26 館林市近藤沼（斉藤 野の鳥 172）
 1992.10.28 館林市多々良沼、雌1羽（太田 私信）
 1996.03.30 伊勢崎市坂東大橋、雄1羽（小茂田 野の鳥 217）
044. メジロガモ *Aythya nyroca*
 迷鳥。次の1例のみ。

2007.11.22 前橋市千貫沼、雄1羽 (富岡 野の鳥 285)

046. キンクロハジロ *Aythya fuligula*

冬鳥。河川、湖沼で越冬する。稀に越夏記録もある。

047. スズガモ *Aythya marila*

冬鳥。単独から数羽が河川、湖沼で記録される。

051. シノリガモ *Histrionicus histrionicus*

迷鳥・稀に繁殖。記録は次の6例のみ。1998年には奥利根湖上流で雛を連れた雌が観察撮影されている。1997年に前橋市利根川で観察された個体は繁殖地への移動途中であった可能性がある。現在の繁殖状況は不明。

1993.01.06 高崎市碓氷川、雌1羽 (割田 野の鳥 195)

1997.04.05/04.08 前橋市利根川、雌雄各1羽 (中村 / 木村 野の鳥 222/221)

1998.07.20 みなかみ町奥利根湖上流奈良沢、雌1羽・雛2羽 (古山 1998)

2007.01.03 伊勢崎市坂東大橋 (小茂田 野の鳥 304)

2011.01.04 桐生市太田頭首工、雄1羽 (竹内 野の鳥 304)

2017.08.12 高崎市染谷川、雄1羽 (よっしー 本会HP / 谷畑 野の鳥 344)

052. アラナミキンクロ *Melanitta perspicillata* 画像記録 052

迷鳥。次の1例のみ。

2013.03.25 伊勢崎市坂東大橋、雄1羽 (敷地 私信 / しらこぼと 350)

053. ビロードキンクロ *Melanitta fusca*

迷鳥。次の1例のみ。画像等の資料はない。

1985.01.15 富岡市大塩湖、雄1羽 (加藤 野の鳥 148)

054. クロガモ *Melanitta americana*

迷鳥。次の4例のみ。

1959.01.15 伊勢崎市(境町)利根川 (卯木 1985)

1990.03.24 太田市刀水橋、2羽 (井上 野の鳥 178)

1990.11.08 伊勢崎市坂東大橋、1羽 (しらこぼと 81)

2006.12.17 伊勢崎市坂東大橋、雄1羽 (小茂田 野の鳥 280)

057. ホオジロガモ *Bucephala clangula*

不定期 (冬鳥)。利根川、館林市多々良沼、館林市城沼、富岡市大塩湖などで単独または数羽が記録されている。

058. ミコアイサ *Mergellus albellus*

冬鳥。主に河川や湖沼で越冬するが、個体数は多くない。

059. カワアイサ *Mergus merganser*

冬鳥。県内各地の河川、湖沼で越冬するが局地的。個体数も多くない。

060. ウミアイサ *Mergus serrator*

不定期 (冬鳥)。記録は下記を含む7例で、迷鳥に準ずる。

1954.01.03 玉村町五料橋 (卯木 1985)

1987.11.13 吉岡町利根川、雌1羽 (竹内 野の鳥 165)

1994.10.30 高崎市鳴沢湖 (割田 野の鳥 207)

2005.04.30 伊勢崎市境島村利根川、雄1羽 (小茂田 群馬県鳥類目録)

061. コウライアイサ *Mergus squamatus*

迷鳥。次の1例のみ。

2011.04.05 伊勢崎市坂東大橋、幼鳥雄?1羽 (敷地 群馬県鳥類目録)

カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES

カイツブリ科 PODICIPEDIDAE

062. カイツブリ *Tachybaptus ruficollis*

留鳥。主に平地の沼や池に普通に生息する。

063. アカエリカイツブリ *Podiceps grisegena*

不定期 (旅鳥)。撮影された下記の記録を含め8例の記録がある。迷鳥に準ずる。

2007.04.21 伊勢崎市坂東大橋 (小茂田 私信)

2008.03.10 館林市多々良沼 (太田 私信)

064. カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus*

冬鳥。県内では生息は局地的で、個体数も多くない。主に館林市多々良沼と館林市城沼で越冬する。山間部のみなかみ町赤谷湖での記録や、館林市多々良沼での越冬記録、館林市城沼で頭部に幼羽が残る個体が撮影されたこともある。

065. ミミカイツブリ *Podiceps auritus*

不定期 (冬鳥)。館林市多々良沼や城沼、伊勢崎市利根川などで13例の記録がある。

066. ハジロカイツブリ *Podiceps nigricollis*

冬鳥。記録・個体数ともに少ないが、館林市多々良沼と城沼での記録が比較的多い。

ネッタイチョウ目 PHAETHONTIFORMES

ネッタイチョウ科 PHAETHONTIDAE

067. アカオネッタイチョウ *Phaethon rubricauda*

迷鳥。次の1例のみ。台風 (2004年第22号) で迷行したと思われる個体が保護され、野鳥病院へ収容されたが死亡。小根山森林公園資料館を経て県立自然史博物館へ収蔵された (標本番号 VA-1083)。

2004.10.10 高崎市榛名湖、幼鳥1羽保護 (群馬県野鳥病院)

068. シラオネッタイチョウ *Phaethon lepturus*

迷鳥。次の1例のみ。台風 (2009年第18号) で迷行したと思われる個体が保護され、野鳥病院へ収容されたが死亡。山階鳥類研究所へ寄贈された (標本番号 YIO-64520)。

2009.10.08 吉岡町大久保、幼鳥1羽保護 (群馬県野鳥病院)

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 COLUMBIDAE

074. キジバト *Streptopelia orientalis*

留鳥。記録・個体数ともに多い。県内に最も普通に生息する種の1つで、ほぼ全域に生息する（日本野鳥の会群馬 2014）。

075. シラコバト *Streptopelia decaocto*

過去に繁殖。県内では2群が知られている。1群目は1957年に高崎市で繁殖したが（卯木 1985）、その後は確認されていない。2群目は、1984年に館林市で観察され（飯塚 野の鳥 147）、主に板倉町の谷田川沿いなどで繁殖し、個体数が増加した。しかし、その後減少に転じ、2001年を最後に記録が途絶えた（野の鳥 230、日本野鳥の会群馬 2014）。その後は下記2例以外の記録はなく、現在では県内には生息しないと考えられる。1群目は籠脱け個体の可能性もあるが、2群目は埼玉県から分布を拡大してきた個体群と考えられる。本種は畜舎に依存していたため、畜舎の閉鎖などに伴って減少したと考えられる。

2006.06.07 明和町（本沢 群馬県鳥類目録）

2013.09.10 館林市、1羽撮影（TOM 本会 HP）

078. アオバト *Treron sieboldii*

留鳥。1980年代までは県南西部（多野地方）に局地的に生息していたが、1990年代後半からは県北部でも記録されるようになり、分布が拡大した。個体数はまだ少ないが、増加傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。本種はミネラル分補給のために海水を飲むことが知られている。県内では、海水の代わりに鉱泉水や化学工場の排水を利用したり、近年では牛糞などの堆肥場から流れ出る汚水を吸飲したりする例があり、このことが県内の分布を拡大できた一因である可能性が指摘されている（谷畑 私信）。

アビ目 GAVIIFORMES

アビ科 GAVIIDAE

081. アビ *Gavia stellata* 画像記録 081

迷鳥。次の5例があるが、撮影されたのは2014年の1例のみ。

1969.03.02 板倉町利根川（卯木 1985）

1971.12.25 太田市（尾島町）利根川（卯木 1985）

1984.11.21 高崎市鳴沢湖（割田 野の鳥 146）

1991.12.03 館林市多々良沼（堀口 野の鳥 189）

2014.02.19 館林市近藤沼、1羽撮影（田米開 野の鳥 323）

082. オオハム *Gavia arctica*

迷鳥。次の5例のみ。

2001.02.18 館林市多々良沼（太田 群馬県鳥類目録）

2005.04.03 渋川市真壁調整池、2005.05.02 終認（内田 群馬県鳥類目録）

2008.04.26 伊勢崎市坂東大橋（小茂田 野の鳥 288）

2009.06.11 伊勢崎市坂東大橋（小茂田 野の鳥 295）

2017.02.23 富岡市大塩湖、観察は2017.03.05まで（浅川 私信）

083. シロエリオオハム *Gavia pacifica* 画像記録 083

迷鳥。次の1例のみ（詳細は識別ノートを参照）。

2014.05.25 高崎市井野川、夏羽1羽、2014.06.30 終認（加代 本会 HP / 三井田 野の鳥 325）

ミズナギドリ目 **PROCELLARIIFORMES**
アホウドリ科 **DIOMEDEIDAE**

086. コアホウドリ *Phoebastria immutabilis*

迷鳥。次の1例のみ。八高線沿いの畑で保護され、野鳥病院から千葉県野鳥観察センターへ移送された（群馬県野鳥病院）。

2006.12.14 藤岡市、1羽保護（群馬県野鳥病院）

ミズナギドリ科 **PROCELLARIIDAE**

PU1. クビワオオシロハラミズナギドリ *Pterodroma cervicalis*

迷鳥。次の2例のみ。台風（1982年第10号）で迷行したと思われる個体が保護され、野鳥病院へ収容されたが死亡。1例目は小根山森林公園資料館を経て県立自然史博物館（標本番号VA-1597）に、2例目は山階鳥類研究所（標本番号YIO-00466 ただし、ラベルの採集日は08.02となっている）に収蔵されている。本種の同定に関しては日本野鳥の会群馬（2014）を参照。

1982.08.03 藤岡市藤岡西中学校、1羽保護（野の鳥133）

1982.08.06 太田市、1羽保護（卯木1985）（編注:08.02の可能性あり）

096. シロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca*

迷鳥。台風等による迷行で、下記の6例がある。いずれも保護記録。

1966.09.25 高崎市郊外（卯木1985）

1982.08.02 藤岡市（鬼石町）（山階鳥類研究所収蔵標本 YIO-00504）

1982.08.03 渋川市石原（野鳥病院 野の鳥132）

→山階鳥類研究所収蔵標本 YIO-00503 か？

1982.08.04 個人情報保護のため保護地非公開（山階鳥類研究所収蔵標本 YIO-00505）

1994.09.26 高崎市石原町（横堀 野の鳥207）

1994.10.01 県内だが保護地記載なし（桐生が岡動物園）

098. オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas*

不定期（旅鳥）。保護・観察記録が下記を含めて40例ほどある。3月～6月と9月～11月に記録があるが、秋の記録、特に11月の記録が最も多い。利根川・烏川沿い（伊勢崎市・太田市・前橋市・高崎市）と館林市多々良沼の記録がほとんどであるが、山間部の南牧村や太田市の市街地で拾得された例もある。発信器を利用した研究により、日本海の粟島で生まれた幼鳥が本州を横断して太平洋側へ移動することが明らかになった（Yoda *et.al* 2017）。このことから、本県における11月の記録は渡り途中の幼鳥である可能性が高い。

1974.09.11 吉井町、1羽保護し水戸で放鳥（県水産課 野の鳥85）

1992.11.17 南牧村星尾、1羽拾得（大森 野の鳥194）

2011.11.08 館林市多々良沼、1羽観察（太田 群馬県鳥類目録）

2018.11.08 太田市飯塚町、1羽拾得（深井 本会 HP）

110. アナドリ *Bulweria bulwerii*

迷鳥。次の1例のみ。保護されて野鳥病院へ収容されたが死亡。

1998.09.11 みどり市草木ダム、1羽保護（群馬県野鳥病院）

ウミツバメ科 HYDROBATIDAE

112. クロコシジロウミツバメ *Oceanodroma castro*
迷鳥。次の1例のみ。画像は未確認。台風（2013年第25号）による迷行と思われる個体が保護され、その後放鳥された。
2013.10.11 みどり市内、1羽保護後放鳥（桐生が岡動物園）
114. コシジロウミツバメ *Oceanodroma leucorhoa*
迷鳥。次の1例のみ。前日の低気圧通過に伴う迷行と思われる個体が保護された。保護飼育中、2006.10.09に飛去した。白い腰の中央に一筋の黒線があった（富岡・小茂田 群馬県鳥類目録）。
2006.10.07 伊勢崎市柴町、1羽保護（富岡・小茂田 群馬県鳥類目録）
116. クロウミツバメ *Oceanodroma matsudairae*
迷鳥。次の1例のみ。野鳥病院の収容リストに1990年の記録があり、その個体と思われる標本（標本番号 VA-1598）が県立自然史博物館に収蔵されている。保護日や場所などの詳細は、記録が失われており不明である。この他、本種の可能性がある展示標本（本剥製）が中之条町歴史と民俗の博物館にある。
1990. // . // 場所不明、1羽保護（群馬県野鳥病院）

コウノトリ目 CICONIIFORMES

コウノトリ科 CICONIIDAE

118. ナベコウ *Ciconia nigra*
迷鳥。次の1例のみ。
1990.11.18 伊勢崎市坂東大橋、成鳥1羽、1990.11.27終認（富岡 野の鳥 182）
119. コウノトリ *Ciconia boyciana*
迷鳥。次の1例のみ。このほか、2011年以降、放鳥個体の渡来が9例ある。
1986.12.28 伊勢崎市波志江沼、1羽が1週間ほど滞在（寒梅 野の鳥 159）

カツオドリ目 SULIFORMES

カツオドリ科 SULIDAE

123. アカアシカツオドリ *Sula sula*
迷鳥。次の1例のみ。台風（2004年第14号）による迷行と思われる個体が、太田市内の畑で保護され、桐生が岡動物園へ収容されたが翌日死亡。死体は生物多様性センターへ寄贈された。
2004.09.07 太田市東別所町、亜成鳥1羽（桐生が岡動物園）

ウ科 PHALACROCORACIDAE

127. カワウ *Phalacrocorax carbo*
留鳥。河川、湖沼に生息する。個体数は多い。本県では1990年頃より冬季に観察されるようになり、1994年以降は繁殖期にも観察されるようになった（日本野鳥の会群馬 2014）。その後、個体数が急激に増加したが、2000年頃を境に増加傾向は止まり、近年では増減があまりみられない。ただし、分布域は拡大し続けており、河川沿いに山間部・最上流部へも進出している（日本野鳥の会群馬 2014）。県

内では、みどり市高津戸ダムなど数ヶ所の繁殖地が知られている。

128. ウミウ *Phalacrocorax capillatus* 画像記録 128

迷鳥。2019年8月現在の記録は次の5例のみ。このうち、確実な識別ができたのは2018年の矢場池が最初の記録である。現時点では記録が少ないため迷鳥の扱いたが、栃木県や山梨県で有害鳥駆除されたカワウに複数回ウミウが混じっていたことや(福田 2012)、県内の記録が過去3年間に県南部の広範囲で記録されていることから、本県でも冬季にはカワウに混じって少数が生息している可能性がある。記録が少ないのは、カワウと誤認して見逃されているものと思われる。

- 1963.01.02 伊勢崎市(境町)利根川 (卯木 1985)
- 2017.02.11 館林市城沼、幼鳥1羽 (よっしー 本会 HP)
- 2018.12.13 藤岡市矢場池、幼鳥1羽 (関上 本会 HP)
- 2018.12.31 安中市妙義湖、幼鳥1羽 (深井 本会 HP)
- 2019.04.12 高崎市(新町)烏川、幼鳥1羽 (関上 本会 HP)

ペリカン目 PELECANIFORMES

サギ科 ARDEIDAE

132. サンカノゴイ *Botaurus stellaris* 画像記録 132

迷鳥。次の2例のみ。近年、栃木県渡良瀬遊水地では通年生息が確認されているため、今後、板倉町などで観察される可能性がある。

- 1959.07.29 中之条町野反湖 (卯木 1985)
- 2017.12.09 邑楽町(多々良沼)ガバ沼 (加藤 本会 HP)

133. ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*

夏鳥。ヨシ原や水田に生息する。個体数は減少している。主に館林市城沼や板倉町の谷田川で記録され、1990年代までは探鳥会で定期的に記録されていたが、2000年代に入ると探鳥会での記録が減少し、主要探鳥地での繁殖期の記録は2008年を最後に途絶えている(日本野鳥の会群馬 2014)。

134. オオヨシゴイ *Ixobrychus eurhythmus*

過去に繁殖。全国的に減少が著しい種である。1970年頃までは、高崎市岩鼻町のサギ類繁殖地周辺でヨシゴイとともに繁殖していた(野の鳥 55)。その後の観察例は下記の3例があるが、近年の生息状況は不明。

- 1976.04.18 板倉町板倉沼 (卯木 1985)
- 1977.04.17 板倉町谷田川 (卯木 1985)
- 1981.05.05 玉村町利根川 (卯木 1985)

137. ミゾゴイ *Gorsachius goisagi*

不定期(夏鳥)。低山の広葉樹林に生息するが個体数はとても少ない。1980年代までは探鳥会でも記録されていたが(13例、野の鳥 96ほか)、1990年代にはほとんど記録されなくなり(保護記録2例、桐生が岡動物園)絶滅が危惧された。近年は観察例が少し回復し、太田市、桐生市、高崎市、前橋市、安中市(松井田町)などで記録され、繁殖が確認された例もある。

139. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

留鳥。河川、湖沼などに生息する。個体数は多いが、近年は繁殖期の分布がやや

縮小傾向にあり、探鳥会での厳冬期の記録が減少している（日本野鳥の会群馬 2014）。全体的に、やや減少傾向にあるのかもしれない。繁殖地は渋川市や伊勢崎市など、数ヶ所が知られている。

141. ササゴイ *Butorides striata*

夏鳥。河川、湖沼などに生息するが多くない。高崎市内などで繁殖しているが、県内の分布はあまり広くなく、探鳥会の記録も 2000 年以降減少している（日本野鳥の会群馬 2014）。

142. アカガシラサギ *Ardeola bacchus*

迷鳥。次の 5 例のみ。

1986.11.30 伊勢崎市坂東大橋、冬羽 1 羽（堀口 野の鳥 159、小茂田 群馬県鳥類目録）

1997.10.17 前橋市(大胡町)、冬羽もしくは幼鳥 1 羽保護（桐生が岡動物園）

2007.06.16 前橋市二宮町、夏羽 1 羽・越夏（深井 野の鳥 285）

2015.11.13 伊勢崎市伊与久沼、1 羽越冬、翌年 4 月まで（浅川 私信）

2016.10.16 伊勢崎市伊与久沼、1 羽越冬、翌年 5 月まで（浅川 私信）

※2019.09.23 にも伊勢崎市稲荷町で 1 羽が観察撮影された（浅川 私信）

143. アマサギ *Bubulcus ibis*

夏鳥。平野部の水田などに生息するが多くない。探鳥会では 1990 年代中頃より記録が減少し、2008 年以降は繁殖期の記録が途絶えている（日本野鳥の会群馬 2014）。県内の繁殖コロニーでは、近年、本種の繁殖はごくわずかに知られているのみで、秋に観察される渡りの群れがどこで繁殖した個体なのかは不明である。

144. アオサギ *Ardea cinerea*

留鳥。県内では、1980 年代までは冬鳥であったが、1990 年代前半から繁殖期にも観察されるようになり、個体数・分布域とも著しく増加・拡大した（日本野鳥の会群馬 2014）。近年では、県内数ヶ所で繁殖が知られている。

145. ムラサキサギ *Ardea purpurea*

迷鳥。次の 3 例がある。このほか、採集年月日・場所不明の標本（標本番号 VA-1580）が小根山コレクションとして県立自然史博物館に収蔵されており、また、玉村町五料橋付近での記録（卯木 1985）もある。

1957.09.12 高崎市群馬の森付近（卯木 1985）

1997.11.27 館林市多々良沼、1 日のみの滞在（太田 群馬県鳥類目録）

2008.10.15 板倉町、1 羽撮影、2 週間程度滞在（日向野 群馬県鳥類目録）

146. ダイサギ *Ardea alba*

146-1 亜種ダイサギ *A. a. alba*

不定期（冬鳥）。個体数も少ない。探鳥会や個人観察、各調査の記録では亜種を区別していないことが多く、生息状況や増減の詳細は不明である。

146-2 亜種チュウダイサギ *A. a. modesta*

留鳥・一部夏鳥。県内で繁殖期に観察されるのは本亜種である。個体数・分布は、アオサギほどではないが、増加・拡大している（日本野鳥の会群馬 2014）。県内では前橋市など数ヶ所で繁殖コロニーが知られている。

147. チュウサギ *Egretta intermedia*

夏鳥。平野部の水田などに生息するが多くない。探鳥会の記録では、2000年頃より記録が減少し、2008年以降は繁殖期の記録が途絶えている（日本野鳥の会群馬 2014）。県内の近年の繁殖状況については情報がほとんどなく、詳細は不明。

148. コサギ *Egretta garzetta*

留鳥。かつては最も普通に観察されるシラサギ類であったが、2000年頃より個体数が著しく減少し、分布も縮小している（日本野鳥の会群馬 2014）。他のサギ類同様に、繁殖コロニーが悪臭と騒音によって嫌われて排除される人為的な影響のほか、餌資源で競合するアオサギやダイサギ、カワウの増加も本種が減少した一因である可能性が指摘されている（浅川 2008）。

トキ科 THRESKIORNITHIDAE

153. ヘラサギ *Platalea leucorodia*

迷鳥。次の2例のみ。

2004.10.18 館林市多々良沼（斉藤 野の鳥 267）

2014.04.08 館林市多々良沼（島田 本会 HP）

154. クロツラヘラサギ *Platalea minor*

迷鳥。次の3例のみ。

1984.09.30 千代田町利根川（堀口 野の鳥 146）

1987.12.29 伊勢崎市坂東大橋（久保田 野の鳥 165）

1987.12.27 に埼玉県側で初認

1988.01.31 にも撮影（柴田 野の鳥 166）

2011.11.23 館林市多々良沼（太田 群馬県鳥類目録）

ツル目 GRUIFORMES

ツル科 GRUIDAE

158. タンチョウ *Grus japonensis*

迷鳥。次の1例のみ。宮城県伊豆沼に渡来した個体が北陸へ移動し、本県にも渡来した。その後、渡良瀬遊水地へ移動したが、そこから先は消息不明となった。脇の小黒斑で個体識別されていた（卯木 1985）。

1975.03.26 高崎市岩鼻烏川、1羽観察、翌朝まで（卯木 1985、野の鳥 135）

160. ナベヅル *Grus monacha*

迷鳥。次の1例のみ。

1998.02.08 伊勢崎市坂東大橋、幼鳥1羽、02.15にも観察（富岡 野の鳥 227）

クイナ科 RALLIDAE

166. クイナ *Rallus aquaticus*

冬鳥・一部留鳥。県内各地で記録があるが、館林市城沼と館林市多々良沼で冬季に観察された記録が多く、主に冬鳥と考えられる。繁殖期の記録は、片品村、館林市、太田市、千代田町で少なくとも下記の8例があり、一部は片品村尾瀬ヶ原や平野部の湿地で繁殖していると考えられる。

1978.05.23 片品村尾瀬ヶ原（卯木 1985）

1983.05.23 片品村尾瀬ヶ原（高橋 野の鳥 138）

- 1992.05.03 館林市城沼 (探鳥会)
- 1996.05.10 太田市 (メッシュ調査 7-5)
- 1996.05.19 千代田町 (メッシュ調査 7-5)
- 2009.05.03 館林市茂林寺沼 (探鳥会)
- 2011.06.19 館林市多々良沼 (メッシュ調査 10-5)
- 2017.05.04 館林市多々良沼、毎日のように姿を見せる (加藤 本会 HP)

167. シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus*

- 迷鳥。次の 1 例のみ。
2010.08.13 板倉町大曲、1 羽 (松本 群馬県鳥類目録)

168. ヒメクイナ *Porzana pusilla*

迷鳥。次の 5 例がある。このほか、観察年月日が不明であるが、片品村尾瀬で繁殖期の記録がある (高橋 1978)。

- 1973.01.02 玉村町五料橋 (卯木 1985)
- 1981.11.23 高崎市(榛名町)下室田 (卯木 1985)
- 1984.09.16 千代田町赤岩 (堀口 野の鳥 146)
- 1993.09.12 玉村町飯塚 (水村 野の鳥 201)
- 2011.10.19 富岡市富岡、1 羽保護。死体は山階鳥類研究所へ寄贈された (標本番号 YIO-65533)。

170. ヒクイナ *Porzana fusca*

不定期 (夏鳥)。平野部の記録が多いが、安中市や渋川市、東吾妻町(吾妻町)、片品村尾瀬での記録もある。東日本では減少が著しい種であり、県内でも 1980 年代後半から観察記録が減少した。1990 年代にはごく稀に記録されるだけになり、2000 年代には記録が途絶えていたが、近年、また稀に観察されるようになり、繁殖も確認された。さらに、2019 年には越冬期の記録も得られた。

- 2010.08.12 太田市沖之郷 (田中 野の鳥 302)
- 2012.10.11 館林市多々良沼 (井上 野の鳥 314)
- 2016.06.26 邑楽町、囀り 1 羽 (深井 本会 HP、メッシュ調査 11-5)
- 2019.02.15 館林市多々良沼、1 羽 (加藤 本会 HP)
- 2019.07.17 館林市多々良沼、幼鳥 1 羽 (加藤 本会 HP)

174. バン *Gallinula chloropus*

留鳥。平野部の水田や湿地、池沼に普通に生息し、繁殖している。2000 年頃までは個体数が増加していたが、その後は大きな変化は見られない (日本野鳥の会群馬 2014)。

175. オオバン *Fulica atra*

冬鳥・一部留鳥。湖沼や湿地に生息する。バンより広い水面を持つ環境を好む。少なくとも 1980 年代から繁殖期にも記録され、少数が繁殖していた。越冬期には個体数が増加する。

カッコウ目 CUCULIFORMES

カッコウ科 CUCULIDAE

184. ジュウイチ *Hierococcyx hyperythrus*

夏鳥。山地の森林に生息する。個体数はもともと多くなかったが、最近 20 年間

は継続的な減少傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

185. ホトトギス *Cuculus poliocephalus*

夏鳥。森林や林縁部、開けた林に広く分布する。メッシュ調査からは個体数や県内の分布に大きな変化はみられないが、探鳥会の記録は減少傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

186. セグロカッコウ *Cuculus micropterus*

迷鳥。次の 1 例のみ。

2017.06.05 渋川市伊香保森林公園（斎藤 本会 HP）

187. ツツドリ *Cuculus optatus*

夏鳥。森林に生息する。個体数は減少しており、分布域も縮小している。探鳥会の記録も減少傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

188. カッコウ *Cuculus canorus*

夏鳥。平野部、丘陵部から亜高山帯までの、林縁部、草原、河川敷、市街地など、広範囲に生息する。個体数は著しく減少しており、分布域も縮小している。特に標高 500m 前後の山地帯下部と丘陵部での減少が著しい。かつては市街地への進出で分布が拡大した時期もあったが、現在では、市街地でも減少しているように思われる（日本野鳥の会群馬 2014）。

ヨタカ目 **CAPRIMULGIFORMES**

ヨタカ科 **CAPRIMULGIDAE**

189. ヨタカ *Caprimulgus indicus*

夏鳥。疎林や若齢の植林地などに生息する。全国的に減少している種である。夜行性のため、探鳥会やメッシュ調査では記録が得られにくく、生息状況の詳細は不明である。高崎市観音山の観察例では、1960 年頃は観音像の夜間照明に集まる蛾を捕食するため、4~7 羽のヨタカが飛んでいたが、1970 年頃には減少し、その後は観音山全体を歩いてもほとんど記録できなくなった（卯木 2013a）。県内各地でごく普通に記録された種であったが、支部報・会報へ寄せられた記録は、2000 年以降著しく少なくなっている。

アマツバメ目 **APODIFORMES**

アマツバメ科 **APODIDAE**

191. ハリオアマツバメ *Hirundapus caudacutus*

夏鳥。亜高山帯の針広混交林や落葉広葉樹林に生息する。繁殖期には山岳地帯以外では観察されることは稀であるが、渡りの時期には平野部でも記録されることがある。みどり市(笠懸町)琴平山は渡りのルートとなっている可能性が指摘される（水野 2000）、また、1992.10.05 に桐生市自然観察の森で大きな群れが観察された例もある（桐生市自然観察の森 野の鳥 194）。

192. アマツバメ *Apus pacificus*

夏鳥。山地帯から亜高山帯に生息し、崖地に営巣する。天候が悪いときには標高が低い地域でも観察されることがあり、ハリオアマツバメより記録が多い。渡りの時期には群れで観察される。

193. ヒメアマツバメ *Apus nipalensis*

留鳥。県内では、1992.01.01 に高崎市で4羽観察された（谷畑 野の鳥 189）のが最初の記録である。1992.03.28 には高崎市の新幹線高架付近でイワツバメに混じっているのが観察され（馬場 野の鳥 190）、翌年には伊勢崎市坂東大橋や高崎市観音山でも観察された（千嶋 野の鳥 198、探鳥会 野の鳥 201）。1997年以降は毎年記録されるようになり、おそらくこの頃から県内でも繁殖するようになったと考えられる。2002年には高崎市双葉町で新幹線高架下のイワツバメの古巣で繁殖したと考えられる観察例が得られ、その後も継続的に繁殖している（2019年現在、谷畑 私信）。また、2014年には前橋市紅雲町で複数個体の繁殖が確認されたが（前橋市 2014）、その数年後には建物の外壁塗装工事によって繁殖コロニーが消滅した（深井 私信）。

チドリ目 CHARADRIIFORMES

チドリ科 CHARADRIIDAE

194. タゲリ *Vanellus vanellus*

冬鳥。主に平野部の休耕田や河川敷などに生息する。小群でいることが多いが、板倉町で120羽（富岡 野の鳥 268）、千代田町で100羽（井上 野の鳥 176）の記録もある。

195. ケリ *Vanellus cinereus*

冬鳥・一部留鳥。主に平野部の休耕田や河川敷などに生息する。以前はタゲリと同様に冬鳥であり、稀な種であった（卯木 1985）。1980年代後半から繁殖期にも少数が記録されるようになり、1992.08.09には館林市田谷東で成鳥2羽と雛2羽が観察された（新藤 野の鳥 194）。その後も、板倉町から館林市にかけての水田地帯で繁殖しており、2001年には最大で122羽が観察された（井上 野の鳥 251）。冬季は個体数が減少する（井上 2002）ことから、この地域の個体の一部は他所へ移動するものと考えられる。現在の繁殖状況は不明。

197. ムナグロ *Pluvialis fulva*

旅鳥。主に平野部の休耕田や河川敷などに渡来する。渡来のピークは8月中旬から下旬であり、個体数はコチドリについて2番目に多い。個体数の経年変化は、やや増加傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

199. ダイゼン *Pluvialis squatarola*

不定期（旅鳥）・一部冬鳥。主に平野部の休耕田や河川敷などに数羽が渡来するが少ない。かつては少数が玉村町五料橋付近で越冬していた（卯木 1985）。

200. ハジロコチドリ *Charadrius hiaticula*

迷鳥。次の3例のみ。

1985.09.16 伊勢崎市坂東大橋（小茂田 群馬県鳥類目録）

1993.12.30 伊勢崎市坂東大橋（千嶋 野の鳥 203）

2005.08.09 館林市多々良沼（太田 野の鳥 272）

202. イカルチドリ *Charadrius placidus*

留鳥。河川敷や休耕田などに生息し、河川の上流部まで生息する。近年は個体数が減少しており、分布も縮小傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。河川敷の砂礫

地が減少したり、草地化したりすることで、生息適地が減少していることが一因であると考えられる。

203. コチドリ *Charadrius dubius*

留鳥。休耕田や河川敷、造成地をはじめ、未舗装の駐車場などでも繁殖する。河川沿いでは、イカルチドリよりやや下流側に生息する。個体数や分布には特に変化はみられないが、近年、探鳥会での繁殖期の記録が減少している（日本野鳥の会群馬 2014）。

204. シロチドリ *Charadrius alexandrinus*

不定期（通年）。河川敷や造成地などに生息する。河川沿いでは、コチドリよりさらに下流側に生息する。個体数は少ない。近年、探鳥会では繁殖期の記録が途絶えている（日本野鳥の会群馬 2014）。

205. メダイチドリ *Charadrius mongolus*

迷鳥。記録は下記を含めて 6 例のみ。

1972.05.03 板倉町谷田川（卯木 1985）

1992.09.06 伊勢崎市坂東大橋、4 羽（小茂田、野の鳥 194）

2010.04.23 伊勢崎市坂東大橋、1 羽（富岡 野の鳥 300）

206. オオメダイチドリ *Charadrius leschenaultii*

迷鳥。次の 3 例のみ。

1998.05.31 板倉町、1 羽（井上 野の鳥 229）

2004.04.19 伊勢崎市坂東大橋、1 羽（富岡 野の鳥 264）

2010.04.23 伊勢崎市境島村利根川、2 羽（富岡 野の鳥 300）

207. オオチドリ *Charadrius veredus*

迷鳥。次の 1 例のみ。野鳥の会埼玉会報「しらこぼと」には、白黒写真と識別点の解説が掲載されている。

2007.10.16 伊勢崎市坂東大橋、10 羽（しらこぼと 286）

ミヤコドリ科 **HAEMATOPODIDAE**

209. ミヤコドリ *Haematopus ostralegus*

迷鳥。次の 1 例のみ。画像等はない。

2016.10.07 孺恋村田代湖、上空を飛翔する 1 羽を観察（野鳥の会吾妻 2017）

セイタカシギ科 **RECURVIROSTRIDAE**

210. セイタカシギ *Himantopus himantopus*

不定期（旅鳥）。休耕田や河川敷などに渡来する。個体数は少ない。1979.04.05 に玉村町五料橋で成鳥 1 羽が観察された（田口 野の鳥 112）のが最初の記録である。1990 年頃からはほぼ毎年、あるいは隔年程度で観察されるようになった。1990 年に千代田町で繁殖したとされるが（野の鳥 180）、6 月末の時点で幼鳥がすでに体羽を換羽して幼羽が残っていないことから、当地で繁殖したとするには疑問が残る。県内では長期間滞在することはなく、確実な繁殖記録はない。

シギ科 **SCOLOPACIDAE**

212. ヤマシギ *Scolopax rusticola*

冬鳥・一部留鳥。落葉広葉樹林などに生息し、休耕田などでも見られる。夜行性のため観察記録は少ない。県内では低山帯から山地帯で繁殖するが（卯木 1985）、詳しい状況は不明。冬季は平野部でも観察される。

214. コシギ *Lymnocyptes minimus*

迷鳥。次の1例のみ。詳しい観察状況等は不明。

1977.10.12 安中市郊外（卯木 1985）

215. アオシギ *Gallinago solitaria* 画像記録 207

不定期（冬鳥）。個体数はごく少ない。山間の溪流や湿地などに生息するとされるが、県内の生息状況はよくわかっていない。2013年に識別可能な写真が撮影された。

1980.04.21 伊勢崎市利根川（卯木 1985）

1984.03.25 嬭恋村（卯木 1985）

2007.12.09 前橋市おおさる山乃家（片岡 野の鳥 286）

2010.04.11 前橋市富士見町さくらの広場、1羽（探鳥会）

2013.01.16 前橋市富士見町箕輪、1羽撮影（神宮 野の鳥 316）

216. オオジシギ *Gallinago hardwickii*

夏鳥。やや標高の高い草地、農耕地などに生息し、渡りの時期には平野部の河川敷や湿地でもみられる。個体数は少ない。かつては嬭恋村浅間山、片品村尾瀬ヶ原、下仁田町神津牧場等の高原のほか、榛名山東面の榛東村相馬ヶ原でも繁殖していたが（卯木 1985）、現在、確実な繁殖記録があるのは片品村尾瀬ヶ原だけである（卯木 2013b）。

217. ハリオシギ *Gallinago stenura*

迷鳥。次の4例がある。最初の2例は、観察状況などの詳細は不明。3例目は画像がある（水村 野の鳥 194）。この画像には確実な識別点である外側尾羽が写っていないが、嘴の長さや全体的なプロポーションなどに本種の特徴を有している。4例目は、特徴的な外側尾羽を確認したスケッチがあるという（千嶋 群馬県鳥類目録）。

1959.05.05 伊勢崎市長沼町利根川（卯木 1985）

1964.09.02 玉村町五料橋（卯木 1985）

1992.09.13 前橋市朝倉町、1羽撮影（水村 野の鳥 194）

1993.04.11 伊勢崎市坂東大橋、1羽観察（千嶋 群馬県鳥類目録）

218. チュウジシギ *Gallinago megala*

不定期（旅鳥）。下記のほか、本種と考えられる観察記録が複数ある（千嶋・深井 群馬県鳥類目録）。本種は野外識別が困難なため、県内への渡来状況は不明であるが、シギチドリ調査では、オオジシギの渡来時期が過ぎた後にもタシギ以外のジシギ類が一定数記録されているため（日本野鳥の会群馬 2014）、少なからず渡来している可能性がある。

1966.05.19 館林市茂林寺沼（卯木 1985）

1973.04.29 伊勢崎市利根川（卯木 1985）

1997.10.20 伊勢崎市上植木本町、保護（桐生が岡動物園）

219. タシギ *Gallinago gallinago*

冬鳥。休耕田や湿地、池沼などに生息する。個体数は多い。

221. オオハシシギ *Limnodromus scolopaceus*
 不定期（旅鳥）・一部冬鳥。個体数は少ない。かつては旅鳥として稀に渡来した
 だけであったが、1996～2012年にはほぼ毎年、館林市多々良沼で越冬していた。
 2000年には4羽が記録されたが（太田 野の鳥 239）、それ以外の年は単独か2羽
 の記録である。近年の確実な越冬記録はない。
223. オグロシギ *Limosa limosa*
 不定期（旅鳥）。休耕田や湿地に少数が渡来する。卯木（1979）には36羽が群
 飛する写真が掲載されており、かつては群れで渡来することもあったが、近年では
 数羽が稀に記録されるに過ぎない。
225. オオソリハシシギ *Limosa lapponica*
 不定期（旅鳥）。河川や池沼に渡来する。海岸沿いの干潟などに生息し、内陸で
 は稀な種である。記録は下記を含めて7例で、迷鳥に準ずる。
 1978.09.15 伊勢崎市利根川、1羽（田口 野の鳥 109）
 1996.10.15 館林市多々良沼、3羽（太田 野の鳥 219）
226. コシャクシギ *Numenius minutus*
 迷鳥。次の2例のみ。
 1993.10.03 伊勢崎市西上之宮、2羽（深井 野の鳥 200）
 2001.04.17 板倉町渡良瀬遊水地周辺（井上 野の鳥 246）
227. チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*
 不定期（旅鳥）。河川や池沼、休耕田などに少数が渡来する。本種は主に海岸沿
 いの干潟などに生息し、内陸では少ない。記録は下記を含めて15例ある。
 1982.05.01 館林市多々良沼、2羽（堀口 野の鳥 131）
 2003.09.20 伊勢崎市東上之宮、1羽（吉村 野の鳥 260）
 2008.05.10 伊勢崎市境島村利根川、1羽（富岡 野の鳥 288）
230. ダイシャクシギ *Numenius arquata*
 迷鳥。次の3例のみ。
 1985.09.15 伊勢崎市坂東大橋（探鳥会 野の鳥 152）
 1998.09.13 玉村町（吉村 群馬県鳥類目録）
 1998.11.02 館林市多々良沼（井上 野の鳥 232）
231. ホウロクシギ *Numenius madagascariensis*
 迷鳥。次の3例のみ。
 1991.09.01 伊勢崎市坂東大橋（富岡 野の鳥 187）
 2013.09.09 伊勢崎市稲荷町（谷畑 2013）
 2017.08.26 伊勢崎市稲荷町（三井田 本会 HP）
232. ツルシギ *Tringa erythropus*
 不定期（旅鳥）・一部冬鳥。休耕田や池沼に渡来するが少ない。館林市多々良沼
 では越冬例もある。
233. アカアシシギ *Tringa totanus*
 迷鳥。次の5例があるが、いずれも画像等は未確認。
 1979.08.17 玉村町五料橋、1羽（田口 野の鳥 115）
 1979.09.23 玉村町五料橋、冬羽1羽（田口・一倉 野の鳥 115）

1998.11. // 伊勢崎市広瀬川 (田澤 群馬県鳥類目録)
2005.10.15 館林市多々良沼 (太田 群馬県鳥類目録)
2007.11.13 館林市多々良沼 (井上 野の鳥 286)

234. コアオアシシギ *Tringa stagnatilis*
旅鳥。休耕田や池沼などに渡来する。定期的に観察されるが個体数は少ない。
235. アオアシシギ *Tringa nebularia*
旅鳥。河川や池沼、休耕田などに渡来する。普通に観察されるが、2000年頃より、渡来数はゆるやかな減少傾向にある (日本野鳥の会群馬 2014)。
239. クサシギ *Tringa ochropus*
旅鳥・一部冬鳥。河川や池沼、休耕田などに渡来する。渡りの時期に観察されるが、少数は県内で越冬する。
240. タカブシギ *Tringa glareola*
旅鳥。休耕田や河川、池沼などに渡来する。普通に観察され、個体数も少ない。
241. キアシシギ *Heteroscelus brevipes*
旅鳥。河川や池沼などに渡来する。秋の休耕田での調査結果からみると、県内への渡来数は著しく減少している (日本野鳥の会群馬 2014)。
243. ソリハシシギ *Xenus cinereus*
不定期 (旅鳥)。河川や池沼、休耕田などに渡来するが少ない。
244. イソシギ *Actitis hypoleucos*
留鳥。河川や湖沼、湿地などに生息し、平野部に多いが、河川に沿って上流部まで生息する。繁殖期の個体数は著しく減少しており、秋の休耕田の調査でも減少傾向にある (日本野鳥の会群馬 2014)。河川敷などにおける生息環境が急速に悪化しているものと考えられる。
246. キョウジョシギ *Arenaria interpres*
不定期 (旅鳥)。河川や池沼に渡来する。かつては群れで渡来し個体数も多かったが (卯木 1985)、現在では稀に少数が渡来するに過ぎない。
247. オバシギ *Calidris tenuirostris*
不定期 (旅鳥)。河川や池沼、休耕田などに渡来した記録が下記を含めて 13 例ある。本種は主に海岸沿いの干潟などに生息し、内陸では稀な種である。
1978.09.15 伊勢崎市利根川、2羽 (田口 野の鳥 109)
1992.08.30 前橋市東部、3羽 (一倉 野の鳥 193)
2009.09.01 伊勢崎市稲荷町、1羽 (富岡 野の鳥 296)
248. コオバシギ *Calidris canutus*
迷鳥。次の 4 例があるが、いずれも画像等は未確認。
1998.09.12 前橋市新堀町 (竹内 野の鳥 230)
1999.11.21 館林市多々良沼 (探鳥会 野の鳥 238)
2003.02.09 館林市多々良沼 (探鳥会 野の鳥 257)
2003.08.30 高崎市栗崎町 (葛生 野の鳥 260)

251. トウネン *Calidris ruficollis*
 旅鳥。休耕田や湿地などに渡来する。普通に観察されるが、渡来数はゆるやかな減少傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。
252. ヨーロッパトウネン *Calidris minuta*
 迷鳥。次の 1 例のみ。本種はトウネン *C. ruficollis* との識別が問題となることが多いが、撮影された画像から、トウネンとの比較上、脛部が長くて胴が短めであること、背の白色の V 字模様が明瞭であること、ほぼ全ての雨覆や三列風切の羽縁に赤みがあること、胸部が白色であることなど、典型的な本種の幼鳥の特徴を有していた（日本野鳥の会群馬 2014）。
 2010.10.31 館林市多々良沼、幼鳥 1 羽が 1 日だけ滞在（太田 群馬県鳥類目録）
253. オジロトウネン *Calidris temminckii*
 旅鳥・一部冬鳥。休耕田や河川、池沼などに渡来する。定期的に渡来するが、個体数は少ない（日本野鳥の会群馬 2014）。一部の個体は越冬している。
254. ヒバリシギ *Calidris subminuta*
 旅鳥。休耕田や湿地などに渡来する。定期的に渡来するが、個体数は少ない（日本野鳥の会群馬 2014）。
257. アメリカウズラシギ *Calidris melanotos*
 不定期（旅鳥）。休耕田や池沼に渡来する。記録は下記を含む 10 例がある。
 1992.09.23 伊勢崎市鹿島町（千嶋 野の鳥 194）
 2010.09.12 伊勢崎市稲荷町（富岡 野の鳥 302）
258. ウズラシギ *Calidris acuminata*
 旅鳥。休耕田や湿地などに渡来する。定期的に渡来するが、個体数は少ない（日本野鳥の会群馬 2014）。
259. サルハマシギ *Calidris ferruginea*
 迷鳥。次の 5 例のみ。
 1979.08.20 玉村町五料橋、1 羽（田口 野の鳥 115）
 1979.09.16 伊勢崎市坂東大橋（探鳥会 野の鳥 116）
 1993.09.23 玉村町、1 羽（水村 野の鳥 201）
 1999.09.29 館林市多々良沼、1 羽（太田 群馬県鳥類目録）
 2002.05.25 伊勢崎市坂東大橋、夏羽 1 羽（小茂田 野の鳥 252）
261. ハマシギ *Calidris alpine*
 旅鳥・一部冬鳥。河川や池沼などに渡来する。かつては多数が渡来し、玉村町五料橋付近では毎年 200 羽程度が越冬していた（卯木 1985）。1994.05.04 に伊勢崎市坂東大橋で 350 羽（富岡 野の鳥 205）、2007.11.13 に館林市多々良沼で 80 羽（井上 野の鳥 286）という記録もあるが、近年ではこのような群れが観察されることはほとんどなくなった。県内の渡来数は著しく減少している（日本野鳥の会群馬 2014）。
263. ヘラシギ *Eurynorhynchus pygmeus*
 迷鳥。次の 3 例のみ。画像等は未確認。
 1977.05.03 渡良瀬川（卯木 1985）
 1982.04.29 玉村町利根川（卯木 1985）

1985.09.15 板倉町渡良瀬遊水地群馬県側 (森野 野の鳥 150)

264. キリアイ *Limicola falcinellus*

不定期 (旅鳥)。河川や池沼、休耕田などに渡来した記録が下記を含めて 13 例ある。

1978.09.07 伊勢崎市利根川、4 羽 (田口 野の鳥 109)

2007.08.24 伊勢崎市・前橋市 (一倉 群馬県鳥類目録)

2017.08.27 伊勢崎市稲荷町 (関上 本会 HP)

266. エリマキシギ *Philomachus pugnax*

旅鳥。休耕田や河川、池沼などに渡来する。定期的に渡来するが個体数は多くない。

268. アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus*

旅鳥。外洋や砂浜、海岸に生息するため、悪天候などのときに内陸に飛来することがある。県内では休耕田や河川、湖沼に生息し、数羽のことが多いが、100 羽程度以上の群れが飛来することもある。

1993.05.14 前橋市桃の木川、200 羽 (千嶋 野の鳥 198)

2002.09.14 伊勢崎市稲荷町、92 羽 (富岡 野の鳥 254)

2010.09.23 みどり市桐生競艇場、約 1,000 羽 (関東開発株式会社 群馬県鳥類目録)

2012.09.23 下仁田町、約 100 羽 (岡野ほか 野の鳥 314)

269. ハイイロヒレアシシギ *Phalaropus fulicarius*

不定期 (旅鳥)。外洋に生息し、稀に内陸に飛来する。県内では下記を含む 12 例の記録がある。

1984.05.01 館林市多々良沼、1 羽 (堀口 野の鳥 144)

1992.05.18 高崎市碓氷川、3 羽 (割田 野の鳥 19)

2012.04.14 伊勢崎市境島村利根川、23 羽 (小茂田 野の鳥 312)

2012.04.27 安中市碓氷川、9 羽 (岩田 野の鳥 312)

レンカク科 JACANIDAE

270. レンカク *Hydrophasianus chirurgus* 画像記録 270

迷鳥。次の 1 例のみ。

2014.10.14 館林市多々良沼、冬羽 1 羽 (鯨井 私信)

タマシギ科 ROSTRATULIDAE

271. タマシギ *Rostratula benghalensis*

不定期 (通年)。主に平野部の水田や休耕田、湿地などに生息する。1990 年代までは雛の観察例も多かったが、近年は繁殖を示す記録がほとんど得られていない。秋の調査では、個体数は減少傾向にある (日本野鳥の会群馬 2014)。

ツバメチドリ科 GLAREOLIDAE

273. ツバメチドリ *Glareola maldivarum*

不定期 (夏鳥)。主に河川敷や休耕田に生息する。県内では、1978 年の利根川の記録が最初である。1980 年代から 2000 年代前半までは伊勢崎市坂東大橋下流を中心に記録が多く、繁殖も確認された。近年は観察例が減少したが、それでも稀に

複数羽が観察されており、繁殖が継続している可能性もある。コアジサシのコロニー内あるいは近隣で営巣するため、コアジサシ同様、河川敷の繁殖環境を整備することで個体数を回復できる可能性がある。尾瀬ヶ原での記録も1例ある。

- 1978.09.30 伊勢崎市利根川、1羽 (田口 野の鳥 109)
- 1984.06.17 伊勢崎市利根川、5羽 (小茂田 野の鳥 144)
- 1992.06. // 伊勢崎市坂東大橋、成鳥 10羽、巣立雛 18羽 (しらこぼと 111)
- 1998.05.31 伊勢崎市上武大橋、1巣確認 (富岡 野の鳥 229)
- 2002.06.25 太田市利根川・早川合流点、雛確認 (金子 野の鳥 253)
- 2009.05.15 伊勢崎市境島村利根川、8羽 (富岡 野の鳥 294)
- 2009.10.03 館林市多々良沼、7羽 (太田 野の鳥 296)
- 2014.08.02 片品村尾瀬ヶ原上田代、1羽 (三井田 私信)

カモメ科 LARIDAE

277. シロアジサシ *Gygis alba*

迷鳥。次の1例のみ。台風(1998年第5号)による迷行と思われる個体が保護されたが死亡(桐生が岡動物園)。画像・標本等はない。

- 1998.09.16 館林市緑町、成鳥1羽保護(桐生が岡動物園)

278. ミツユビカモメ *Rissa tridactyla*

不定期(冬鳥)。冬季、河川や池沼にごく稀に渡来する。記録は下記を含めて8例のみで、迷鳥に準ずる。ほとんどが単独の記録である。

- 1958.02.19 板倉町利根川(卯木 1985)
- 1995.03.18 伊勢崎市坂東大橋、成鳥4羽(小茂田 野の鳥 209)
- 2000.03.04 館林市多々良沼(太田 野の鳥 239)

286. ユリカモメ *Larus ridibundus*

冬鳥。主に平野部の河川や池沼に渡来するが、沼田市(斎藤 野の鳥 129)や沼田市玉原高原(探鳥会)での記録もある。個体数は数羽であることが多いが、1979.11.18に伊勢崎市坂東大橋で100羽(谷畑 野の鳥 116)という記録もある。

293. ウミネコ *Larus crassirostris*

旅鳥・一部冬鳥。主に平野部の河川や池沼に渡来するが、前橋市(富士見村)赤城大沼(深井 野の鳥 206)や嬭恋村バラキ湖(阪本 野の鳥 237)など、高標高地での記録も稀にある。個体数は単独か数羽のことが多いが、15羽(浅川 野の鳥 134)という記録もある。

294. カモメ *Larus canus*

不定期(旅鳥)。主に平野部の河川や池沼で、下記を含む19例の記録がある。

- 1979.02.25 伊勢崎市坂東大橋(探鳥会 野の鳥 112)
- 1993.11.07 伊勢崎市内、成鳥1羽(小茂田 野の鳥 201)
- 2007.02. // 伊勢崎市広瀬川(田澤 群馬県鳥類目録)

296. シロカモメ *Larus hyperboreus* 画像記録 296

迷鳥。次の1例のみ。

- 2012.04.14 伊勢崎市境島村利根川、幼鳥1羽(小茂田 野の鳥 312)

299. セグロカモメ *Larus argentatus*

冬鳥。主に平野部の河川や池沼で記録されるが、沼田市(斎藤 野の鳥 129)や

下仁田町（阪本 野の鳥 297）といった山間部での記録もある。個体数は数羽のことが多いが、20羽（小茂田 野の鳥 203）という記録もある。

301. オオセグロカモメ *Larus schistisagus*

不定期（旅鳥）。主に平野部の河川で記録があるが少ない。1995.03.18に伊勢崎市坂東大橋で成鳥6羽の記録がある（小茂田 野の鳥 209）。

PU2. タイミルセグロカモメ *Larus sp. "taimyrensis"* (ニシセグロカモメ × セグロカモメ) 画像記録 PU2

不定期（冬鳥）。ニシセグロカモメ *L. fuscus* とセグロカモメ *L. vegae* の雑種とされるが（日本鳥学会 2012）、ニシセグロカモメの亜種 *L. f. heuglini* を独立種とし、その亜種 *L. h. taimyrensis* とされることもある（Olsen & Larsson 2003）。2017年4月に多々良沼で成鳥冬羽1羽が観察・撮影された（加藤 本会 HP）。それ以降、多々良沼で毎冬、観察・撮影されている（加藤 本会 HP）。

307. コアジサシ *Sterna albifrons*

夏鳥。主に平野部の河川や池沼に生息する。中洲や河川敷で繁殖するが、工業用造成地で繁殖した記録もある（深井 野の鳥 313）。1990年代頃までは伊勢崎市坂東大橋周辺や前橋市大渡橋周辺など、利根川の中洲に繁殖コロニーがみられたが、2000年代後半からは大きなコロニーはほとんどみられなくなった。中洲や河川敷の砂礫地が草地化することで繁殖適地が減少したり、河川レジャーなどで人によって繁殖が攪乱されたり、オオタカ（小茂田 群馬県鳥類目録）やカラスなどによる捕食が減少の要因であると考えられる。東京都森ヶ崎水再生センターの屋上（リトルターンプロジェクト online）や長野県千曲川（鳥羽 1994）での取り組みにならない、人工的に繁殖地を造成して適切に管理することで、個体数の回復が期待できる。

308. コシジロアジサシ *Sterna aleutica*

不定期（旅鳥）。河川に渡来するが記録は少ない。1995年に初めて記録され、2002～2008年は毎年記録された。本種は北海道、岩手、茨城、静岡、徳島、鹿児島などで稀に記録されているが内陸の記録は少ない（日本鳥学会 2012）。荒天による退避的な飛来とも考えられるが（富岡 2009）、2002～2008年は、主に5月に定期的に記録されたことから、本種の渡り経路（Goldstein 2019）から考えると、定期渡来地であった可能性もある。

1995.05.21 伊勢崎市坂東大橋、1羽（小茂田 野の鳥 210）

2004.05.05 伊勢崎市坂東大橋、11羽（富岡 野の鳥 295）

2008.05.14 伊勢崎市坂東大橋、4羽（富岡 野の鳥 288）

2010.05.07 伊勢崎市境島村利根川、1羽（富岡 野の鳥 300）

2013.05.13 伊勢崎市坂東大橋、1羽（森田 しらこぼと 353）

2016.05.03 伊勢崎市坂東大橋、1羽（小茂田 私信）

311. セグロアジサシ *Sterna fuscata*

迷鳥。群馬県野鳥病院の收容リストに下記の2例があり、このどちらかと思われる成鳥の標本が県立自然史博物館に収蔵されている（標本番号 VA-1052）。

1986. // // 保護年月日、保護場所等は不明（群馬県野鳥病院）

1992. // // 保護年月日、保護場所等は不明（群馬県野鳥病院）

314. アジサシ *Sterna hirundo*

314-2 亜種アジサシ *S. h. longipennis*

不定期（旅鳥）・稀に繁殖。平野部の河川や池沼で、渡り時期に観察される。数羽のことが多いが、下記の例のように小群が記録されることもある。また、1990

年には、玉村町五料橋下流のコアジサシのコロニーで1番の営巣・抱卵が確認されたが、孵化しなかった(木村・深井 群馬県鳥類目録)。県内で記録のあるのは全て本亜種であり、亜種アカシアジサシ *S. h. minussensis* の記録はない。

1993.09.04 伊勢崎市坂東大橋、20羽(水村 野の鳥 201)

2004.05.05 伊勢崎市坂東大橋、32羽(富岡 野の鳥 295)

2005.10.14 館林市多々良沼、14羽(太田 野の鳥 273)

316. クロハラアジサシ *Chlidonias hybrida*

不定期(旅鳥)。下記を含めて15例の記録がある。平野部の河川や池沼で記録される。数羽のことが多いが、2012年には台風による迷行あるいは退避的飛来と思われる150羽の群れが記録された。

1994.07.10 伊勢崎市上武大橋、成鳥夏羽と幼鳥各1羽(深井 野の鳥 206)

2006.06.18 伊勢崎市境島村利根川、4羽(富岡 野の鳥 295)

2012.10.01 館林市多々良沼、150羽(井上 野の鳥 314)

317. ハジロクロハラアジサシ *Chlidonias leucopterus*

不定期(旅鳥)。下記を含めて11例の記録がある。平野部の河川や池沼で記録される。

1979.09.26 伊勢崎市坂東大橋、冬羽1羽(田口 野の鳥 115)

2003.05.10 伊勢崎市境島村利根川、夏羽1羽(小茂田 群馬県鳥類目録)

トウゾクカモメ科 **STERCORARIIDAE**

321. クロトウゾクカモメ *Stercorarius parasiticus*

迷鳥。次の1例のみ。埼玉会報「しらこぼと」に写真と識別が記事ある。

2010.04.23 伊勢崎市坂東大橋、1羽(森田 しらこぼと 317)

322. シロハラトウゾクカモメ *Stercorarius longicaudus*

迷鳥。次の6例がある。

1993.06.03 伊勢崎市坂東大橋、1羽死体拾得(富岡・小茂田 群馬県鳥類目録)

1994.05.04 伊勢崎市坂東大橋、1羽(富岡 野の鳥 205)

1994.05.15 伊勢崎市境島村利根川、成鳥1羽(富岡 野の鳥 205)

1999.07.12 千代田町利根大堰、幼鳥1羽(井上 野の鳥 235)

2008.05.14 伊勢崎市坂東大橋、1羽(富岡 野の鳥 288)

2009.05.09 藤岡市神流湖、1羽(谷畑 野の鳥 294)

ウミスズメ科 **ALCIDAE**

329. マダラウミスズメ *Brachyramphus perdix*

迷鳥。次の1例のみ。保護されたが死亡。標本は県立自然史博物館に収蔵されている(標本番号 VA-1055)。

1989.03.08 高崎市(吉井町)、1羽保護(高崎林業事務所 野の鳥 172)

タカ目 **ACCIPITRIFORMES**

ミサゴ科 **PANDIONIDAE**

339. ミサゴ *Pandion haliaetus*

冬鳥・稀に繁殖。主に平野部の河川や池沼に生息する。冬季の記録が多いが、通年記録がある。山間部の記録もあり、2006.01.14に藤岡市神流湖(谷畑 野の鳥 274)、

2011.08.06 に片品村尾瀬沼（探鳥会）で記録されている。2010 年には片品村で繁殖が確認された（富岡ほか 2011）。

タカ科 ACCIPITRIDAE

340. ハチクマ *Pernis ptilorhynchus*
夏鳥。主に丘陵部から山地帯にかけての森林に生息する。個体数は多くない。渡りの時期には平野部でも記録されるが、県内では長野県白樺峠や愛知県伊良湖岬のような大きな渡りの経路は発見されていない。
342. トビ *Milvus migrans*
留鳥。県内全域に普通に生息する（日本野鳥の会群馬 2014）。
343. オジロワシ *Haliaeetus albicilla*
不定期（冬鳥）。下記を含めて 12 例の記録がある。記録されたのは、利根川（4 例）、館林市多々良沼、富岡市大塩湖、みどり市草木ダム、前橋市嶺公園、高崎市、片品村丸沼、みなかみ町である。
1893.01.11 群馬県（山階鳥類研究所収蔵標本 YIO-08970）
1984.12.21 片品村丸沼、成鳥 1 羽（瀧川 野の鳥 148）
2003.01.13 高崎市（村岡 野の鳥 256）
345. オオワシ *Haliaeetus pelagicus*
不定期（冬鳥）。下記を含めて 12 例の記録がある。記録されたのは、みどり市草木ダム（5 例）、利根川（3 例）、みどり市高津戸峡、藤岡市三名湖、みどり市阿左美沼、伊香保町である。
1978.02.15 みどり市阿左美沼、若鳥 1 羽（阿部 野の鳥 106）
1990.12.31 藤岡市三名湖、成鳥 1 羽（谷畑 野の鳥 183）
2003.02.15 みどり市草木ダム、1 羽（田端 野の鳥 257）
349. チュウヒ *Circus spilonotus*
冬鳥。主に平野部の河川敷や農耕地、湿地などに生息する。10 月下旬に片品村尾瀬ヶ原で記録された例（メッシュ調査 5-4）があり、渡りの時期には標高の高い地域を通過することもある。
350. ハイイロチュウヒ *Circus cyaneus*
冬鳥。主に平野部の河川敷や農耕地、湿地などに生息する。伊勢崎市坂東大橋周辺の記録が多い。2001.12.11 には昭和村大河原で記録された（岩田 野の鳥 250）。
354. ツミ *Accipiter gularis*
夏鳥・一部留鳥。主に丘陵部や山地帯下部に生息し、市街地の緑地などでも繁殖する。主に夏鳥であると考えられるが、一部は通年生息する。探鳥会の記録は 1990 年代中頃から多くなった（日本野鳥の会群馬 2014）。
355. ハイタカ *Accipiter nisus*
留鳥。主に山地帯や丘陵部に生息し、冬季は平野部でも観察される。探鳥会での記録は 1990 年代後半から、特に繁殖期の記録が減少した（日本野鳥の会群馬 2014）。メッシュ調査では、繁殖期の記録が著しく減少し、分布も縮小している（日本野鳥の会群馬 2014）。
356. オオタカ *Accipiter gentilis*

留鳥。県内に広く生息する。探鳥会では1980年代中頃より記録が著しく増加した（日本野鳥の会群馬 2014）。メッシュ調査でも繁殖期の記録は1990年頃から急激に増加したが、2000年以降は個体数の増加は頭打ちの状態である（日本野鳥の会群馬 2014）。市街地周辺や寺社林など小規模の緑地でも繁殖するようになったため観察される機会が増えた。しかし、メッシュ調査の結果からは、このような新しい生息環境ではすでに飽和状態に近いことが推測される。生態系の上位に位置し、環境破壊の影響を受けやすいことを考えると、今後も保護対策が必要である。

357. サシバ *Butastur indicus*

夏鳥。主に丘陵部や山地帯下部に生息する。谷津田のように、水田と林が隣接する環境を好む。このような場所がゴルフ場の造成などで失われ、分布は縮小しており、個体数も減少傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。探鳥会の記録も1990年頃から減少している（日本野鳥の会群馬 2014）。

358. ノスリ *Buteo buteo*

留鳥。県内に広く分布する（日本野鳥の会群馬 2014）。冬季は県内全域に生息するが、繁殖期も標高が低い地域で分布が拡大傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。高崎市や太田市では、平野部の市街地近郊の屋敷林などで繁殖記録がある（谷畑私信、市川私信）。

360. ケアシノスリ *Buteo lagopus*

不定期（冬鳥）。次の7例がある。迷鳥に準ずる。このほか、昭和初期に安中市（松井田町）入山で捕獲された記録がある（卯木 1985）。

- 1991.03.24 太田市刀水橋（井上 野の鳥 185）
- 1997.01.12 伊勢崎市坂東大橋、1羽（小茂田 野の鳥 220）
- 1998.02.03 太田市刀水橋、1羽（井上 野の鳥 220）
- 2001.02.03 伊勢崎市上武大橋、1羽（田澤 群馬県鳥類目録）
- 2004.01.18 みどり市高津戸峡（探鳥会 野の鳥 263）
- 2004.12.18 東吾妻町（吾妻町）（メッシュ調査 9-3）
- 2016.02.10 太田市利根川、2羽（浅川 私信）

363. イヌワシ *Aquila chrysaetos*

留鳥。個体数は非常に少ない。記録があるのは、片品村尾瀬笠ヶ岳、みなかみ町利根川源流部、みなかみ町谷川岳、沼田市玉原高原、みなかみ町、孀恋村吾妻耶山、孀恋村浅間山、東吾妻町（吾妻町）、長野原町川原湯丸岩、南牧村立岩、神流町叶山、上野村、高崎市（倉沢村）、安中市霧積林道、安中市裏妙義、安中市小根山、沼田市袈裟丸山などである（卯木 1985）。このうち、かつて繁殖していた安中市裏妙義では、1997年以降は記録がほぼ途絶えている（日本野鳥の会群馬 2014）。上記各地でも、現在は生息・繁殖していない場所が多く（浅川 私信）、絶滅が危惧される。

364. クマタカ *Nisaetus nipalensis*

留鳥。個体数は少ない。主に山地帯に生息する（日本野鳥の会群馬 2014）。記録があるのは、みなかみ町三国山、片品村尾瀬ヶ原、片品村武尊牧場、片品村日光白根山、中之条町野反峠、みなかみ町（新治村）、みなかみ町（水上町）、前橋市赤城山、高崎市榛名山、高崎市（倉沢村）、安中市裏妙義、安中市碓氷湖、神流町御荷鉾山、下仁田町荒船山、高崎市牛伏山、沼田市皇海山、みどり市草木ダム、桐生市根本山、桐生自然観察の森などである（卯木 1985）。県内では複数の繁殖が確認されているが（浅川 私信）、絶滅が危惧される。

フクロウ目 STRIGIFORMES

フクロウ科 STRIGIDAE

366. オオコノハズク *Otus lempiji*

留鳥。森林に生息するが、冬季は市街地の緑地などでも記録されることがある。夜行性のため、分布や個体数などの生息状況は不明の点が多い。奥利根や赤城山では繁殖記録がある（谷畑 私信、三井田 本会 HP）。保護個体が比較的多いことから、個体数はそれほど少なくないと考えられる。

367. コノハズク *Otus sunia*

不定期（夏鳥）。森林に生息するが、個体数は少ない。沼田市迦葉山や南牧村黒滝山不動尊、高崎市榛名神社、みなかみ町利根川源流部、片品村尾瀬、上野村、沼田市袈裟丸山、みなかみ町(新治村)などで記録がある（卯木 1985）。このうち、南牧村黒滝山不動尊では、1969年の時点で「近年減少している」と記録されている（野の鳥 51）。上記各地でも現在は生息していない場所が多い。本会に寄せられた情報は、2000年以降は下記を含めた数例の観察記録と、4例の保護収容記録しかない。絶滅が危惧される。

2001.05.26 川場村、2羽の声（浅川 私信）

2009.05.10 渋川市北橋村（松本 野の鳥 294）

2017.04.30 高崎市剣の峰（清水 本会 HP）

372. フクロウ *Strix uralensis*

留鳥。県内各地に生息していたが、営巣に適した巨木の減少で、生息環境は悪化し、個体数は減少している（卯木 1985）。1994年に安中市で、オオタカの本巣を利用して繁殖した例がある（岩田 野の鳥 207）。

374. アオバズク *Ninox scutulata*

夏鳥。森林や寺社、公園などに生息する。県下一円に普通にみられ生息数も多かった（卯木 1985）。現在では観察例は少なく、個体数は著しく減少している。

375. トラフズク *Asio otus*

冬鳥・稀に繁殖。伊勢崎市や館林市で、越冬期に数羽の噂が記録されている（野の鳥 184、野の鳥 304 など）。繁殖期の記録が下記の2例あることから、少数が繁殖していると考えられる。

1974.05.26 神流町御荷鉾山（卯木 1985）

2009.05.25 太田市、巣立ち雛の保護（桐生が岡動物園）

376. コミミズク *Asio flammeus*

冬鳥。河川敷や湖沼周辺の湿地、工場の造成地などに生息する。夏季の記録が1例ある。

1982.08.16 片品村尾瀬ヶ原、1羽（高橋 野の鳥 133）

サイチョウ目 BUCEROTIFORMES

ヤツガシラ科 UPUPIDAE

377. ヤツガシラ *Upupa epops*

不定期（旅鳥）。下記を含む10例がある。高崎市(箕郷町)、渋川市(子持村)、館林市、安中市、藤岡市、渋川市、前橋市で3月中旬から4月中旬に記録されてい

る。

- 1970.03.29 高崎市(箕郷町)上ノ宿、1羽が3日間滞在 (松本 野の鳥 58)
1982.03.14 渋川市(子持村)白井、1羽 (須田 野の鳥 131)
2001.04.09 藤岡市川除、1羽 (正田 野の鳥 246)
2011.04. // 前橋市旧市街地北部、1羽が長期滞在 (本会 HP 掲示板 No.3704)

ブッポウソウ目 **CORACIIFORMES**
カワセミ科 **ALCEDINIDAE**

378. アカショウビン *Halcyon coromanda*

不定期(夏鳥)。みなかみ町大峰山など、溪流や湖沼のある山地帯の林に生息する。渡りの時期には丘陵部や平野部での記録もある。もともと個体数は少なかったが(卯木 1985)、1980年代以降は記録がさらに少なくなり、2000年代中頃に記録が一時途絶えた。近年わずかであるが、みなかみ町(月夜野町)、みなかみ町(新治村)、みなかみ町(水上町)、南牧村、上野村などで再び記録が得られるようになった。

380. ヤマショウビン *Halcyon pileata*

迷鳥。次の1例のみ。詳細は不明。
1954.06. // 中之条町で保護(卯木 1985)

383. カワセミ *Alcedo atthis*

留鳥。主に低地の河川や池沼に生息する(日本野鳥の会群馬 2014)。かつて、水質汚濁や水辺環境の悪化により減少していたが、1990年代後半から個体数や分布域が回復してきた(日本野鳥の会群馬 2014)。

385. ヤマセミ *Megaceryle lugubris*

留鳥。山地の溪流や湖沼に生息するが、冬季はやや下流へ移動する。個体数は少ない。安中市妙義湖や安中市碓氷湖では、観察される機会が著しく減っている(深井 群馬県鳥類目録)。2019年3月には、1羽が高崎市役所の窓ガラスに衝突死した記録がある(谷畑 野の鳥 353)。

ブッポウソウ科 **CORACIIDAE**

387. ブッポウソウ *Eurystomus orientalis* 画像記録 387

不定期(旅鳥)・過去に繁殖。かつては、神流町(万場町)八幡神社や南牧村六車などで繁殖していたが、1990年頃には記録が途絶え、現在は県内で繁殖が知られている場所はない。その後は、通過個体と思われる記録が次の3例あるのみである。

- 2003.09.15 安中市横川、1羽(中森 野の鳥 260)
2006.07.27 桐生市川内町、1羽(田中 野の鳥 277)
2014.09.06 安中市秋間、1羽(岩田 本会 HP)

キツツキ目 **PICIFORMES**

キツツキ科 **PICIDAE**

388. アリスイ *Jynx torquilla*

冬鳥。主に林縁やヨシ原、公園緑地などに生息するが少ない。利根川や渡良瀬川の河川敷、館林市多々良沼や館林市城沼周辺などで記録がある。

390. コゲラ *Dendrocopos kizuki*
留鳥。県内ほぼ全域で普通にみられる（日本野鳥の会群馬 2014）。県内では、繁殖期には丘陵部より上部に生息していたが、近年は平野部へも分布を拡大している（日本野鳥の会群馬 2014）。
392. オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos*
留鳥。比較的自然度の高い森林に生息する。アカゲラよりやや標高が高い地域に分布し、個体数は少ない。
393. アカゲラ *Dendrocopos major*
留鳥。県内各地で普通にみられる（日本野鳥の会群馬 2014）。冬季には平野部の小さな林やヨシ原などでもみられる。
397. アオゲラ *Picus awokera*
留鳥。県内各地に生息する（日本野鳥の会群馬 2014）。個体数はアカゲラより少ないが（卯木 1985）、近年やや増加傾向にあり、繁殖期の分布も拡大している（日本野鳥の会群馬 2014）。

ハヤブサ目 **FALCONIFORMES**

ハヤブサ科 **FALCONIDAE**

401. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*
留鳥。主に河川や農耕地に生息する。県内では沼田地方の河岸段丘や高崎市観音山山系、安中市鷹ノ巣などの崖地で繁殖していた（卯木 1985）。近年は、高崎市郊外の JR 鉄橋での集団繁殖（2000 年に 8 番）した例（谷畑 2008a）や、伊勢崎市の道路橋脚での繁殖（田澤 2008）などが知られており、人工構造物を利用した市街地周辺への進出がみられる。
402. アカアシチョウゲンボウ *Falco amurensis*
迷鳥。次の 1 例のみ。埼玉会報「しらこぼと」に写真と識別記事がある。
2006.04.27 伊勢崎市坂東大橋、雄 1 羽（森田 しらこぼと 267）
403. コチョウゲンボウ *Falco columbarius*
冬鳥。河川敷や農耕地などに生息する。かつては稀な種であったが、2000 年代前半より、伊勢崎市坂東大橋や玉村町五料橋、太田市金山での探鳥会で記録が増えており（日本野鳥の会群馬 2014）、渡来数が増えていると考えられる。
404. チゴハヤブサ *Falco subbuteo*
不定期（旅鳥）。春と秋の渡り時期に稀に観察されるが、下記のように越冬期や繁殖期の記録もある。
1998.12.21 伊勢崎市上武大橋、1 羽（井上 野の鳥 232）
2012.06.01 高崎市並榎町、2 羽（横田ほか 野の鳥 313）
407. ハヤブサ *Falco peregrinus*
留鳥。主に河川や湖沼、農耕地などに生息する。越冬期には人工構造物を利用して市街地に生息する個体もいる（谷畑 2005）。山地の崖やダムを利用した繁殖例がある（鈴木 2003、卯木 2018、浅川 私信）。

スズメ目 PASSERIFORMES

ヤイロチョウ科 PITTIDAE

409. ヤイロチョウ *Pitta nympha*

迷鳥。次の1例のみ。囀りが録音され、生息が確認されたという。このほかにも
榛名湖周辺での観察記録があるというが（野鳥の会吾妻 2017）、詳細は不明。

1978.05.28 渋川市(小野上村)十二ヶ岳（中沢 野の鳥 135）

サンショウクイ科 CAMPEPHAGIDAE

412. サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus*

412-1 亜種サンショウクイ *P. d. divaricatus*

夏鳥。かつては県内各地で普通にみられたが（卯木 1985）、1980年代後半から
1990年代にかけて著しく減少した（日本野鳥の会群馬 2014）。近年は、個体数・
分布とも回復傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。亜種リュウキュウサンショウ
クイの分布が拡大しているが、2019年現在、県内で記録があるのは本亜種だけ
である。

コウライウグイス科 ORIOLIDAE

413. コウライウグイス *Oriolus chinensis* 画像記録 413

迷鳥。次の4例がある。

2010.09.10 高崎市中尾町、1羽（宮越 野の鳥 302・本会 HP 鳥便り）

2013.08.02 前橋市富士見町、雌1羽、観察撮影（山崎 私信）

2015.08.11 高崎市中尾町、雄1羽（宮越 本会 HP）

2016.05.20 高崎市中尾町、雄1羽、06.24に撮影（宮越 本会 HP）

オウチュウ科 DICRURIDAE

414. オウチュウ *Dicrurus macrocercus*

迷鳥。次の3例のみ。1・2例目は画像等はない。

1992.06.13 前橋市(富士見村)鳥居峠、1羽（横堀・梅澤 群馬県鳥類目録）

1993.09.11 前橋市紅雲町、1羽が4日間滞在（小暮 野の鳥 200）

2007.06.10 太田市上武大橋下流埼玉県側河川敷、1羽撮影（小茂田 群馬県鳥
類目録）

カササギヒタキ科 MONARCHIDAE

418. サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*

夏鳥。主に丘陵部から低山帯下部の暗い林に生息する。かつては普通にみられた
が（卯木 1985）、1980年代後半から1990年代にかけて著しく減少した（日本野
鳥の会群馬 2014）。近年、個体数は回復してきたが、分布はあまり回復していない
（日本野鳥の会群馬 2014）。

モズ科 LANIIDAE

419. チゴモズ *Lanius tigrinus*

不定期（旅鳥）・過去に繁殖。嬭恋村浅間山、嬭恋村鹿沢、嬭恋村草津高原、下
仁田町神津牧場などで繁殖記録があるが、当時から生息は局地的であった（卯木
1985）。近年は、県内で繁殖地は知られておらず、稀に記録されるにすぎない。1990

年以降は次の4例があるだけである。

- 1996.06.23 前橋市(富士見村) (メッシュ調査 7-5)
- 2002.08.04 太田市金山 (探鳥会 野の鳥 254)
- 2006.05.03 館林市 (メッシュ調査 9-5)
- 2008.05.07 高崎市(倉淵村) (メッシュ調査 10-2)

420. モズ *Lanius bucephalus*

留鳥。県内各地の疎林、林縁、農耕地、公園などに生息する。季節的な移動をし、標高の高い地域では夏鳥である(日本野鳥の会群馬 2014)。低地と高地で複数回繁殖をすることが知られているが、県内の個体がどのように移動しているかは不明。

421. アカモズ *Lanius cristatus*

421-1 亜種シマアカモズ *L. c. lucionensis*

迷鳥。次の1例のみ。

- 2006.03.05 高崎市観音山、雄1羽 (探鳥会 野の鳥 277)

421-2 亜種アカモズ *L. c. superciliosus*

不定期(旅鳥)・過去に繁殖。県内全体では個体数は多くなかったが、嬭恋村浅間山、下仁田町神津牧場などでは普通に繁殖していた(卯木 1985)。隣接する軽井沢(長野県)で実施した本会の探鳥会では、1980年代後半から記録が減少し、1990年代前半で記録が途絶えた(日本野鳥の会群馬 2014)。近年は、県内で繁殖地は知られておらず、渡りの時期などに稀に記録されるにすぎない。2000年以降は次の4例があるだけである。

- 2000.05.06 みなかみ町(新治村)、1羽 (メッシュ調査 8-4)
- 2000.06.15 藤岡市庚申山 (福田 野の鳥 241)
- 2000.12.28 館林市多々良沼、1羽 (井上 野の鳥 244)
- 2010.05.02 富岡市丹生湖 (探鳥会 野の鳥 301)

422. セアカモズ *Lanius collurio* 画像記録 422

迷鳥。次の1例のみ。「野の鳥」に識別記事がある。

- 2017.12.21 太田市新上武大橋、雄幼鳥1羽 (小茂田 野の鳥 346 / 347)

425. オオモズ *Lanius excubitor* 画像記録 425

迷鳥。次の6例がある。2例目と6例目以外は画像等未確認。このほか、片品村尾瀬で夏季の記録がある(高橋 1978)。

- 1980.11.10 前橋市上増田町、1羽 (石見 野の鳥 123)
- 1980.12.07 前橋市総社町 (小林 野の鳥 123) 同一個体?
- 1991.02.11 伊勢崎市坂東大橋 (萩原 野の鳥 184)
- 1995.01.03 前橋市富士見町小沼、1羽 (塩原 野の鳥 209)
- 2001.11.25 渋川市真壁調整池、1羽 (中村 野の鳥 250)
- 2015.12.10 / 16 高崎市榛名湖畔、1羽撮影 (臼田・敷地 私信)

426. オオカラモズ *Lanius sphenocercus*

迷鳥。次の2例のみ。1例目は画像等未確認。

- 1987.02.20 太田市東長岡、2羽 (堀越 野の鳥 160)
- 2003.03.21 伊勢崎市境島村利根川、1羽越冬 (菅根 野の鳥 257)

カラス科 CORVIDAE

427. カケス *Garrulus glandarius*

留鳥。繁殖期には、平野部を除く県内ほぼ全域に普通にみられる。季節的な移動をし、冬季には平野部でも観察される。

429. オナガ *Cyanopica cyanus*

留鳥。主に丘陵部や平野部で普通にみられる。標高の高い地域では夏鳥であったが（日本野鳥の会群馬 2014）、近年は、繁殖期におけるそれらの地域での減少が著しく、分布も縮小している（日本野鳥の会群馬 2014）。探鳥会でも 1990 年代より、記録がやや減少している（日本野鳥の会群馬 2014）。本種は県内の個体数が減少しているという実感が薄いですが、メッシュ調査と探鳥会の記録がともに減少していることから、今後の動向に注目する必要がある。

430. カササギ *Pica pica*

迷鳥。1982 年 6 月から 1991 年 3 月まで、高崎市、前橋市、伊勢崎市、太田市、館林市などで観察・撮影された。複数個体いたとされるが（卯木 1985）、単独個体が各地を転々とした可能性もある。かつて、新潟県や長野県、東京都での繁殖記録や千葉県での生息記録がある（日本鳥学会 2012）ことから、ここでは自然分布としておく。ただし、逸出した飼育個体（かご脱け）であった可能性もある。

431. ホシガラス *Nucifraga caryocatactes*

留鳥。ハイマツ林や亜高山帯の針葉樹林に生息する。冬季はやや標高の低い地域へ移動する個体もいる（卯木 1985）。

433. コクマルガラス *Corvus dauuricus*

冬鳥。主に平野部の農耕地に生息する。県内では、2000.02.03 に前橋市朝倉町で 1 羽が観察された（一倉 野の鳥 239）のが最初の記録である。2000 年の冬以降は、板倉町や館林市、太田市、高崎市などで、渡来するミヤマガラスの群れに混じって数羽から数十羽が毎年記録されている。

434. ミヤマガラス *Corvus frugilegus*

冬鳥。主に平野部の農耕地に生息する。県内では、2000.11.19 に館林市多々良沼北部で 3 羽が観察された（一倉 野の鳥 284）のが最初の記録である。2000.12.16 には館林市多々良沼で 150 羽（太田 野の鳥 244）、2001.02.17 には館林市多々良沼北部で 400 羽（相川 野の鳥 245）、2001.12.26 には板倉町で 600 羽（井上 野の鳥 250）と渡来数が増えていった。それ以降、板倉町や館林市を中心に数百羽以上の群れが毎年記録されており、2006 年以降は太田市でも記録されるようになった。このほか、2001.02.01 には前橋市後閑町で 4 羽（一倉 野の鳥 245）、2005.02.01 には安中市下磯部で 2 羽（瀧川 野の鳥 269）の記録がある。

435. ハシボソガラス *Corvus corone*

留鳥。県内全域に普通に生息するが、亜高山帯には少ない。繁殖期の個体数は、1990 年代中頃までは増加傾向にあったが、2000 年代に入ると減少傾向に転じた（日本野鳥の会群馬 2014）。個体数は多い。

436. ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

留鳥。県内に最も普通に生息する種の 1 つ（日本野鳥の会群馬 2014）。ハシボソガラスとは対照的に、継続的な増加傾向にある。特に平野部での増加が著しく、都市部での生息状況を反映しているものと考えられる（日本野鳥の会群馬 2014）。

キクイタダキ科 REGULIDAE

438. キクイタダキ *Regulus regulus*

留鳥。亜高山帯の針葉樹林などで繁殖するが、冬季は標高の低い地域へ移動し、平地で記録されることもある。個体数はあまり多くない。

ツリスガラ科 REMIZIDAE

439. ツリスガラ *Remiz pendulinus* 画像記録 439

迷鳥。次の2例のみ。ヨシ原に生息する。本種は一時、西日本から東日本へ分布を拡大したが、現在は縮小し、東日本ではあまりみられない。

1996.12.21 伊勢崎市坂東大橋、越冬(小茂田 野の鳥 220、12/29 に撮影 私信)

1997.11.24 伊勢崎市坂東大橋、越冬(小茂田 野の鳥 226)

シジュウカラ科 ARIDAE

441. コガラ *Poecile montanus*

留鳥。主に山地帯の針広混交林で普通にみられる。

442. ヤマガラ *Poecile varius*

留鳥。主に丘陵部から山地帯の広葉樹林で普通にみられる。個体数は増加傾向、分布もやや拡大傾向にある。

443. ヒガラ *Periparus ater*

留鳥。主に山地帯以上の針葉樹林や針広混交林で普通にみられる。

445. シジュウカラ *Parus minor*

留鳥。記録・個体数ともに多い。県内に最も普通に生息する種の1つで、ほぼ全域に生息する(日本野鳥の会群馬 2014)。

ヒバリ科 ALAUDIDAE

452. ヒバリ *Alauda arvensis*

留鳥。主に平野部の草地や農耕地などで普通にみられるが、高原の草地に生息する個体もいる。後者のような個体は1980年前後からみられるようになり(卯木 1985)、2000年頃からは片品村尾瀬ヶ原でも繁殖するようになった(平井 2002)。

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

455. ショウドウツバメ *Riparia riparia*

旅鳥。渡りの時期に河川や池沼付近で多数が観察される。伊勢崎市利根川や館林市城沼、館林市多々良沼、板倉町などで記録が多い。

457. ツバメ *Hirundo rustica*

夏鳥。県内全域に広く生息する(日本野鳥の会群馬 2014)。人家付近に営巢することが多い。1980年頃には環境の変化で激減したが(卯木 1985、谷畑 2006)、近年は個体数・分布とも回復してきた(日本野鳥の会群馬 2014)。晩夏には、利根川沿いや館林市多々良沼などのヨシ原に大群で峙をとる。稀に厳冬期の記録もある(下記)。

1998.01.04 藤岡町鏑川(探鳥会)

459. コシアカツバメ *Hirundo daurica*

不定期(夏鳥)。県内の生息は局地的。かつて、太田市内に営巣地があり、太田市金山の探鳥会では1979年から2003年まで毎年記録されていた。建物の改修で営巣地が失われたことに伴い、探鳥会での記録は途絶えた(日本野鳥の会群馬2014)。このほか、1983年に太田市東別所(伊藤 野の鳥138)、1987年に桐生市(茂木 野の鳥161)、1992年に太田市高林(前原 野の鳥191)で繁殖行動が観察された。また、館林市北部では2000年に400羽(井上 野の鳥243)、2001年に100羽(井上 野の鳥248)の渡りの群れが観察された。現在は県内に繁殖地は知られていないが、栃木県には繁殖地があり、また、2006年4月には太田市金山(探鳥会 野の鳥276)で記録されていることから、再び繁殖するようになる可能性もある。2013年1月に太田市の鉄道高架下で、本種のものと思われる2つの古巣が確認されており(井上 野の鳥316)、最近も繁殖していた可能性がある。

461. イワツバメ *Delichon dasypus*

夏鳥。かつては山地の岩崖に営巣していたが、1960年頃より山間部の駅舎や学校等の建造物を利用するようになった(卯木1985)。たとえば片品村尾瀬では、1950年頃までは燧ヶ岳の岩場に少数のコロニーがみられただけであったが、1960年代に山小屋の軒で営巣し始め、1970年代にはその数が著しく増加した(鈴木2009)。現在では、鉄道の高架下や歩道橋などの人工構造物を利用して繁殖し、平地でも普通にみられる。標高1000m以下の地域では個体数は増加傾向にあるが、それ以上の地域ではやや減少傾向にある(日本野鳥の会群馬2014)。1992年に冬季の記録があるが、ヒメアマツバメの誤認の可能性も考えられる。

ヒヨドリ科 **PYCNONOTIDAE**

463. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

留鳥・一部冬鳥。記録・個体数ともに多い。県内に最も普通に生息する種の1つで、ほぼ全域に生息する(日本野鳥の会群馬2014)。渡りの時期には市街地でも群れが観察される。冬季には、北方の個体群と思われる大型で淡色の個体が観察される(深井 群馬県鳥類目録)。

ウグイス科 **CETTIDAE**

464. ウグイス *Cettia diphone*

464-3 亜種ウグイス *C. d. cantans*

留鳥。繁殖期には、県内ほぼ全域に普通にみられる。季節的な移動をし、標高の高い地域では夏鳥である(日本野鳥の会群馬2014)。近年、繁殖期に平野部への分布拡大がみられる(日本野鳥の会群馬2014)。

465. ヤブサメ *Urosphena squameiceps*

夏鳥。県内では、平野部を除く地域の森林に普通にみられる。2000年以降、個体数は減少傾向にある(日本野鳥の会群馬2014)。

エナガ科 **AEGITHALIDAE**

466. エナガ *Aegithalos caudatus*

466-3 亜種エナガ *A. c. trivirgatus*

留鳥。平野部を除く地域の森林に普通にみられる（日本野鳥の会群馬 2014）。

ムシクイ科 PHYLLOSCOPIDAE

476. オオムシクイ *Phylloscopus examinandus*

旅鳥。5月下旬から6月上旬にかけて、各地の丘陵部で観察・録音されているが、個体数は少ない。前橋市富士見町（山崎 野の鳥 247 ほか）などでは毎年記録されている。本種は以前、メボソムシクイの亜種コメボソムシクイ *P. borealis borealis* とされていたが、現在では独立種とされる（日本鳥学会 2012）。特徴的な囀り以外では、本種とメボソムシクイ *P. xanthodryas*、コムシクイ *P. borealis* を野外で識別することは非常に困難である。

477. メボソムシクイ *Phylloscopus xanthodryas*

夏鳥。山地帯上部から亜高山帯の森林に生息する。渡りの時期には平野部でも記録される。繁殖期の個体数はやや減少傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

479. エゾムシクイ *Phylloscopus borealoides*

夏鳥。山地帯上部から亜高山帯の森林に生息する。渡りの時期には平野部でも記録される。個体数に大きな変化はないが、分布はやや拡大傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

480. センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus*

夏鳥。丘陵部から山地帯上部にかけての森林に生息する。渡りの時期には平野部でも記録される。個体数は減少傾向にあったが、近年回復してきている（日本野鳥の会群馬 2014）。

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

485. メジロ *Zosterops japonicus*

留鳥。県内に広く分布する。季節による移動がみられ、標高の高い地域では夏鳥である（日本野鳥の会群馬 2014）。冬季には市街地の公園緑地などにも生息する。繁殖期の個体数は増加しており、分布域も拡大傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

センニュウ科 LOCUSTELLIDAE

486. マキノセンニュウ *Locustella lanceolata*

不定期（旅鳥）・過去に繁殖。かつては片品村尾瀬周辺や、みなかみ町の丹後山、巻機山、朝日岳で繁殖期の記録があり（房内 1959、清棲 1978、卯木 1978）、尾瀬沼（アヤメ平を含む）には30番ぐらい、朝日岳や巻機山の池塘周辺にも生息するものが多かった（清棲 1978）というが、現在の生息状況は不明。群馬県南東端の渡良瀬遊水池（栃木県）では秋の渡り時期に不定期に記録されていることから（深井 私信）、本県でも旅鳥として稀に渡来していると思われる。なお、中之条町歴史と民俗の博物館には2002.03.31に死体で拾得されたとされる本種の展示標本（本剥製）がある。

1950.06.19 片品村尾瀬沼、1羽採集（清棲 1978）

1959.07.21 片品村尾瀬アヤメ平（房内 1959）

1959.07.30 笠ヶ岳朝日の原（編注：みなかみ町朝日岳）（房内 1959）

1959.08.01 牛ヶ岳（編注：みなかみ町巻機山牛ヶ岳）（房内 1959）

- 1977.08.02 みなかみ町利根川源流部丹後山、囀り個体 (卯木 1978)
 1983.05.21 片品村尾瀬三平峠岩清水、1羽 (高橋 野の鳥 138)

487. シマセンニュウ *Locustella ochotensis*

迷鳥。記録は次の3例のみ。最初の2例は、渡りの時期に山間部を通過する個体がいることを示唆しており、渡りの経路を推測する上で興味深い(日本野鳥の会 群馬 2014)。群馬県南東端の渡良瀬遊水池(栃木県)では、秋の渡り時期に不定期に記録されていることから(深井 私信)、本県でも旅鳥として少数が通過していると思われる。

- 1956.08.03 中之条町野反湖 (卯木 1985)
 1959.07.23 みなかみ町谷川岳 (卯木 1985)
 2005.05.29 伊勢崎市広瀬川粕川合流点、囀り (田澤 群馬県鳥類目録)

490. オオセッカ *Locustella pryeri*

迷鳥。渡良瀬遊水池の第一調節池に本種の小規模な繁殖地があり、その周辺のヨシ・オギ原に少数が通年生息している。板倉町の東端が渡良瀬遊水池にかかっており、その部分で越冬期に観察されることがある。

- 2012.02.05 板倉町渡良瀬遊水池 (深井 私信)

491. エゾセンニュウ *Locustella fasciolata*

迷鳥。記録は次の2例のみ。シマセンニュウ同様、山間部の記録である点が興味深い(日本野鳥の会 群馬 2014)。

- 1957.09.28 草津町渋峠 (卯木 1985)
 2017.07.03 上野村十石峠 (メッシュ調査 12-1)

ヨシキリ科 **ACROCEPHALIDAE**

492. オオヨシキリ *Acrocephalus orientalis*

夏鳥。主に平野部のヨシ原に生息するが、標高の高い地域でもみられる。広いヨシ原に多いが、市街地や農耕地の小さなヨシ原でもみられる。個体数は多い。

493. コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps*

夏鳥。主に平野部のヨシ原に生息するが、片品村尾瀬ヶ原、嬭恋村浅間山麓、沼田市玉原高原、下仁田町神津牧場、高崎市榛名山など、山地の草原にも生息する(卯木 1985)。個体数は少ない。ただし、利根川沿いのヨシ原では相当数が繁殖しているという(井上 野の鳥 186)。

セッカ科 **CISTICOLIDAE**

499. セッカ *Cisticola juncidis*

留鳥。主に平野部の河川敷、カヤ原やスゲ原、疎らなヨシ原などに生息する。麦田や市街地周辺の草地に生息することもある。

レンジャク科 **BOMBYCILLIDAE**

500. キレンジャク *Bombycilla garrulus*

冬鳥。渡来数は変動が大きい。標高がやや高い地域のヤドリギがある森林に飛来することが多いが、平地の公園などでみられることもある。

501. ヒレンジャク *Bombycilla japonica*

冬鳥。県内ではキレンジャクより個体数や記録は多い。渡来当初は標高がやや高い地域のヤドリギがある森林に飛来することが多いが、渡去前には平地の公園などでもみられる。

ゴジュウカラ科 **SITTIDAE**

502. ゴジュウカラ *Sitta europaea*

留鳥。山地帯や亜高山帯の森林に生息する。分布域では普通にみられるが、個体数は多くない。

キバシリ科 **CERTHIIDAE**

503. キバシリ *Certhia familiaris*

留鳥。山地帯上部や亜高山帯の森林に生息する。個体数は少ない。

ミソサザイ科 **TROGLODYTIDAE**

504. ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*

留鳥。丘陵部から亜高山帯までの、溪流沿いの藪に生息する。冬季には標高の低い地域へ移動する個体が多く、ヨシ原や公園の藪などでみられることもある。

ムクドリ科 **STURNIDAE**

505. ギンムクドリ *Spodiopsar sericeus*

迷鳥。次の2例のほか、2011.04.18に館林市城沼南で、本種と思われる観察例がある（本会 HP 掲示板 No.3488）。

2008.04.18 東吾妻町岩井、雄 1 羽撮影（東京電力株式会社 群馬県鳥類目録）

2017.05.03 安中市碓氷川、雌 1 羽撮影（よっしー 本会 HP）

506. ムクドリ *Spodiopsar cineraceus*

留鳥。主に平野部から山地帯下部にかけて普通にみられ、個体数も非常に多い。ただし、繁殖期の個体数は減少傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

508. コムクドリ *Agropsar philippensis*

夏鳥。県内の繁殖地は局地的で、前橋市赤城山、嬭恋村浅間山、片品村尾瀬などには多いが、他の地域では少ない（卯木 1985）。1980年代前半には、平野部の市街地（高崎市）で繁殖が確認されたが、現在の状況は不明。渡りの時期には各地で記録される。高崎市水処理場では、7月下旬から9月上旬にかけて数百羽が滞在し、大量に発生するユスリカを捕食している（谷畑 2008b）。この群れの繁殖地は不明であるが、現在もこの時期に定期的に群れが観察されている（谷畑 2018）。

511. ホシムクドリ *Sturnus vulgaris* 画像記録 511

迷鳥。次の1例のみ。

1999.12.18 太田市利根川早川合流点付近、1羽撮影（臼田 私信）

カワガラス科 **CINCLIDAE**

512. カワガラス *Cinclus pallasii*

留鳥。主に山地帯の溪流に生息する（日本野鳥の会群馬 2014）。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

513. マミジロ *Zoothera sibirica*
夏鳥。主に山地帯の森林に生息する。県内では分布が局地的で個体数は少ない。
514. トラツグミ *Zoothera dauma*
留鳥。主に山地帯の森林に生息する。夜間囀ることが多いため、生息状況を把握しづらい。冬季には平地の公園などでも観察される。個体数は多くない。
518. クロツグミ *Turdus cardis*
夏鳥。丘陵部から山地帯の森林に生息する。1980年頃までは高崎市観音山などの丘陵部でも普通にみられたが、その後記録が減少した。2000年前後には一時的に記録が増えたが、その後また減少している（日本野鳥の会群馬 2014）。メッシュ調査でも、1982年～1996年の調査と比較し、1997年～2001年の調査では個体数が増加したが、その後は減少傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。
520. マミチャジナイ *Turdus obscurus*
旅鳥。平野部から山地帯の森林、公園の緑地などに渡来するが、記録は少ない。数羽以下のことが多いが、数十羽が記録された（小林 野の鳥 188）こともある。
521. シロハラ *Turdus pallidus*
冬鳥。平野部から山地帯の森林、公園の緑地などで普通にみられる。
522. アカハラ *Turdus chrysolous*
留鳥。通年記録があるが、そのほとんどは亜種を区別しておらず、どの亜種がどの時期にみられるのかは、不明な点が多い。県内で繁殖しているのは基亜種アカハラ *T. c. chrysolous* と考えられるが、そのまま県内の低地で越冬するのか、南方へ渡るのかは不明である。また、冬季には亜種オオアカハラ *T. c. orii* と思われる個体の観察例（深井 群馬県鳥類目録）があり、2012.01.18に玉村町五料の烏川で撮影されたアカハラ（富岡 野の鳥 310）は亜種オオアカハラの可能性が高い。
繁殖地の一つである渋川市伊香保森林公園では、近年観察頻度が低下しているのに対し、2000年頃から探鳥会での冬季の記録が増えている（日本野鳥の会群馬 2014）。このことが亜種アカハラの減少や亜種オオアカハラの増加を示すのかどうかは不明である。
525. ツグミ *Turdus naumanni*
- 525-1 亜種ツグミ *T. n. eunomus*
冬鳥。県内ほぼ全域で記録され、開けた森林、農耕地、公園などで普通にみられる（日本野鳥の会群馬 2014）。5月頃まで残っている個体も多い。
- 525-2 亜種ハチジョウツグミ *T. n. naumanni*
不定期（冬鳥）。下記を含め、少なくとも13例の観察記録がある。亜種ツグミとの中間的な個体が観察されることもある。
1981.04.05 館林市多々良沼（探鳥会 野の鳥 125）
1991.01.16 みなかみ町藤原（小林 野の鳥 183）
1996.02.18 伊勢崎市坂東大橋（富岡 野の鳥 215）
2005.03.29 藤岡市庚申山（福田 群馬県鳥類目録）
2009.03.21 玉村町（富岡 野の鳥 293）
2018.03.15 玉村町（関上 本会 HP）

526. ノハラツグミ *Turdus pilaris* 画像記録 526
迷鳥。次の1例のみ。
2015.12.15 / 16 高崎市榛名湖畔、1羽撮影（敷地、臼田 私信）
530. コマドリ *Luscinia akahige*
夏鳥。主に山地帯上部以上の地域の森林に生息する。個体数は著しく減少し、分布も縮小している（日本野鳥の会群馬 2014）。
532. オガワコマドリ *Luscinia svecica*
迷鳥。次の1例のみ。画像は未確認だが、詳細な観察記録がある。
2001.01.18 伊勢崎市広瀬川、第一回冬羽の雄1羽（千嶋 群馬県鳥類目録）
533. ノゴマ *Luscinia calliope*
不定期（旅鳥）。渡りの時期に観察されるが少ない。5月と10月の記録が多いが、8月の記録もある（下記）。
1989.08.15 片品村武尊牧場、雄1羽（村上 野の鳥 175）
534. コルリ *Luscinia cyane*
夏鳥。主に山地帯以上の地域の森林に生息する。個体数や分布に大きな変化はみられない（日本野鳥の会群馬 2014）。
536. ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*
留鳥。亜高山帯の森林で繁殖し、冬季は低山帯や丘陵部の暗い林にみられる。
540. ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus*
冬鳥、稀に繁殖。県内各地の疎林、林縁、農耕地、住宅地などに生息する（日本野鳥の会群馬 2014）。越冬期もなわばりを持ち、単独で生活する。下記のように繁殖期の記録があり、2018年には嬭恋村で繁殖行動も観察された。
1982.07.30 大間々町、雄1羽（大阿久 野の鳥 133）
1990.07.21 太田市金山、雄1羽撮影（坂下 野の鳥 180）
2013.06.04 嬭恋村車坂峠、雄1羽撮影（吉井 本会 HP）
2018.05.02 みなかみ町藤原 雄1羽撮影（中村 本会 HP）
2018.08.16 嬭恋村新鹿沢温泉、雄1羽、雌1羽撮影（植木・唐沢 きくいただき 46）囀る雄と、餌運びをする雌が観察・撮影された。
542. ノビタキ *Saxicola torquatus*
夏鳥。嬭恋村浅間高原、前橋市赤城山、中之条町野反湖、下仁田町神津牧場など、標高 1000m 以上の草原で繁殖する。榛名山東面の榛東村相馬ヶ原（標高 450m）でも繁殖していたが（卯木 1985）、現在は草原が消失したため生息していない（卯木 2013b）。県内の繁殖期の分布は縮小している（日本野鳥の会群馬 2014）。渡りの時期には平地の休耕田や河川敷などでも記録される。
549. イソヒヨドリ *Monticola solitarius*
549-2 亜種イソヒヨドリ *M. s. philippensis*
不定期（通年）。1981.01.14 に前橋市で雄1羽が観察されて以降（斎藤 野の鳥 123）、藤岡市下久保ダムや高崎市、太田市などで少なくとも 30 例の記録がある。このうち、藤岡市下久保ダムでは 2008 年から断続的に複数個体が観察されており、繁殖した可能性がある（多野藤岡分会 2011）。近年の記録は下記の通り。

- 2012.10.24 太田市庄屋町、1羽 (田中 野の鳥 315)
- 2012.11.02 藤岡市下久保ダム、1羽 (大内 野の鳥 315)
- 2012.11.08 高崎市小八木町井野川、雄1羽撮影 (加代 野の鳥 315)
- 2012.11.26 高崎市安中寄り、雌1羽撮影 (@はぐれ雲 本会 HP)
- 2013.03.20 高崎市小八木町井野川、1羽撮影 (加代 野の鳥 315)
- 2014.04.05 前橋市利根川、雄1羽撮影 (藤井 本会 HP)
- 2015.02.23 高崎市城南大橋付近、雄1羽 (谷畑 本会 HP)
- 2015.04.11 安中市碓氷川、1羽撮影 (よっしー 本会 HP)
- 2016.01.18 高崎市城南大橋付近、雄1羽 (谷畑 本会 HP)
- 2018.11.24 藤岡市下久保ダム、雄1羽 (探鳥会)
- 2019.01.28 高崎市高松町鳥川、1羽撮影 (谷畑 本会 HP)
- 2019.04.15 / 27 高崎市高崎駅西口 (瀧川・浅川 私信)

552. エゾビタキ *Muscicapa griseisticta*

旅鳥。渡りの時期に各地で記録がある。9月下旬から10月中旬までの記録が多い。1977年7月に、みなかみ町越後沢山北側1,710mピークで囀り個体が記録され、繁殖の可能性が指摘されている (卯木 1978)。

553. サメビタキ *Muscicapa sibirica*

旅鳥・一部夏鳥。渡りの時期に各地で記録がある。県内では、片品村尾瀬などで少数が繁殖している (高橋 1978)。

554. コサメビタキ *Muscicapa dauurica*

夏鳥。丘陵部から山地帯下部の森林に生息する。2000年頃までは個体数が減少し、分布も縮小していたが、近年は回復傾向にある。ただし、まだ個体数は多くない (日本野鳥の会群馬 2014)。

557. マミジロキビタキ *Ficedula zanthopygia*

迷鳥。次の1例のみ。

- 2018.06.04 渋川市伊香保町二ツ岳、雄1羽 (メッシュ調査 12-2)

558. キビタキ *Ficedula narcissina*

夏鳥。平野部を除く広い地域の森林で普通にみられる (日本野鳥の会群馬 2014)。2000年頃から個体数が増加し、分布も拡大してきた (日本野鳥の会群馬 2014)。

559. ムギマキ *Ficedula mugimaki*

不定期 (旅鳥)。下記を含む7例の記録があるのみで、迷鳥に準ずる。

- 1973.10.21 上の原高原 (卯木 1985)
- 1981.04.11 桐生市(新里村)雷電山、2羽 (吉田 野の鳥 125)
- 1993.05.16 みなかみ町(新治村)、雄1羽 (原澤 野の鳥 198)
- 2012.10.16 高崎市吉井町、雄1羽 (谷畑 野の鳥 315)

560. オジロビタキ *Ficedula albicilla* 画像記録 560

迷鳥。次の1例のみ。

- 2015.10.07 太田市吉沢町、1羽撮影 (竹内 野の鳥 333)

※このほか、オジロビタキまたはニシオジロビタキ *F. parva* の撮影記録が、下記の2例ある (日本野鳥の会群馬 2014)。

- 1991.01.06 太田市高林、幼鳥1羽 (前原 野の鳥 184) 上尾筒の黒味が強く、

- 下嘴が黒っぽい。オジロビタキ？
1999.12.31 伊勢崎市(境町)御嶽山、幼鳥 1羽が越冬(田澤・倉澤 野の鳥 238)
下嘴が桃褐色で、上尾筒の黒味が弱い。ニシオジロビタキ？

561. オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*
夏鳥。平野部を除く広い地域の沢沿いの森林で普通にみられる(日本野鳥の会群馬 2014)。1990 年頃から個体数が増加し、分布も拡大した(日本野鳥の会群馬 2014)。

イワヒバリ科 PRUNELLIDAE

564. イワヒバリ *Prunella collaris*
留鳥・一部冬鳥。亜高山帯上部の岩場で繁殖し、冬季は標高の低い地域へ移動する。かつては 100 羽前後の集団越冬地として安中市裏妙義が知られていたが(卯木 1979)、現在ではほとんど観察されない。このほか、桐生市赤城山不動の滝や渋川市伊香保森林公園、高崎市(倉渕村)、上野村などで少数が観察されている。長野県乗鞍岳で標識された個体が高崎市(倉渕村)で観察された例がある(日本野鳥の会群馬 2014)。

565. ヤマヒバリ *Prunella montanella*
迷鳥。次の 1 例のみ。画像等はない。
1961.01.20 高崎市観音山(卯木 1985)

566. カヤクグリ *Prunella rubida*
留鳥。亜高山帯の低木林などで繁殖し、冬季は標高の低い地域へ移動する。冬季は山地帯下部から丘陵部にかけての記録が多いが、館林市多々良沼などの平野部でも稀に観察される。

スズメ科 PASSERIDAE

568. ニュウナイスズメ *Passer rutilans*
留鳥。山地帯上部の疎林で繁殖するが局地的。片品村尾瀬やみなかみ町(水上町)、沼田市玉原高原などで繁殖が記録されている。冬季は標高の低い地域へ移動し、農耕地などでみられるが少ない。200 羽以上の群れが観察されることもある。

569. スズメ *Passer montanus*
留鳥。亜高山帯を除く広い地域に生息する(日本野鳥の会群馬 2014)。全国的に減少していると考えられている種であるが(三上 2009)、県内では個体数や分布に大きな変化はない。ただし、山地帯上部では 1990 年代後半から個体数が減少し、県北部や南西部では生息密度が低下した地域がみられる(日本野鳥の会群馬 2014)。ツバメとともに人家周辺に生息する種であるため、過疎化と関係があると考えられる。

セキレイ科 MOTACILLIDAE

571. ツメナガセキレイ *Motacilla flava*
迷鳥。次の 2 例のみ。画像等はない。1 例目は亜種不明だが、2 例目は眉斑と腹部に黄色みがあった(一倉 群馬県鳥類目録)ことから亜種ツメナガセキレイ *M.f. taivana* であると思われる。
1980.04.29 伊勢崎市坂東大橋、2 羽(シギチ調査班 野の鳥 119)

1995.10.07 伊勢崎市稲荷町、1羽（一倉 群馬県鳥類目録）

573. キセキレイ *Motacilla cinerea*

留鳥。繁殖期は主に丘陵部から山地帯の水辺で普通にみられるが、冬季には平野部の農耕地などにも生息する。

574. ハクセキレイ *Motacilla alba*

574-6 亜種ハクセキレイ *M. a. lugens*

留鳥。かつては冬鳥であったが、1980年代から繁殖期にも観察されるようになった（日本野鳥の会群馬 2014）。現在では、標高が高い地域では夏鳥であるが、山地帯下部までの地域では通年普通にみられる（日本野鳥の会群馬 2014）。セグロセキレイ *M. grandis* と異なり、水辺環境だけでなく市街地にも普通に生息する。非繁殖期には大きな集団がみられる。

574-7 亜種ホオジロハクセキレイ *M. a. leucopsis*

迷鳥。次の1例のみ。

2000.02.12 藤岡市竹沼、1羽（吉村 群馬県鳥類目録）

575. セグロセキレイ *Motacilla grandis*

留鳥。平野部から山地帯まで、水辺や農耕地で普通にみられる。比較的標高の高い地域にも通年生息する（日本野鳥の会群馬 2014）。

580. ビンズイ *Anthus hodgsoni*

留鳥。山地帯から亜高山帯の疎林で繁殖し、冬季は標高の低い地域へ移動する。冬季は松林でみられることが多い。繁殖期の個体数は著しく減少しており、分布も縮小している（日本野鳥の会群馬 2014）。

583. ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus*

迷鳥。次の1例のみ。画像等未確認。

1979.04.29 伊勢崎市坂東大橋、1羽（田口 野の鳥 135）

584. タヒバリ *Anthus rubescens*

冬鳥。主に河川や池沼の周辺、農耕地などに生息する。

アトリ科 **FRINGILLIDAE**

586. アトリ *Fringilla montifringilla*

冬鳥。疎林や農耕地などに生息し、県内各地に記録がある。1991.03.22 には渋川市伊香保森林公園で（森野 野の鳥 185）、2009.11.01 には片品村尾瀬沼で（片岡 野の鳥 297）、数百羽の群れが観察されている。

587. カワラヒワ *Chloris sinica*

587-1 亜種オオカワラヒワ *C. s. kawarahiba*

冬鳥。農耕地や河川敷、疎林、公園緑地などに生息する。

587-2 亜種カワラヒワ *C. s. minor*

留鳥。農耕地や河川敷、疎林、公園緑地などに生息する。県内全域に広く分布する（日本野鳥の会群馬 2014）。繁殖期の個体数は増加しており、分布も拡大傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

588. マヒワ *Carduelis spinus*
冬鳥。疎林や農耕地などに生息する。小群が観察されることが多い。稀に繁殖期の記録もある。
589. ベニヒワ *Carduelis flammea*
迷鳥。次の6例がある。
1964.01.03 高崎市榛名山 (卯木 1985)
1987.01.17 渋川市伊香保森林公園、7羽 (森野ほか 野の鳥 159)
1987.02.15 吉岡町利根川、3羽 (竹内 野の鳥 160)
1996.12.10 中之条町(六合村)熊倉、多数 (山崎・吉田 野の鳥 220)
1998.03.22 富岡市黒川丘陵 (探鳥会 野の鳥 228)
2004.02.11 藤岡市竹沼 (探鳥会 野の鳥 263)
591. ハギマシコ *Leucosticte arctoa*
不定期 (冬鳥)。かつて前橋市赤城大沼大洞周辺は 50羽前後が越冬する定期渡来地であった (卯木 1979)。近年は、渋川市、前橋市(富士見村)、安中市(松井田町)、桐生市(黒保根村)などで記録があるが稀である。小群が観察されることが多いが、50羽以上の群れが観察されることもある (下記)。
1963.01.11 前橋市赤城大沼、50羽が越冬 (菊池 野の鳥 58)
1987.03.25 下仁田町神津牧場、200羽 (中村・一倉 野の鳥 160)
1991.12.23 みどり市(勢多東村)、350羽 (メッシュ調査 6-5)
1996.12.10 中之条町(六合村)田代原、50羽 (山崎 野の鳥 220)
2010.03.12 みどり市赤城山東麓、100羽 (石見 野の鳥 299)
592. ベニマシコ *Uragus sibiricus*
冬鳥。県内各地で記録がある (日本野鳥の会群馬 2014)。林縁や疎林、農耕地、河川敷などに生息する。
595. オオマシコ *Carpodacus roseus*
不定期 (冬鳥)。主に山地帯の疎林や林縁で少数が稀に記録される。平野部で見られることもある。
1976.01.15 高崎市榛名山 (卯木 1985)
1991.03.22 渋川市伊香保森林公園、10羽 (森野 野の鳥 185)
2006.12.13 館林市多々良沼 (島田 野の鳥 280)
596. ギンザンマシコ *Pinicola enucleator*
迷鳥。次の2例がある。1例目は、鮮明な画像はないが近距離での観察記録がある。このほか、片品村日光白根山で7月に本種と思われる観察例 (探鳥会 野の鳥 272) がある。
1987.01.15 渋川市伊香保森林公園、雄1羽・雌3羽 (森野 野の鳥 159)
1994.12.02 渋川市(赤城村)溝呂木、8羽 (須田 野の鳥 208)
597. イスカ *Loxia curvirostra*
不定期 (冬鳥)。山地の森林に渡来するが稀である。数羽が観察されることが多いが、群れの記録もある (下記)。
2008.12.20 渋川市伊香保森林公園、30羽 (片岡 野の鳥 292)
2009.04.19 渋川市子持山、40羽 (松本 野の鳥 294)
598. ナキイスカ *Loxia leucoptera*

迷鳥。次の 2 例があるが詳細は不明。イスカにも稀に本種に似て雨覆に翼帯がある個体がいるため、識別には注意を要する。

1971.12.24 みなかみ町大峰山 (卯木 1985)

1984.01.03 孺恋村浅間高原 (卯木 1985)

599. ウソ *Pyrrhula pyrrhula*

599-2 亜種アカウソ *P. p. rosacea*

冬鳥。各地の森林、林縁、公園緑地などでみられる。冬季には本亜種を観察する機会も少なくない。雄は胸部に赤みがあることで亜種ウソ *P. p. griseiventris* と識別できるが、雌の識別には注意を要する。

599-3 亜種ウソ *P. p. griseiventris*

留鳥。山地帯上部から亜高山帯の森林で繁殖する。繁殖期の個体数は減少傾向にある (日本野鳥の会群馬 2014)。冬季は標高の低い地域へ移動し、各地の森林、林縁、公園緑地などでみられる。

600. シメ *Coccothraustes coccothraustes*

冬鳥。各地の森林、林縁、公園緑地などに生息する。主に小群がみられることが多いが、1987 年 4 月には前橋市五代町で 70 羽の群れが撮影されたことがある (星野 野の鳥 162)。

601. コイカル *Eophona migratoria*

不定期 (冬鳥)。1982 年に記録されて以降、下記を含めて 26 例の記録がある。多くは単独か数羽の記録であるが、30 羽ほどの群れの記録が 3 例ある。全ての記録が自然分布であるかどうかには疑問も残る。

1982.01.31 安中市磯部 (卯木 1985)

1989.12.30 前橋市岩上町、28 羽 (斎藤 野の鳥 177)

1996.01.13 渋川市水沢観音、30 羽 (斎藤 野の鳥 214)

1990~1998 年 桐生市、3~7 羽が毎年越冬 (寺内 群馬県鳥類目録)

2014.04.25 太田市緑地公園、雄 1 羽 (TE 本会 HP)

2017.03.18 伊勢崎市うぬき公園、雌 1 羽 (大塚 本会 HP)

2018.01.17 玉村町烏川河川敷、雄 1 羽 (平川 本会 HP)

2019.01.27 みどり市高津戸峡、雌雄 1 羽 (探鳥会)

2019.02.14 安中市原市、10 羽 (masa 本会 HP)

602. イカル *Eophona personata*

留鳥。繁殖期には、丘陵部から山地帯上部にかけての森林に生息する。繁殖期の個体数は増加しており、分布も拡大傾向にある (日本野鳥の会群馬 2014)。冬季には各地の森林、疎林、農耕地などでみられる。

ツメナガホオジロ科 **CALCARIIDAE**

603. ツメナガホオジロ *Calcarius lapponicus*

迷鳥。次の 2 例のみ。1 例目は詳細不明。

1956.06.03 前橋市(富士見村)赤城大沼湖畔 (卯木 1985)

2008.01.06 板倉町、1 羽撮影 (木村 群馬県鳥類目録)

604. ユキホオジロ *Plectrophenax nivalis*

迷鳥。次の 2 例のみ。2001 年の個体は撮影され、新聞記事になったという。

- 1981.01.24 前橋市桃ノ木川、雄 1 羽 (山田 野の鳥 123)
2001.03.04 伊勢崎市坂東大橋、1 羽撮影 (しらこぼと 205)

ホオジロ科 **EMBERIZIDAE**

609. シラガホオジロ *Emberiza leucocephalos* 画像記録 609
迷鳥。次の 2 例のみ。
1984.02.11 安中市裏妙義、雄 3 羽・雌 4 羽 (探鳥会 野の鳥 142)
2011.02.08 藤岡市牛田、雄 1 羽撮影 (大内 私信)
610. ホオジロ *Emberiza cioides*
留鳥。記録・個体数ともに多い。県内に最も普通に生息する種の 1 つで、ほぼ全域に生息する (日本野鳥の会群馬 2014)。
613. シロハラホオジロ *Emberiza tristrami*
迷鳥。次の 3 例があるが、画像等は未確認。
1988.12.27 渋川市伊香保森林公園 (大平 野の鳥 172)
1991.04.04 みなかみ町大峰山、雄 1 羽 (羽村・羽村 野鳥 91 年 12 月号)
2000.03.05 前橋市嶺公園、1 羽 (児玉・児玉 野の鳥 239)
614. ホオアカ *Emberiza fucata*
留鳥。県内では主に高原の疎林や草原などで繁殖するが局地的。高崎市榛名山 (清棲 1978)、嬭恋村浅間連峰や嬭恋村湯の丸高原、榛東村相馬ヶ原 (卯木 1985) などで多数が繁殖していたが、近年、個体数は減少している (日本野鳥の会群馬 2014)。冬季は平野部の河川や池沼の周辺、農耕地などに生息するが少ない。
615. コホオアカ *Emberiza pusilla*
迷鳥。次の 2 例のみ。
2002.01.14 伊勢崎市坂東大橋、1 羽撮影 (小茂田 野の鳥 250)
2009.12.06 館林市城沼 (探鳥会 野の鳥 301)
617. カシラダカ *Emberiza rustica*
冬鳥。疎林や伐採地、農耕地などに生息し、県内ほぼ全域で見られる。県内の個体数変化を定量的に示すデータは得られていないが、以前より大きな群れを観察する機会が減少しており、個体数の減少が著しいと考えられる。
618. ミヤマホオジロ *Emberiza elegans*
冬鳥。疎林や農耕地に生息するが少ない。数羽が観察されることが多いが、群れが観察された例もある (下記)。
1993.02.28 吉岡町上小倉、50 羽 (竹内 野の鳥 198)
619. シマアオジ *Emberiza aureola*
迷鳥。次の 1 例のみ。
1992.09.09-10 嬭恋村藤原、雄成鳥を含む 5 羽を標識放鳥 (山階鳥類研究所標識研究室 1993)
623. ノジコ *Emberiza sulphurata*
夏鳥。山地帯の水辺にある疎林、林縁に生息する。繁殖は局地的で、前橋市富士見町小沼周辺やみなかみ町大峰山、沼田市玉原高原などが知られている。県内では、個体数が少なく、減少傾向にある。

624. アオジ *Emberiza spodocephala*
 624-2 亜種アオジ *E. s. personata*
 留鳥。主に山地帯の疎林や林縁、灌木草原などで繁殖し、冬季は標高の低い地域へ移動する（日本野鳥の会群馬 2014）。北方から渡来する個体もいると思われる。
625. クロジ *Emberiza variabilis*
 留鳥。片品村尾瀬やみなかみ町利根川源流部、沼田市玉原高原など、山地帯上部から亜高山帯の森林で繁殖するが少ない。冬季は標高の低い地域へ移動する。北方から渡来する個体もいると思われる。
627. コジュリン *Emberiza yessoensis*
 冬鳥・過去に繁殖。かつての板倉町板倉沼では繁殖記録があるが（卯木 1985）、詳細は不明。板倉沼は河川改修によって消滅した。9月に伊勢崎市で夏羽の雄が観察されたこともあるが（探鳥会 野の鳥 73）、現在は冬季に稀に記録されるのみである。
628. オオジュリン *Emberiza schoeniclus*
 冬鳥。主に平野部のヨシ原に生息し、館林市多々良沼や城沼、利根川などでは個体数も多く、普通にみられる。片品村尾瀬沼での記録（片岡 野の鳥 297）もある。
631. ミヤマシトド *Zonotrichia leucophrys*
 迷鳥。次の1例のみ。チャガシラヒメドリとして図鑑に掲載されたが、本種の幼鳥に訂正された。
 1977.10.14 片品村、幼鳥1羽（高野 1981）
632. キガシラシトド *Zonotrichia atricapilla* 画像記録 632
 迷鳥。次の1例のみ。幼鳥が渡来し越冬した（2014.04.23まで）。
 2013.11.24 中之条町山田川ダム周辺、1羽（松本 きくいだき）

<逸失個体（かご抜け）>

007. サカツラガン *Anser cygnoides*
 2009年以降、館林市城沼と多々良沼で観察・撮影されている。この個体は、発見当初の行動などから逸失個体であると考えられた。埼玉県春日部市の飼育個体から生まれた個体が飛来した可能性がある。
151. クロトキ *Threskiornis melanocephalus*
 同一個体と思われる下記の観察例がある。撮影された個体は両足に飼育用の色足環がついており、飼育個体が逸出したものと考えられる。
 1986.08.24 前橋市東善町、1羽（瀬尾 野の鳥 157）
 1986.09.07 前橋市、1羽撮影（塩原 野の鳥 160）
 1986.10.10 藤岡市岡之郷、1羽（谷畑 1989）

外 来 種

E01. コジュケイ *Bambusicola thoracicus*

定着。平野部から山地帯までの低木林や農耕地に広く生息する（日本野鳥の会群馬 2014）。個体数も多かったが、近年、やや減少傾向にある（日本野鳥の会群馬 2014）。

E03. キジ *Phasianus colchicus*

E03-1 コウライキジ *P. c. karpowi*

狩猟用の放鳥個体か。2006.06.10.17 に太田市で1羽が記録された（メッシュ調査 9-5）。

E//. コリンウズラ *Colinus virginianus*

定着。1990年代に伊勢崎市利根川で記録された（安藤 野の鳥 180 ほか）。狩猟用に放鳥されたものが定着していたと考えられるが、現在の生息状況は不明。

E05. カナダガン *Branta canadensis*

逸出個体。次の3例（2個体）がある。2個体ともシジュウカラガン *B. hutchinsii* より大型で、首と嘴があきらかに長く、胸が白くて白い首輪模様を欠いていた。なお、1986.10.04 伊勢崎市坂東大橋（常見 野の鳥 158）の個体は、藤岡市・高崎市の記録と同一個体である可能性がある。

1986.05.31 藤岡市大神場池、1羽（谷畑 1989）

1986.06.01 高崎市城南大橋、1羽（谷畑 群馬県鳥類目録）上記と同一個体？

2012.04.15 安中市碓氷湖、1羽（探鳥会）Web ページ (<http://blogs.yahoo.co.jp/nadr0401/31426273.html> (2013.12.11 参照)) で画像を確認

E06. コクチョウ *Cygnus atratus*

逸出個体。次の観察例がある。

1991.12.19 館林市多々良沼、1羽（国井 野の鳥 189）

2010.01.29 太田市原宿町、4羽（阿部 群馬県鳥類目録）

2010.02.20 館林市多々良沼、2羽（深井 群馬県鳥類目録）

2015.01.10 玉村町角淵、2羽（浅川 私信）

2015.01.16 高崎市(新町)烏川、2羽（トラフーM 本会 HP）

2016.02.06 高崎市(新町)烏川、1羽（吉井 本会 HP）

2017.12.12 館林市多々良沼、1羽（加藤 本会 HP）

E07. コブハクチョウ *Cygnus olor*

定着。1968年11月に高崎市で成鳥3羽が観察された。この個体は猪苗代湖から飛来したものと考えられた（卯木 1985）。1986年4月には下仁田町で1羽が保護された（桐生が岡動物園）。このほか、1986年4月に玉村町五料橋、2006年7月に伊勢崎市(境町)御嶽山周辺の川で観察された（探鳥会）。近年は、館林市城沼や館林市多々良沼に定住し、繁殖も確認されている（赤坂 本会 HP）ほか、県内数ヶ所に生息している。

E//. ノバリケン（バリケン） *Cairina moschata*

定着。近年、前橋市や太田市で記録がある。定着しているものと思われる。

E08. カワラバト（ドバト） *Columba livia*

定着。県内各地で普通にみられる。寺社や公園などに多い。

- E13. セキセイインコ *Melopsittacus undulatus*
逸出個体。稀に観察されるが、定着はしていない。
- E15. ホンセイインコ *Psittacula krameri*
E15-1 ワカケホンセイインコ *P. k. manillensis*
定着。前橋市総社神社とその周辺にみられる。1985年頃から観察されるようになり、1999年の時点で20羽ほどが確認されている（上毛新聞 1999.03.21）。最近の記録では、前橋市荒牧町で2017年4月に17羽、2018年2月に11羽の記録がある（すずめ 本会 HP）。
- E11. カラカラ *Polyborus plancus*
逸出個体。1999年に伊勢崎市坂東大橋で撮影された（小茂田 野の鳥 237）
- E11. フラミンゴ（種不明）
逸出個体。1977年に館林市多々良沼で観察された（探鳥会 野の鳥 101）。
- E21. ガビチョウ *Garrulax canorus*
定着。1999.06.28に藤岡市庚申山で観察された（福田 2000）のが最初の記録である。その後、急速に分布を拡大し（日本野鳥の会群馬 2014）、現在では県西部を中心に広い範囲に生息している（日本野鳥の会群馬 2014）。当初の予想に反し、高標高地へも進出しており、2014年8月にはみなかみ町藤原で（中村 本会 HP）、2016年8月には草津町の白根火山ロープウェイ山麓駅で（深井 本会 HP）、2019年には尾瀬でも観察・撮影された（online 株式会社野生動物保護管理事務所_尾瀬だより 141）。なお、2003.02.07に前橋市（富士見村）石井で台湾産亜種の可能性がある眼の周囲の白色部がない個体が3羽観察されている（中森 群馬県鳥類目録）。
- E23. カオグログビチョウ *Garrulax perspicillatus*
一時定着。2002年に前橋市上泉町で複数の繁殖が確認され、最大16羽が観察された（中森 群馬県鳥類目録）。しかし、翌年以降は記録がなく、個体群は消滅したと考えられる。その後、2012年に玉村町五料橋で観察・撮影された（探鳥会）。
- E24. カオジログビチョウ *Garrulax sannio*
定着。1990年4月にみどり市（大間々町）で観察された（浅川 2000）のが最初の記録である。その後、赤城山の南面に沿った地域で分布を拡大し（日本野鳥の会群馬 2014）、現在では県の南東部を中心に比較的広い範囲に生息しているが（日本野鳥の会群馬 2014）、ガビチョウのような高標高地への進出はみられていない。
- E25. ソウシチョウ *Leiothrix lutea*
定着。1996年10月21日に下仁田町の小学校で、窓ガラスに衝突して死亡した4羽が拾得されたのが最初の記録である（日本野鳥の会群馬 2014）。上野村や下仁田町、藤岡市、玉村町、高崎市（倉沢村）、安中市（松井田町）、桐生市（黒保根村）で観察されており、県の南西部の記録が多い。林床にササがある森林で繁殖する。2018年11月12日には沼田市の尾瀬高校で死体が拾得され（小林・柴田 私信）、2019年には尾瀬で観察・撮影された（online 株式会社野生動物保護管理事務所_尾瀬だより 141）。
- E35. ベニスズメ *Amandava amandava*
一時定着。次の観察例があるが、2000年以降は記録がない。
1970～1971 高崎市烏川、数十羽（探鳥会 野の鳥 58 ほか）
1978～1980 伊勢崎市坂東大橋・玉村町五料橋（探鳥会 野の鳥 111 ほか）

1979～1980 館林市城沼 (探鳥会 野の鳥 113 ほか)
1987.11.27 玉村町五料橋 (深沢 野の鳥 165)
1991.03.15 伊勢崎市坂東大橋 (千嶋 野の鳥 184)
1999.07.11 伊勢崎市広瀬川 (田澤 群馬県鳥類目録)

E38. ギンパラ *Lonchura malacca*

逸出個体。1979～1980 年に伊勢崎市坂東大橋で記録された (探鳥会 野の鳥 116 ほか)。

E40. ヘキチョウ *Lonchura maja*

逸出個体。1979 年に伊勢崎市坂東大橋で記録された (探鳥会 野の鳥 116)。

E41. ブンチョウ *Lonchura oryzivora*

逸出個体。1974 年に高崎市観音山で記録された (探鳥会 野の鳥 86)。

E43. コウカンチョウ *Paroaria coronata*

逸出個体。1984 年に高崎市竜見町で観察された (谷畑 野の鳥 169)。

文 献

- 浅川千佳夫 2000. カオジロガビチョウ. 群馬の自然 115 : 4-5.
- 浅川千佳夫 2008. コサギは減っているのか. 野の鳥 286 : 16-17.
- 福田道雄 2012. ウミウ *Phalacrocorax capillatus* の主要な骨骨のサイズと雌雄での比較. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 18(1) : 1-14.
- 福田修三 2000. 庚申山 (藤岡) の不明鳥～ガビチョウ～. 群馬の自然 115 : 5-6.
- 房内幸成 1959. クロジとマキノセンニュウ. 野鳥 24(5) : 12-13.
- Goldstein M.I., D.C. Duffy, S. Oehlers, N. Catterson, J. Frederick & S. Pyare. 2019. Interseasonal movements and non-breeding locations of ALEUTIAN TERN *Onychoprion aleuticus*. *Marine Ornithology* 47:67-76.
- 平井 敦 2002. 尾瀬の麓の探鳥記. 卓企画, 前橋.
- 井上 茂 2002. 板倉町の「ケリ」 板倉町は「ケリ」の町. 野の鳥 251 : 13.
- 清棲幸保 1978. 増補改訂版 日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京.
- 古山 隆 1998. バーダー倶楽部 偶然出合ったシノリガモ. *BIRDER* 12(12) : 72.
- 前橋市 2014. 前橋市自然環境調査 (鳥類) 中間報告 (繁殖期調査結果). 前橋市, 前橋.
- 三上 修 2009. 日本におけるスズメの個体数減少の実態. 日本鳥学会誌 58 : 161-170.
- 水野博晶 2000. ハリオアマツバメの渡りについて. 野の鳥 237 : 14-15.
- 日本鳥学会 2012. 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 三田.
- 日本野鳥の会吾妻 2017. 日本野鳥の会吾妻創立 50 周年記念誌 50 年のあゆみ. 日本野鳥の会吾妻, 中之条.
- 日本野鳥の会群馬 2014. 群馬県鳥類目録 2012. 日本野鳥の会群馬, 前橋.
- 野の鳥編集部 1982. 台風で迷行したオオシロハラミズナギドリ. 野の鳥 133 : 18.
- Olsen K. M. & H. Larsson 2003. *GULLS OF EUROPE, ASIA AND NORTH AMERICA*. Christopher Helm, London.
- 鈴木正利 2003. 環境と鳥. 野の鳥 256 : 20-21.
- 鈴木正利 2009. 尾瀬の鳥ごよみ. 野の鳥 294 : 4.
- 高橋 守・伊藤正道・山本裕子・高橋 等・高野俊彦・高野弘彦・高橋朋枝 1978. 尾瀬の鳥類調査 (1974～1978. 夏期). 鳥 27 : 51-71.
- 高野伸二(編) 1981. カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大出版, 平塚.
- 多野藤岡分会 2011. イソヒヨドリが下久保ダム (三波石峡) にて子育てを!. 野の鳥 303 : 13.
- 田澤一郎 2008. 伊勢崎市近郊の猛禽類生息状況について. 野の鳥 290 : 4-5.
- 鳥羽悦男 1994. 長野県犀川および千曲川のコアジサシの営巣数の減少とその保護. *Strix* 13 : 93-101.
- 富岡六郎 2009. コシジロアジサシの飛来記録. 野の鳥 295 : 3-4.
- 富岡裕己・荻原 淳・野中 純 2011. 群馬県北東部山地帯におけるミサゴの繁殖初記録. *Accipiter* 16 : S6-S7.
- 卯木達朗 1978. 奥利根地域学術調査報告書 (Ⅲ), 奥利根地域の野生動物, 鳥類. 群馬企画部環境保全課.
- 卯木達朗 1979. 群馬の鳥を探る みやま文庫 76. みやま文庫, 前橋.
- 卯木達朗 1985. 群馬県の鳥類. 群馬県動物誌 (群馬県高等学校教育研究会生物部会 群馬県動物誌編集委員会編), pp.105-131. 群馬県, 前橋.
- 卯木達郎 2013a. 半世紀で生息地、個体数ともに減少. 野の鳥 317 : 9-12.
- 卯木達郎 2013b. 消滅した野鳥の楽園. 野の鳥 319 : 10-14.
- 卯木達郎 2018. 相馬山・黒岩 県自然環境保全地域, 野生動物, 鳥類. 良好な自然環境を有する地域学術調査報告書 第 44 号. 群馬県環境森林部自然環境課.
- 谷畑藤男 1989. 藤岡市の鳥類. 藤岡市史 自然目録編. 藤岡市史編さん委員会, 藤岡市.
- 谷畑藤男 2005. 高崎市庁舎ビルを利用するハヤブサの行動と餌生物. *Field Biologist* (群

馬野外生物学会誌) 14(2) : 14-34.

谷畑藤男 2006. ツバメは本当に減っているか. 野の鳥 274 : 4-6.

谷畑藤男 2008a. 鉄橋で集団繁殖するチョウゲンボウ. 野の鳥 290 : 6-8.

谷畑藤男 2008b. 私の野鳥記. 個人出版.

谷畑藤男 2018. コムクドリの子節. 群馬の自然 190 : 20-21.

山階鳥類研究所標識研究室 1993. 鳥類観測ステーション報告 平成4年度 : 13.

Yoda K., T. Yamamoto, H. Suzuki, S. Matsumoto, M. Muller & M. Yamamoto. 2017. Compass orientation drives naïve pelagic seabirds to cross mountain ranges. *Current Biology* 27, R1141-1155.

<online>

株式会社野生動物保護管理事務所_尾瀬だより 141

http://wmo.co.jp/field_note/no-141 (2019.08.31 参照)

NPO 法人リトルターンプロジェクト

<http://littletern.net/index.html> (2013.12.24 参照)

<略称> アルファベット順

群馬県鳥類目録 : 日本野鳥の会群馬「群馬県鳥類目録 2012」

本会 HP : 日本野鳥の会群馬 HP (<http://www.wbsj-gunma.org/>)

きくいただき : 日本野鳥の会吾妻会報「きくいただき」

メッシュ調査 : 市町村別鳥類生息密度調査 (群馬県自然環境課)

野の鳥 : 日本野鳥の会群馬会報「野の鳥」

しらこぼと : 日本野鳥の会埼玉会報「しらこぼと」

探鳥会 : 日本野鳥の会群馬探鳥会報告

野鳥 : 日本野鳥の会会報「野鳥」

<関係機関> アルファベット順

桐生が岡動物園 : 群馬県桐生市宮本町三丁目 8 番 13 号

群馬県野鳥病院 : 群馬県北群馬郡榛東村新井 2935 林業試験場内

山階鳥類研究所 : 千葉県我孫子市高野山 115

中之条町歴史と民俗の博物館 : 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町 947-1

<私信> アルファベット順、敬称略

浅川千佳夫 : オオハム、アカガシラサギ、ケアシノスリ、イヌワシ、クマタカ、コノハズク、ハヤブサ、コクマルガラス、オオムシクイ、コクチョウ

深井宣男 : ヒメアマツバメ、マキノセンニュウ、オオセッカ

市川洋子 : ノスリ

小茂田英彦 : アカエリカイツブリ、アカガシラサギ、コシジロアジサシ、ツリスガラ

鯨井 明 : レンカク

三井田 進 : ツバメチドリ

太田 進 : アカハジロ、アカエリカイツブリ

大内敏子 : シラガホオジロ

柴田 栄 : ソウシチョウ (情報提供者 : 小林雪菜)

敷地富士雄 : アラナミキンクロ、オオモズ、ノハラツグミ

臼田正人 : オオモズ、ホシムクドリ、ノハラツグミ

谷畑藤男 : ヒメアマツバメ、ノスリ、オオコノハズク

山崎悦子 : コウライウグイス

初記録種等の画像記録

目録の信頼性を担保するため、群馬県初記録となった種と、撮影初記録となった種の画像を掲載する。ここに掲載した画像は、プリント写真をスキャナで読み込んだため画質が低下してしまったものや、撮影者の作画意図に沿わないトリミングやレタッチを施した画像もある。そのため、オリジナル画像のすばらしさを再現できていない。資料としての掲載であることに免じて、失礼をご容赦いただきたい。

各画像の撮影者の皆さんには、掲載を快諾していただいた。深く感謝申し上げます。なお、各画像の著作権は、データに示した撮影者（敬称略）に帰属する。



052. アラナミキンクロ
2013.03.25 伊勢崎市坂東大橋（敷地富士雄）



081. アビ
2014.02.19 館林市近藤沼（田米開隆男）



083. シロエリオオハム
2014.05.25 高崎市井野川（加代信竹）



128. ウミウ
2018.12.13 藤岡市矢場池（関上秀雄）



132. サンカノゴイ
2017.12.09 邑楽町ガバ沼 (加藤治男)



170. ヒクイナ 越冬期の記録
2019.02.15 館林市多々良沼 (加藤治男)



215. アオシギ
2013.01.16 前橋市富士見町箕輪 (神宮義憲)



270. レンカク
2014.10.14 館林市多々良沼 (鯨井 明)



296. シロカモメ
2012.04.14 伊勢崎市境島村 (小茂田英彦)



PU2. タイミルセグロカモメ
2018.11.17 館林市多々良沼 (高間令子)



387. ブッポウソウ
2014.09.06 安中市秋間 (岩田 悟)



413. コウライウグイス
2016.06.24 高崎市中尾町 (宮越俊一)



422. セアカモズ
2017.12.21 太田市新上武大橋 (小茂田英彦)



425. オオモズ
2015.12.10 高崎市榛名湖畔 (臼田正人)



439. ツリスガラ
1996.12.21 伊勢崎市坂東大橋 (小茂田英彦)



511. ホシムクドリ
1999.12.18 太田市堀口町 (臼田正人)



526. ノハラツグミ
2015.12.15 高崎市榛名湖畔 (敷地富士雄)



560. オジロビタキ
2015.10.07 太田市吉沢町 (竹内 寛)



609. シラガホオジロ
2011.02.08 藤岡市牛田 (大内敏子)



632. キガシラシトド
2013.11.24 中之条町山田川ダム (松元達夫)

改訂に関する識別ノート

今回の改訂によって追加された種、参考記録に留めた種、採用しなかった種、初版の記録を削除した種に関して、識別点等をふまえた簡単な記録を残しておく。記録を提供していただいたみなさんに感謝申し上げるとともに、今後の検証によって、次回以降の改訂時に記録の扱いが変更になる場合もあることを予めご了承ください。なお、文中の各画像の著作権は、データに示した撮影者（敬称略）に帰属する。また、分布などに関する次の文献は、各種の文献の項目では省略する。

日本鳥学会 2012. 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 三田.

目録へ追加した種（リストの●）

052. アラナミキンクロ *Melanitta perspicillata*

- 1) 観察個体数：雄幼鳥 1羽
- 2) 観察者名：敷地富士雄
- 3) 観察日・場所：2013年3月25日 伊勢崎市坂東大橋下流の利根川
- 4) 観察した環境や状況など：堤防間の川幅約 650m、水面の幅約 200m の広い河川。河川敷には礫の河原とヨシ原、耕作地などが広がり、ニセアカシアなどの灌木が生えている。水面にはカモ類が多い。
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：一見してカモ類、それも海ガモ類であることがわかる。全身が黒を基調とし、赤と黄色、白の特徴的な嘴の色彩と、後頭部の白色斑から、本種の雄が該当する。前頭部に白色斑がないこと、頭部を除く体上面が褐色がかかることから、幼鳥であると思われる。
- 6) 写真：あり（p.67 の図 052）
- 7) 過去の記録と考察：日本で記録されることは稀。本州では岩手、山形、宮城、茨城、石川で記録されている（日本鳥学会 2012）。本件と同一個体と思われる同地・同日の写真と観察記録が、日本野鳥の会埼玉の会報「しらこぼと」No.350 に掲載されている（会報は Web で閲覧できる）。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。
- 8) 文献：
日本野鳥の会埼玉 2013. 野鳥記録委員会の情報. しらこぼと 350 : 5.
http://www.wbsj-saitama.org/kaihou/350_2013.06.pdf (2019.08.31 閲覧)

083. シロエリオオハム *Gavia pacifica*

- 1) 観察個体数：夏羽 1羽
- 2) 観察者名：加代信竹ほか
- 3) 観察日・場所：2014年5月25日～27日 高崎市三ツ寺町三ツ寺公園の釣り池

2014年5月30日～6月20日 高崎市井野川井野神社付近

- 4) 観察した環境や状況など：市街地の公園の小さな釣り池（約15m×約40m）に突如飛来した。滞在3日目に、釣り人により違法に捕獲され、風切を切られて水路に投棄された。その3日後、直線距離で約4km下流の市街地を流れる川幅15mほどの河川で再発見され、6月20日まで観察された。釣り池や河川では、盛んに採餌していたという（三井田2014）。
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：一見してアビ類の夏羽である（p.68の図083）。本種は酷似するオオハムとの識別が問題となる。本件個体の前頸には光沢があったが、角度によって緑色または紫色に見えた。頭部から後頸は灰色であるが、その濃淡で種を判断することはできなかった。大きさはカワウよりやや小さかったとされるが、どちらの種に該当するかは判断できなかった。しかし、本種には下尾筒にvent-strapと呼ばれる横斑があり、それを欠くオオハムと識別できる（Birch & Lee 1997）。撮影された下尾筒にvent-strapが写っていることから（図1）、シロエリオオハムと同定された。
- 6) 写真：あり（p.67の図083、図1）
- 7) 過去の記録と考察：北海道から九州までの各地で冬鳥として記録があり、太平洋沿岸への渡来が多い（日本鳥学会2012）。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。
- 8) 文献：

Birch, A. & C. Lee 1997. Arctic and Pacific Loons. Field Identification. BIRDING 29 : 106-115.

三井田 進 2014. 釣り人から大きく翼羽を切られ、虐待されたシロエリオオハム. 野の鳥 325 : 7-9.



図1 下尾筒のvent-strap（吉井一仁）

186. セグロカッコウ *Cuculus micropterus*

- 1) 観察個体数：1羽（録音）
- 2) 観察者名：斎藤 譲
- 3) 観察日・場所：2017年6月5日 渋川市伊香保森林公園
- 4) 観察した環境や状況など：標高約1000m、落葉広葉樹と植林されたスギ、ヒノキなどが混

在する森林。姿を確認することはできなかったが、森の奥から聞こえる特徴的な声をビデオで録画し、そこから音源として切り出した（本会 HP、作業は森野による）。

- 5) 形態に関する記述と同定した基準：「カッ、カッ、カッコウ」などと聞こえる尻下がり調子の特徴的な声から、本種と同定された。
- 6) 写真：なし。本会 HP の鳥だより（下記 URL）から音源をダウンロードできる。
<http://wbsj-gunma.sakura.ne.jp/toridayori/toridayori2017/toridayori456.html>
- 7) 過去の記録と考察：本州、四国、九州、沖縄など各地で迷鳥として記録されている（日本鳥学会 2012）。全国的に記録が増えているようで、今後の動向が注目される（先崎 2013、植田 2018）。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。
- 8) 文献：
先崎理之 2013. 北海道におけるセグロカッコウ *Cuculus micropterus* の初記録. 日本鳥学会誌 62(1) : 78-81.
植田睦之 2018. セグロカッコウの情報をお寄せください. (online)
<https://db3.bird-research.jp/news/201809-no1/> (2019.08.31 閲覧)

207. オオチドリ *Charadrius veredus*

- 1) 観察個体数：10 羽
- 2) 観察者名：(省略)
- 3) 観察日・場所：2007 年 10 月 16 日 伊勢崎市坂東大橋下流の利根川
- 4) 観察した環境や状況など：(省略)
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：(省略、文献参照)
- 6) 写真：文献に白黒写真あり。
- 7) 過去の記録と考察：与那国島と波照間島では旅鳥として、そのほか、全国的に稀な記録がある（日本鳥学会 2012）。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。この記録は日本野鳥の会埼玉の会報「しらこぼと」No.286 に掲載されている（Web で閲覧可）。
- 8) 文献：
日本野鳥の会埼玉 2008. 野鳥記録委員会の情報. しらこぼと 286 : 4.
http://www.wbsj-saitama.org/kaihou/286_2008.02.pdf (2019.08.31 閲覧)

270. レンカク *Hydrophasianus chirurgus*

- 1) 観察個体数：冬羽 1 羽
- 2) 観察者名：鯨井 明
- 3) 観察日・場所：2014 年 10 月 14 日 館林市多々良沼 東岸ビオトープ付近
- 4) 観察した環境や状況など：標高 22m の平地にあり、周囲を広く田んぼに囲まれた、東西約 1100m、南北約 950m の、水深が浅い沼。岸にはヨシが生えている。コイやフナなどが生息する泥底の池沼で、水位が下がると干潟上の泥地が出現する。冬季には多くのカモ

類やハクチョウ類の渡来地となっている。

- 5) 形態に関する記述と同定した基準：首と足、特に趾が長い独特な体形をした中型の鳥類で、上面は茶褐色、下面は白色、翼は白色で先端が暗褐色であった。類似種がないため、形態と色彩から本種の冬羽と同定された。
- 6) 写真：あり (p.68 の図 270)
- 7) 過去の記録と考察：本州以南の各地で迷鳥として記録され、近県では、茨城、栃木、埼玉、東京、神奈川で記録がある (日本鳥学会 2012)。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。
- 8) 文献：－

PU2. タイミルセグロカモメ *Larus sp. 'taimyrensis'*

※カモメ類は分類が流動的で多くの見解があるため、日本鳥類目録改訂第 7 版 (日本鳥学会 2012) と世界の鳥類目録 (例えば World Bird List Ver.10.1 (IOC 2020)) で、種や亜種の扱いが異なるものもある。ここでは、日本語で書かれた最新のカモメ図鑑である「日本のカモメ識別図鑑」(氏原・氏原 2019) の見解と和名を用いる。

- 1) 観察個体数：成鳥 1 羽
- 2) 観察者名：加藤治男・高間令子
- 3) 観察日・場所：2018 年 11 月 17 日 12:15 頃 館林市多々良沼
- 4) 観察した環境や状況など：(多々良沼の環境はレンカクを参照) 沼にいた個体 1 羽を岸から観察し、400 mm の望遠レンズで撮影した。水面や干潟面に降りて、採食や休憩していた。体のどこかに異常がある様子はなく、周辺の鳥とともに、普通に活動していた (高間 私信)。2018 年 11 月頃以降、訪れるたびに高い確率で観察することができた。少なくとも、12 月 16 日、2019 年 1 月 4 日、1 月 12 日には観察・撮影した。1 月上旬には 7 羽が飛来したが、すぐに飛び去り、その後も滞在しているのはそれ以前と同様、1 羽だけである (加藤 私信)。
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：本個体はセグロカモメ *vegae* に似た大型カモメ類である。全身に褐色の幼羽は見られず、背は全体的に灰色で体羽の広範囲は白色であること、雨覆や風切羽、尾羽に褐色斑は見られなかったことから、第 4 回冬羽以降の成鳥と考えられた。背の色はセグロカモメと同程度か、それよりやや淡い灰色に、脚はやや橙色がかかる明るい黄色に見えた。このことから、通常脚がピンク色であるセグロカモメではない。ここでは、国内に渡来する脚の黄色い大型カモメのうち、ニシセグロカモメ *fuscus* とモンゴルセグロカモメ *mongolicus* について検討する。

本個体の下嘴の赤色斑は大きめで、上嘴に少し広がって見える程であり、明瞭な黒色斑は認められなかった (p.70 の図 PU2)。この特徴はニシセグロカモメにしばしばみられるもので、モンゴルセグロカモメではまれな特徴である。11 月 17 日の時点で初列風切を換羽伸長中で、外側 3 枚 (P10~P8) は旧羽、その内側 2 枚 (P7・P6) が伸長中、その内側 (P5~P1) が新羽であった。初列風切先端の黒色部の中にある丸い白色斑 (ミラー) は最外の 1 枚 (P10) のみにあり、P9 や P8 にはなかった。初列風切先端の黒色

部は、換羽中で観察することができなかつた P7 を除く P10～P8 と伸長中の P6 および新羽の P5 にあり、新羽の 7 枚目 (P4) には明瞭な黒色部はなかつたため、初列風切の外側 6 枚 (P10～P5) に存在すると考えられた。本個体の翼パターンはニシセグロカモメとモンゴルセグロカモメの両方に一致するが、モンゴルセグロカモメでは P4 の斑がない (黒色部が 6 枚の) 個体は少数とされている。また、撮影日の 11 月中旬では、ほとんどのモンゴルセグロカモメの成鳥は初列風切の旧羽を脱落させているが、ニシセグロカモメでは数枚の旧羽を残すことが普通であり、本個体の換羽状況はニシセグロカモメに一致する。以上のことより、本個体はニシセグロカモメである可能性が高い。

国内に渡来するニシセグロカモメのほとんどは“タイミルセグロカモメ” *'taimyrensis'* であり、亜種ヒューグリーンカモメ *heuglini* の渡来頻度は極めて低いと思われること (氏原・氏原 2019)、本個体の背の色がセグロカモメと同程度の濃さだったこと、P5 には先端の黒色部と内側の灰色部の間に三日月形の幅広い白色部 (ムーン) が認められることから、本個体は“タイミルセグロカモメ” であると考えられる。

6) 写真：あり (p.69 の図 PU2、図 2)

7) 過去の記録と考察：“タイミルセグロカモメ” はニシセグロカモメ *L. fuscus* とセグロカモメ *L. vegae* の交雑個体群とされるが (氏原・氏原 2019)、*taimyrensis* をヒューグリーンカモメの亜種とする見解や独立種とする見解もあり、日本鳥類目録改訂第 7 版では *taimyrensis* に対する判断を保留している (池長ら 2014)。群馬県では、2016 年頃から冬季に多々良沼で脚の黄色い大形カモメが観察・撮影されていたが (加藤 私信)、同定に必要な部分が鮮明に写っている画像が得られず、同定が保留されていた (深井 私信)。多々良沼ではその後も観察されている (加藤 私信)。

8) 文献：

池長裕史・川上和人・柳澤紀夫 2014. 日本鳥類目録改訂第 7 版で新たに掲載された種および亜種の記録等について. 日本鳥学会誌 63(1) : 96-149.

氏原巨雄・氏原道昭 2019. 決定版 日本のカモメ識別図鑑. 誠文堂新光社, 東京.



図 2 外側初列風切のパターンと換羽状況 2018.11.17 (高間令子)

翼端の黒色部が P5-10 にあること、P8-10 が旧羽であること、下嘴の赤色斑が大きく上嘴まで広がっていること、脚の色は橙色がかかる鮮やかな黄色であることがわかる。

321. クロトウゾクカモメ *Stercorarius parasiticus*

- 1) 観察個体数：1羽
- 2) 観察者名：(省略)
- 3) 観察日・場所：2010年4月23日 伊勢崎市坂東大橋下流の利根川
- 4) 観察した環境や状況など：(省略)
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：(省略、文献参照)
- 6) 写真：文献に白黒写真あり。
- 7) 過去の記録と考察：本州では旅鳥として、北海道や九州などでは稀に記録される(日本鳥学会 2012)。群馬県では本種とされる記録があったが、群馬県立自然史博物館の収蔵標本からシロハラトウゾクカモメであることが判明した(日本野鳥の会群馬 2014)。それ以外の記録はなく、本県初記録であると思われる。この記録は日本野鳥の会埼玉の会報「しらこぼと」No.317に掲載されている(Webで閲覧可)。
- 8) 文献：
日本野鳥の会群馬 2014. 群馬県鳥類目録 2012. 日本野鳥の会群馬, 高崎.
日本野鳥の会埼玉 2010. 野鳥記録委員会の情報. しらこぼと 317: 4.
http://www.wbsj-saitama.org/kaihou/317_2010.09.pdf (2019.08.31 閲覧)

402. アカアシチョウゲンボウ *Falco amurensis*

- 1) 観察個体数：雄1羽
- 2) 観察者名：(省略)
- 3) 観察日・場所：2006年4月27日 伊勢崎市坂東大橋下流の利根川
- 4) 観察した環境や状況など：(省略)
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：(省略、文献参照)
- 6) 写真：文献に白黒写真あり。
- 7) 過去の記録と考察：迷鳥として全国的に記録があるが(日本鳥学会 2012)、群馬県では過去に記録はなく、本県初記録であると思われる。この記録は日本野鳥の会埼玉の会報「しらこぼと」No.267に掲載されている(Webで閲覧可)。
- 8) 文献：
日本野鳥の会埼玉 2006. 野鳥記録委員会の情報. しらこぼと 267: 5.
http://www.wbsj-saitama.org/kaihou/267_2006.07.pdf (2019.08.31 閲覧)

422. セアカモズ *Lanius collurio*

- 1) 観察個体数：雄幼鳥(第一回冬羽)1羽
- 2) 観察者名：敷地富士雄・小茂田英彦
- 3) 観察日・場所：2017年12月11日～2018年1月15日 太田市/深谷市 新上武大橋下流の利根川河川敷
- 4) 観察した環境や状況など：川幅(堤防間)約900m、(省略)堤防間の川幅約900m、水面の

幅約 150m の広い河川。河川敷には礫の河原とヨシ原、耕作地などが広がり、ニセアカシアなどの灌木が生えている。

- 5) 形態に関する記述と同定した基準：セアカモズとモウコアカモズ *L. isabellinus*、アカオモズ *L. phoenicuroides*、アカモズ *L. cristatus* の幼鳥は識別が容易ではない。本件個体については小茂田 (2018a, 2018b) に詳細な識別記事があるが、ここではこの記事で指摘された要点を再整理し、若干補足する。以下の識別点は小茂田 (2018a, 2018b) のほか、Svensson (1992)、森岡 (1998)、堀本・渡部 (2014)、Worfolk (2000)、Demongin (2016)、梅垣 (2019) で示された識別点をまとめたものである。

- ・ 一見してモズ類、各部に鱗模様が入ることから幼羽が残る幼鳥 (図 3A)
- ・ 頭部が灰色で、黒い過眼線が目先まで明瞭 (図 3A) → セアカ雄・シマアカ雄
- ・ 初列風切基部に白斑がない (図 3A,C) → セアカ・アカモズ
- ・ 全体的に尾が短めに見える (図 3A) → セアカ・モウコ・アカオ
- ・ 最外尾羽が長い (図 3B) → セアカ・モウコ
- ・ 外側尾羽の基部に大きな白色部がある (図 3B) → セアカ雄
- ・ 外弁欠刻が P8 と P7 で明瞭、P6 は無いか不明瞭 (図 3C) → セアカ
- ・ P9 が長く、P6 とほぼ同じ (図 3C,D) → セアカ
- ・ 初列風切が長くて制止時に 8 枚見え、P7 より内側が等間隔 (図 3D) → セアカ

翼に小さな白斑があったり、尾羽が褐色であったりするなど、他種との交雑が疑われるような特徴も認められないため、この個体はセアカモズの雄幼鳥 (第 1 回冬羽) だと考えられる。

- 6) 写真：小茂田 (2018a, 2018b) に白黒写真がある。同じ写真をトリミングし、補助線等を入れたものを図 3 として示した。
- 7) 過去の記録と考察：迷鳥として舐倉島、与那国島、宮崎、香川 (日本鳥学会 2012)、神奈川県 (堀本・渡部 2014) などで記録されているが、群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。
- 8) 文献：

Demongin, L. 2016. *Identification guide to birds in the hand*. Beaugregard-Vendon.

堀本 徹・渡部良樹 2014. 神奈川県相模川におけるセアカモズ *Lanius collurio* の記録. 日本鳥学会誌 63(2) : 329-336.

小茂田英彦 2018a. 尾羽の外側が白いモズ…それは…? 迂闊にもセアカモズだった!! (その 1). 野の鳥 346 : 14-15.

小茂田英彦 2018b. 尾羽の外側が白いモズ…それは…? 迂闊にもセアカモズだった!! (その 2). 野の鳥 347 : 13-15.

森岡照明 1998. 新しい識別の試み 第 9 回舐倉島で観察されたモズ類. BIRDER 12(1) : 66-69.

Svensson, L. 1992. *Identification Guide to European Passerines. Forth, revised and enlarged edition*. Published by the author, Stockholm.

Worfolk, T. 2000. Identification of red-backed, isabelline and brown shrikes. Dutch Birding 22 : 323-362.

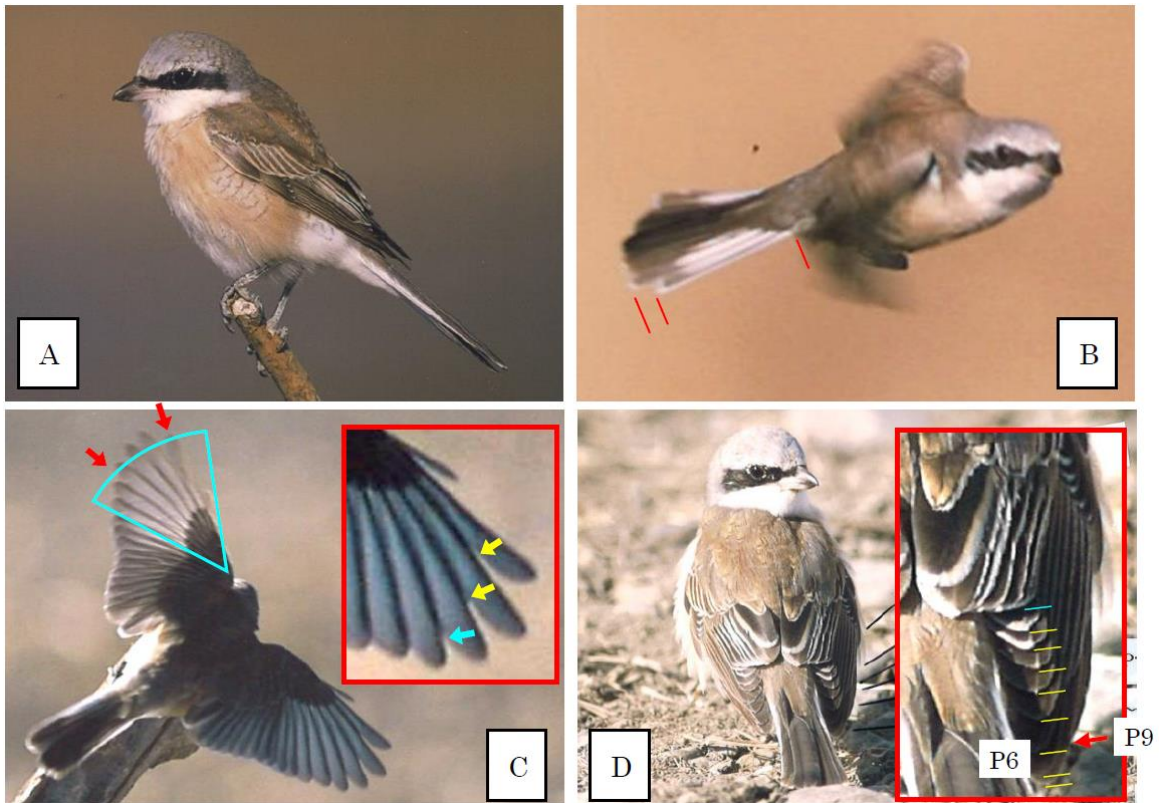


図3 セアカモズの全身と翼、尾の特徴 (小茂田英彦)

頭部が灰色で、黒い過眼線が明瞭。各部に鱗模様の幼羽が残る。尾が短め。(A)

尾羽に大きな白色部があり、R6は他の尾羽よりわずかに短いだけ。(B)

外弁欠刻はP8とP7で明瞭だがP6では不明瞭。P9はP6とほぼ同じ長さ。(C,D)

初列風切の突出が大きくP1~P8の8枚が見えている。P7より内側がほぼ等間隔。(D)

511. ホシムクドリ *Sturnus vulgaris*

- 1) 観察個体数：1羽
- 2) 観察者名：臼田正人
- 3) 観察日・場所：1999年12月18日 太田市利根川早川合流点付近
- 4) 観察した環境や状況など：草地に降りて、地面で採餌中と思われた。
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：一見してムクドリ類であり、全身光沢のある黒色で、細かな淡色斑が散在する独特の色彩から、ホシムクドリと同定された。
- 6) 写真：あり (p.70の図511)
- 7) 過去の記録と考察：全国で不定期に記録され、茨城、千葉、東京、神奈川などで記録がある (日本鳥学会 2012)。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。
- 8) 文献：-

526. ノハラツグミ *Turdus pilaris*

- 1) 観察個体数：幼鳥（第1回冬羽）1羽
- 2) 観察者名：敷地富士雄・臼田正人
- 3) 観察日・場所：2015年12月15日（敷地）、12月16日（臼田）高崎市榛名湖沼ノ原付近
- 4) 観察した環境や状況など：榛名湖は標高1,084 mにある周囲4.8kmのカルデラ湖である。湖畔にはミズナラやズミなどの落葉広葉樹とカラマツやアカマツなどの針葉樹からなる雑木林が広がり、林床にはササが生えている。観察された沼ノ原は灌木林で、明るく開けた林である。

16日早朝、野鳥の観察撮影中、目の前約20mのズミの木に止まり、実を食べている1羽を発見。10倍の双眼鏡で観察した後、600mmの望遠レンズ付一眼レフカメラで撮影した。観察中、地面に降りることはなかった。時折、ツグミに似た「クワクワ」とか「キョキョ」と聞こえる声を発した。発見から5分ほどで飛び去り、見失った（臼田 私信）。
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：一見してツグミ類であり、大きさはツグミ *T. naumanni* とほぼ同大かやや大きいくらいであった。青灰色の頭部、淡茶褐色の背、白地に黒色の斑が散在する腹部が目立った。嘴は淡い黄色で先端が黒く、胸の脇がわずかにオレンジ色がかって見えた。足は黒く、腰は頭部より白っぽい青灰色であった。これらの特徴的な色彩からノハラツグミと同定された。
- 6) 写真：あり（p.70の図526、図4）
- 7) 過去の記録と考察：迷鳥とし北海道、本州、舩倉島や対馬で記録されている（日本鳥学会 2012）。栃木県では日光市戦場ヶ原で2018年1月～2月に1羽が観察・撮影されているほか（齋藤 2018）、北海道では同時期に複数個体が観察されている（先崎・先崎 2019）。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。なお、外側の次列大雨覆5～6枚は先端が摩耗しており、内側の次列大雨覆3～4枚より色が淡く長さも短いことから幼羽であると考えられたため（図5）、本個体は第1回冬羽の幼鳥である。
- 8) 文献：

齋藤 慎治 2018. 栃木県におけるノハラツグミの初めての記録. *Accipiter* 23:R1-R2
先崎 啓究・先崎 愛子 2019. ノハラツグミ観察記. *BIRDER* 33(01):42-43.

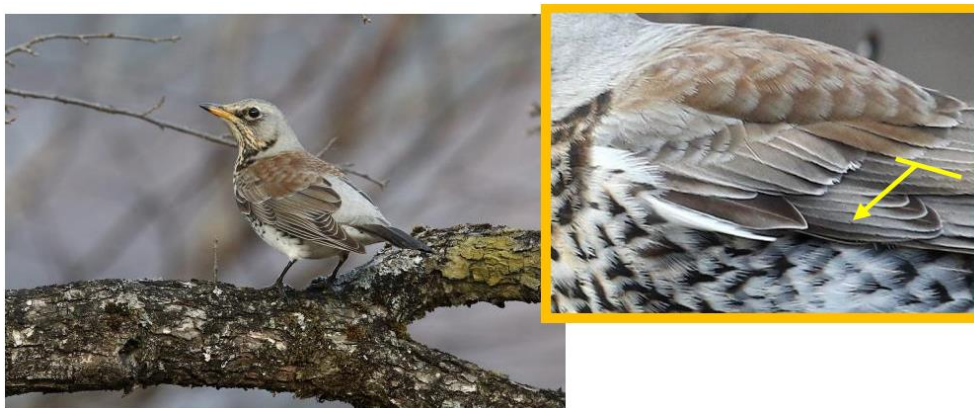


図4 ノハラツグミの全身と大雨覆（臼田正人）

外側大雨覆5～6は先端が摩耗して内側数枚より色が淡く長さが短い幼羽である。

560. オジロビタキ *Ficedula albicilla*

- 1) 観察個体数：幼鳥（第1回冬羽）1羽
- 2) 観察者名：竹内 寛
- 3) 観察日・場所：2015年10月7日 太田市吉沢町
- 4) 観察した環境や状況など：平地の林でエゾビタキなどと一緒に見られた（竹内 2016）。
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：本種はニシオジロビタキとよく似ており、識別には注意を要する。本件個体については竹内（2016）に識別記事があるが、ここではこの記事で指摘された要点を再整理し、若干補足する。以下の識別点は竹内（2016）のほか、Svensson *et.al*（2005）、大西（2011）、Demongin（2016）からの引用である。

- ・一見して小形のヒタキ類で、黒い尾羽と基部両側の白色斑が目立つ。体上面は灰褐色で、翼に目立つ白斑はない。→ オジロ雌型・ニシオジロ雌型
- ・大雨覆と三列風切の先端に小さな淡色斑がある。→ 幼鳥（第1回冬羽）
- ・上尾筒は尾羽と同じく漆黑。→ オジロ
- ・下嘴は基部まで黒く、嘴ががっしりした印象。→ オジロ
- ・三列風切先端の淡色斑は白っぽく、楔形で大きめ。→ オジロ
- ・下面は腹部が汚白色で、喉がやや淡色に見える。→ オジロ

以上のことから、この個体はオジロビタキの幼鳥（第1回冬羽）だと考えられる。

- 6) 写真：あり（p.70の図560、図5も同じ写真とその拡大）



図5 オジロビタキの全身と三列風切、大雨覆（竹内 寛）

上尾筒は尾羽と同じく漆黑で、下嘴は基部まで黒色、三列風切の淡色斑は大きめ。

- 7) 過去の記録と考察：全国で不定期に記録され、茨城、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川などで記録がある（日本鳥学会 2012）。群馬県ではオジロビタキまたはニシオジロビタキの観察記録が2例あるが、種を同定するに至っていないため（日本野鳥の会群馬 2014）、本件個体がオジロビタキの群馬県初記録であると思われる。
- 8) 文献：

Demongin, L. 2016. *Identification guide to birds in the hand*. Beauregard-Vendon.

日本野鳥の会群馬 2014. 群馬県鳥類目録 2012. 日本野鳥の会群馬, 高崎.

大西敏一 2011. オジロビタキの謎～ヒガシとニシ, 多いのはどっち? BIRDER 25(6):50

Svensson, L., Collinson, M., Knox, A.G., Parkin, D.T. and Sangster, G. 2005. Species limits in the Red-breasted Flycatcher. *British Birds* 98(10):538 - 541.

竹内 寛 2016. 群馬県内で記録されたオジロビタキ. *野の鳥* 333 : 12.

631. ミヤマシトド *Zonotrichia leucophrys*

- 1) 観察個体数 : 1羽
- 2) 観察者名 : (省略)
- 3) 観察日・場所 : 1977年10月(14日?) 片品村
- 4) 観察した環境や状況など : (省略)
- 5) 形態に関する記述と同定した基準 : 高野(1981)にチャガシラヒメドリ *Spizella passerina* として掲載された写真が、初版第2刷以降は削除された。Brazil(1991)はこれをミヤマシトドの記録として引用・掲載している。同定の根拠は示していないが、バーダー編集部(1993)もこの写真の個体をミヤマシトドとしている(ここまで、日本産鳥類記録委員会2008)。日本鳥学会(2012)もこれをミヤマシトドの記録として採用し、群馬県では迷鳥として記録があるとしている。

高野(1981)に掲載されている写真は不鮮明であるが、太い頭側線が赤茶色で目立つことなどからチャガシラヒメドリによく似ている。しかし、細い頭中央線が少なくとも頭頂付近まで明瞭であることや、嘴が明るい橙色であること、体羽下面や腰に灰色みないことなどがチャガシラヒメドリとは異なり、ミヤマシトドの幼鳥に合致する。

- 6) 写真 : あり(高野(1981)のp.181にカラー写真が掲載されている)
- 7) 過去の記録と考察 : 迷鳥として、北海道、本州、四国などで記録がある(日本鳥学会2012)。群馬県では本件以外、ミヤマシトドの記録はない。
- 8) 文献 :
バーダー編集部 1993. 次に出るのはこの鳥だ [北米の鳥編]. *BIRDER* 7(7) : 14-19,77.
Brazil, M.A. 1991. *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.
日本産鳥類記録委員会 2008. 日本産鳥類記録リスト(9). *日本鳥学会誌* 57(2) : 165-170.
高野伸二(編) 1981. カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京.

632. キガシラシトド *Zonotrichia atricapilla*

- 1) 観察個体数 : 1羽
- 2) 観察者名 : 松本康則、松元達夫、石井八郎ほか、野鳥の会吾妻会員
- 3) 観察日・場所 : 2013年11月24日~2014年4月23日 中之条町山田川ダム周辺
- 4) 観察した環境や状況など : ダムサイト近くにある建材業者の資材置場。比較的平坦な場所で、一面に雑草が生えていた。期間中、同一個体と思われる1羽のみが観察された。発見当初は20mくらいの距離で、デジタルカメラと300mmのレンズ、2倍のテレコンバーターを使用して観察・撮影した。最短では約5mの距離まで近寄れた。周囲にいたホオジロなどとは別行動をとり、単独でいることが多かった。また、移動の際には、ホオジロ

などが目的とする場所に直接舞い降りるのに対し、この個体は、はるか手前に降りて、目的地まで地上を走って移動する行動がたびたび観察された。時折、地鳴きと思われる小さい声を発した（松本 私信）。

5) 形態に関する記述と同定した基準：ホオジロと同大かやや大きいサイズの小鳥であった。発見当初は褐色を基調とした全体的に地味な色彩で、頭部に黄色みがあることと、翼に白色の細い翼帯が2本あることが目立った。尾羽に目立つ白色斑はなかった。上嘴は暗色で下嘴は黄色を帯びた淡色であった（図 6A）。その後、頭部を換羽して、3月末頃には幅の広い黄色の頭中央線と黒く太い頭側線が現れ、耳羽から上胸部にかけて灰色になった。下嘴はやや色が濃くなり橙色みを帯びた淡色になった（図 6B）。趾と跗蹠はやや桃色を帯びた淡橙色であった。換羽後の頭部の特徴的な色彩や、明瞭な2本の白色の翼帯、尾羽に白色斑がないことなどから、キガシラシトドと同定された。なお、尾羽の先端や趾、嘴などには擦れや傷などはなく、飼育個体であった可能性は低いと思われる。1月に順光で撮影された写真（図 6A）では、虹彩が灰色みを帯びた褐色であったことが判別でき、頭部にも細い縦斑が入っていることから、発見時は第1回冬羽、換羽後は第1回夏羽の幼鳥であったと考えらえる。

6) 写真：あり（図 6）

7) 過去の記録と考察：迷鳥として本州以北で十数例記録されている（日本鳥学会 2012）。関東地方における近年の記録としては、2011年4月に埼玉県川口市（日本野鳥の会埼玉 2011）と、2011年1月～4月に千葉県の記録がある（日本鳥学会 2012）。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。

8) 文献：

日本野鳥の会吾妻 2017. 50年のあゆみ 日本野鳥の会吾妻創立50周年記念誌. 日本野鳥の会吾妻, 中之条.

日本野鳥の会埼玉 2011. 野鳥記録委員会最新情報. しらこぼと 326 : 5.

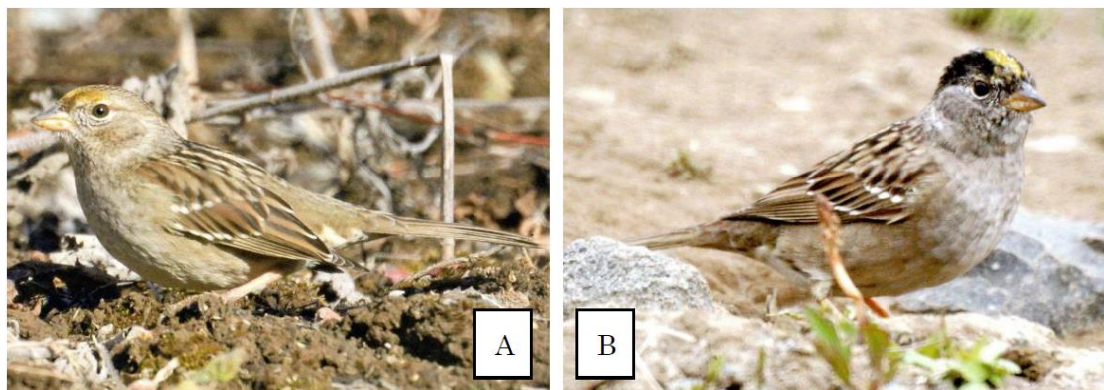


図 6 キガシラシトド換羽前 (A:2014.01.05) と換羽後 (B:2014.04.20) (松元達夫)
頭中央線に黄色みがあり、虹彩は灰褐色。第1回冬羽。(A)
換羽により頭部に特徴的な色彩が現れた。第1回夏羽。(B)

目録へ追加した種（リストの○）

112. クロコシジロウミツバメ *Oceanodroma castro*

- 1) 観察個体数：1羽
- 2) 観察者名：一般県民（桐生が岡動物園保護収容）
- 3) 観察日・場所：2013年10月11日 みどり市内
- 4) 観察した環境や状況など：台風（2013年第25号）の通過後、道路にうずくまっていたところを保護され、桐生が岡動物園に収容された。その後、回復したため放鳥された。
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：本種はコシジロウミツバメ *O. leucorhoa* と似ているが、本種の方が体の黒色みが強い。両種とも腰の白色部は上尾筒から下尾筒側面まで広がるが、本種の腰には中央に黒線が入らず、下尾筒の白色部も大きい。外側尾羽の基部（上尾筒をめくると見える）は、コシジロでは白色部がほとんどないが、本種には内外弁とも幅広い白色部がある。本種の方が、尾の切れ込みが比較的浅く、尾羽の長短差はコシジロが16-23mmであるのに対し、クロコシでは6-12mmである（清棲1978）。本件個体は、写真などの客観的資料は残されていないが、保護個体なので同定に問題はないと考える。
- 6) 写真：なし（県自然環境課の回答）
- 7) 過去の記録と考察：岩手県日出島や三貫島などで繁殖し、近県では栃木、千葉、埼玉、東京、神奈川などで迷鳥として記録がある。（日本鳥学会2012）。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。
- 8) 文献：
清棲幸保 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑Ⅲ. 講談社, 東京.

209. ミヤコドリ *Haematopus ostralegus*

- 1) 観察個体数：1羽
- 2) 観察者名：植木正勝、堀込紀夫（日本野鳥の会吾妻）、上原 健、飯塚利一（日本野鳥の会）、ほか3名
- 3) 観察日・場所：2016年10月7日 嬬恋村田代湖
- 4) 観察した環境や状況など：田代湖畔で野鳥観察中に、変わった鳴き声を発しながら1羽の大きめな鳥が湖の周辺を飛び回る姿を発見し、双眼鏡で観察した。
- 5) 形態に関する記述と同定した基準：上記の飛翔する姿の観察で、黄色い（編注：橙色の意か）長い嘴から、日本野鳥の会の職員らがミヤコドリであると同定した。
（編注：日本野鳥の会吾妻（2017）には、田代湖の探鳥地案内の中で、「平成28年10月7日にはミヤコドリを確認（群馬県で初）」との記載があるが、観察状況や同定の根拠は示されていないため、同会に問い合わせたところ、上記の回答を得た。）
- 6) 写真：なし。
- 7) 過去の記録と考察：日本全国で稀に記録があり、千葉では越冬している（日本鳥学会2012）。内陸での記録は珍しいと思われるが、飛翔中であれば黒と白と赤く長い嘴（条件によっ

て、橙色や黄色っぽく見えたかもしれない) などにより識別は容易であること、類似種がないことなどから、ミヤコドリであると考えられる。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録と思われる。

8) 文献：

日本野鳥の会吾妻 2017. 日本野鳥の会吾妻創立 50 周年記念誌 50 年のあゆみ. 日本野鳥の会吾妻, 中之条.

490. オオセッカ *Locustella pryeri*

1) 観察個体数：1羽

2) 観察者名：深井宣男

3) 観察日・場所：2012年2月5日 板倉町渡良瀬遊水地

4) 観察した環境や状況など：標高16m、広大な遊水地の一部で、記録されたのは疎らなヨシ原と、その下にスゲ類が生えている湿った湿地。

5) 形態に関する記述と同定した基準：本種の生息確認のために、地鳴きと囀り音声を使ってプレイバック法で調査中に、音声に反応して鳴き返す個体を確認した。姿は確認していないが、観察者はこの方法で多くの個体を確認しているため、種の同定には問題がないと考える。

6) 写真：なし。

7) 過去の記録と考察：青森、秋田、茨城、千葉、栃木などで局地的に繁殖し、越冬期には埼玉、東京、静岡、愛知、和歌山、岡山、高知などで記録がある。(日本鳥学会 2012)。渡良瀬遊水地では2010年頃から繁殖が知られるようになり(平野 2010)、その後も少数が通年生息している(平野 2015)。渡良瀬遊水地には板倉町の一部が入っており、その場所での繁殖は記録がないが、今回の記録のように、越冬期には稀に生息が確認されることがある。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。

8) 文献：

平野敏明 2010. 渡良瀬遊水地におけるオオセッカの初めての巣卵の記録. *Accipiter* 16: S1-S3.

平野敏明 2015. 渡良瀬遊水地における繁殖期のオオセッカの生息状況の変化と生息環境. *Bird Research* 11: A1-A9.

557. マミジロキビタキ *Ficedula zanthopygia*

1) 観察個体数：雄1羽

2) 観察者名：田口雅之

3) 観察日・場所：2018年6月4日 7:40 頃 渋川市伊香保町二ツ岳北面鷲ノ巣風穴付近

4) 観察した環境や状況など：標高約1000m、落葉広葉樹の明るい林で、植林されたヒノキも混じっている。地表には広葉樹の落葉が堆積しており、草本層は貧弱だが、1~2mの高さの低木が疎らな藪を形成している。風穴の名の通り、地面には苔むした溶岩が散見される。午前7時40

分頃、風穴近くで、山側の斜面を見ながら休憩していたところ、目の前 3~4 m、地上約 0.4m の低木の枝に突然飛来した。地面近くの低い枝を動き回り、観察中は地面に降りることはなく、声も発しなかった。肉眼で特徴を観察した後、写真を撮ろうとしたところ飛び去り、見失った(田口 私信)。

5) 形態に関する記述と同定した基準：一見してキビタキの雄によく似ており、上面の黒と下面の黄色を基調とした色彩のヒタキ型の小鳥であった。近くで同時に観察した鳥がいなかったため比較はできないが、サイズの的にもキビタキと同じくらいに見えた。肉眼での観察ではあったが、眉斑がはっきりと白く見えた。翼には白斑があったが、キビタキと比較した場合の白斑の大きさや、三列風切の外弁まで白いかどうかなどはわからなかった。大きさと色彩がキビタキのオスによく似ており、眉斑がはっきりと白かったことから、本種の雄と判断した。肉眼だが、至近距離での観察であり、各部の特徴を誤認する可能性は低い。

6) 写真：なし。

7) 過去の記録と考察：旅鳥として主に日本海側の離島で記録されているが、数は多くない(日本鳥学会 2012)。富士山麓で本種の雄がキビタキの雌と繁殖した例がある(浅見・堀田 1985)。2018年5月27日には、栃木県渡良瀬遊水地で雄1羽が観察・撮影されている(online)。

本種は主に日本海側で旅鳥として記録されるため、6月上旬に太平洋側の当地で観察されることは珍しい。検証可能な写真はないが、至近距離での観察であり、特徴的な色彩から誤認の可能性は低いと考えられる。群馬県では過去に記録がなく、本県初記録であると思われる。

8) 文献：

浅見明博・堀田明 1985. 写真集 富士の鳥. 保育社, 大阪.

栃木ぶらぶら再発見「渡良瀬遊水地 キビタキ?もしかしてマミジロキビタキなのかな??」

https://tochigi-shk.at.webry.info/201805/article_17.html (2019.01.25 閲覧)

確実な記録へ変更した種（リストの○ → ●）

081. アビ *Gavia stellata*

2014年2月19日に、館林市近藤沼で冬羽1羽が撮影された（p.68の図081）。一見してアビ類の冬羽であり、嘴がやや上に反っていること、頬から前頸にかけての白色部が広いことから、本種と同定された。

128. ウミウ *Phalacrocorax capillatus*

2018年12月13日に、藤岡市矢場池で幼鳥1羽が撮影された（p.69の図128）。類似種のカワウとは口角の黄色い裸出部分の形状が異なること、頬の淡色部が眼の後方で切れ上がっていることなどから（図7）、本種と同定された。



図7 ウミウ（A）とカワウ（B）の比較（関上秀雄）

口角の黄色い裸出部が、ウミウでは尖るがカワウでは丸みがある。頬の淡色部が、ウミウでは上方へ切れ上がるが、カワウでは眼の高さを越えない（箕輪 2007）。

132. サンカノゴイ *Botaurus stellaris*

2017年12月9日に、邑楽町ガバ沼で1羽が撮影された（p.69の図132）。大型のサギ類で、黄褐色の地に黒い縦斑が多数入っており、頭頂と顎線が黒いことなどから本種と同定された。

215. アオシギ *Gallinago solitaria*

2013年1月16日に、前橋市富士見町箕輪で1羽が撮影された（p.69の図215）。標高約1000mの川の浅瀬にいる個体が写っており、暗灰褐色の地に白色の細かい斑が入ることなどから、本種と同定された。

413. コウライウグイス *Oriolus chinensis*

2016年6月24日に、高崎市中尾町で雄1羽が撮影された（p.70の図413）。黄色い体色、後頭部に伸びる黒い過眼線、赤い嘴から、本種の雄と同定された。日本で未記録の類似種とは配色や黒色部の形状が異なる。

439. ツリスガラ *Remiz pendulinus*

1996年12月21日に、伊勢崎市坂東大橋下流で1羽が撮影された (p.70 の図 439)。尖った細い嘴や前頭から眼の後方へ下がるように入る黒くて太い過眼線などから、本種と同定された。

604. ユキホオジロ *Plectrophenax nivalis*

2001年3月4日に、伊勢崎市坂東大橋下流で1羽が撮影され、読売新聞埼玉県北部版に写真が掲載された。新聞紙面の写真からも本種であることが同定可能であるとして、埼玉県の正式記録とされている (日本野鳥の会埼玉 2001)。

609. シラガホオジロ *Emberiza leucocephalos*

2011年2月8日に、藤岡市牛田で雄1羽が撮影された (p.71 の図 609)。白くて太い頭中央線と顎線、濃い赤茶色の頬や喉などから、本種の雄と同定された。

文献

箕輪義隆 2007. 海鳥識別ハンドブック. 文一総合出版, 東京.

日本野鳥の会埼玉 2001. 県内野鳥記録の追加情報. しらこぼと 205 : 5.

http://www.wbsj-saitama.org/kaihou/205_2001.05.pdf (2019.08.31 閲覧)

参考記録とした種（リストの△）

007. サカツラガン *Anser cygnoides*

戦前の古い記録（卯木 1985）と、2009 年以降、館林市城沼と多々良沼で観察・撮影された記録がある。戦前は千葉県東葛飾郡新浜海岸（現 市川市の東京湾）で定期的に越冬する 30～70 羽の群がいたことから（清棲 1978）、本種が渡来した可能性も十分考えられるが、前者の具体的な記録は発見できなかった。また、後者は発見当初の行動などから逸出個体である可能性が高いと考えられた。したがって、本種は参考記録に留める。

087. クロアシアホウドリ *Phoebastria nigripes*

1988 年 9 月 17 日に伊勢崎市坂東大橋下流で 1 羽が観察された記録がある（日本野鳥の会埼玉 1988）。観察された内容から本種の可能性が高いと思われるが、同定可能な写真がないことから、ここでは参考記録に留める（この記事は Web で閲覧可能）。

097. ヒメシロハラミズナギドリ *Pterodroma longirostris*

2014 年 11 月 13 日に、みどり市で 1 羽が保護され、桐生が岡動物園に收容された。回復後、放鳥された。事業主体の群馬県自然環境課に問い合わせたところ、写真や同定の根拠に関する記録はなく、種の同定に関しては確定ではないとの回答であった。保護された個体であることから細部の観察が可能で、本種である可能性が高いと思われるが、確証を得られないため、ここでは参考記録に留める。

330. ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus*

県内で保護されたが死亡した鳥獣を展示用に本剥製とした小根山コレクションの一部と思われる本種の標本（図 8）が、県立自然史博物館に収蔵されている。白い冠羽がわずかに認められ、喉が黒い。この標本の自然翼長は約 126mm、嘴峰長は約 12.1mm である（深井 私信）。残念ながら標本ラベルが失われており、保護日時等は不明。県立野鳥病院の收容リスト（1982 年以降）には本種の記録がないため、1981 年以前に小根山森林公園鳥獣資料館に収蔵されたものである可能性があるが、確証を得られないため、ここでは参考記録に留める。



図 8 ウミスズメ（群馬県立自然史博物館収蔵 深井宣男）

396. クマゲラ *Dryocopus martius*

2011年7月に中之条町野反湖畔で1羽が観察された(中村 私信)。短時間の観察ではあったが、観察内容は詳細で、色彩や鳴き声、体の大きさ、各部の形状などを検証した結果、おそらく本種に間違いはないと考えられる(深井 2011)。標高1500m、周辺に人家が全くない奥深い山中であるため、逸出個体である可能性はあまり考えられない。しかし、本種の希少性と、分布から考えて疑問が残ること、観察者が1人であること、写真や音声など客観的証拠がないことから、ここでは参考記録に留める。

この記事が掲載されている会報は入手困難であることから、下記に記事を転載する。

中之条町の中村一雄氏から、謎のキツツキを観察したという情報をいただきました。観察記録は以下のとおりです。

1. 種名・個体数：不明(黒色で大型のキツツキ類)・1羽
2. 観察者：中村一雄
3. 観察日時・天候：2011年7月22日15時頃・曇天
4. 場所：群馬県吾妻郡中之条町入山野反湖畔(36.716 N 138.646 E)
5. 観察距離・方法：約25~30mの距離から肉眼で観察
6. 観察した環境：シラビソの混じるダケカンバ林、40年生程度の若い林で樹高は約10m
7. 形態の記述：一見してキツツキ類であり、全身黒色に見えた。アカゲラやアオゲラと比較して大きく見え、プロポーション的にはアカゲラやアオゲラより長いキツツキに見えた。ダケカンバの幹に止まった姿を右側面から観察した際に、後頭部がやや尖り気味に見えた。頭部の赤色部や嘴の色、眼の色などは判別できなかった。飛翔時に下面を見た際にも、黒色以外は見えなかった。
8. 計測値(文責深井)：問題の鳥が止まったダケカンバを観察位置から撮影した画像に、観察時の状況に合わせてキツツキ類の背面と側面のシルエットを合成して、中村氏の記憶と照合した。鳥の姿勢による長さの変化や平面画像上での測定値と実際の長さの違いなどを大まかに修正し、ダケカンバの計測値とシルエットの比率から問題の鳥の大きさを推定した。その結果、問題の鳥の翼長は20~22cm程度と考えられた(アオゲラやオオアカゲラの翼長は約15cm、クマゲラの翼長は約24cm)。
9. 観察した行動：林道沿いで地上の植物を観察していると、左後方上空より「キョーン、キョーン、ケレケレケレ」というように聞こえる声が出て、問題の鳥が飛来した。その鳥は上空数mの高さを飛翔して観察者の左前方25~30mにあるダケカンバ(胸高直径約15cm、樹高約10m)の地上3mほどの幹に垂直に止まった。その後、垂直に止まったまま幹を左側に回りこみ、全身の右側面が観察できた。数秒~10秒程度の観察の後、奥の林に飛び去った。
10. 写真の有無：撮影できなかった
11. 過去の記録と文献：仮にクマゲラであるとすれば、群馬県では記録はない。現在の最も近い生息地は東北地方北部である。栃木県日光市での古い記録がある(日本鳥学会2000)。
12. 考察(文責深井)：証拠写真などがいないため種の断定はひかえるが、若干の考察を記述して

おく。まず、全身黒色のキツツキ類であったこと、大きさがアオゲラやオオアカゲラより明らかに大きかったこと、後頭部がやや尖り気味であったこと、クマゲラに特徴的な声を発したことなどから、観察時の光線の加減で黒く見えた可能性や黒化個体の可能性なども含めてアオゲラやオオアカゲラの誤認ではなく、クマゲラである可能性が高いと思われる。

ただし、以下の点に疑問が残る。クマゲラであればメスにも頭部に赤色部があるがそれが確認されていないこと、大きさがクマゲラとしてはやや小さいこと、生息地や生息環境からはクマゲラが当地で観察されるとは考えにくいことである。しかし、頭部の赤色部や嘴・眼の色については、肉眼での観察であることと観察距離の関係から、判別できなかったとしても大きく矛盾するものではないと考えられる。大きさがやや小さい点は、記憶や推定方法の誤差の範囲内に収まるものであろう。また、生息環境については、中村氏は10年来当地に足繁く通って植物観察をしているが、今回のような鳥を観察したことや声を聞いたことはなく今回が初めてであったことから、移動途中の個体がたまたま飛来したとすれば、その可能性を否定できないと考えられる。クマゲラは留鳥であり移動しないとされるが、幼鳥の分散過程で迷行してくる可能性が全くないわけではないであろう。

今回観察された「クマゲラのような鳥」について、中村さん自身が半信半疑だそうです。私も8月7日に中村さんに現地や周辺を案内していただき、クマゲラの声再生して反応をみましたが、生息は確認できませんでした。東北のクマゲラ生息地はうっそうとしたブナ林だそうですから、今回の場所はあまりクマゲラにはそぐわない環境です。常識的に考えれば「群馬でクマゲラ」はあり得ない話ですが、中村さんが「何か」を観察されたのも事実です。北海道や大陸の生息地では、時に若い林でクマゲラが観察されることもあるそうですし、今回の観察場所から直線距離で数 km 離れた場所にはブナ林があり、古いとはいえ日光での記録もあります。証拠がないのが残念ですが、「群馬でクマゲラ」というのもあり得ない話とは言い切れないと思いました。(深井宣男)

転載ここまで

PU3. ニシオジロビタキ *Ficedula parva*

本県ではオジロビタキまたはニシオジロビタキの記録が2例ある。このうち、2000年に伊勢崎市で観察撮影された個体は、体下面の色調がオジロビタキ的であるものの、嘴や上尾筒、三列風切の淡色斑は、ニシオジロビタキの特徴を有しており、本種である可能性が高いが、断定できないため、参考記録に留める。

文献

- 千嶋 淳 2013. 北海道の海鳥1 ウミスズメ類①. NPO 法人日本野鳥の会十勝支部, 帯広.
深井宣男 2011. 野反湖で謎のキツツキ!. 野の鳥 308 : 4-5.
清棲幸保 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑Ⅱ. 講談社, 東京.
日本野鳥の会埼玉 1988. クロアシアホウドリの観察報告. しらこぼと 54 : 7.

初版の記録を削除した種（リストの △/● → ×）

初版では、同定が曖昧な記録について、可能性が低いものについても参考記録としていたが、可能性が高いが確証が得られない本来の参考記録と混同されることを避けるため、曖昧な記録は削除することとした。また、同定の誤りが指摘されたものについても、訂正し削除する。

002. ライチョウ *Lagopus muta*

「1945年頃まで燧ヶ岳で（ライチョウの）親子連れが見られた」という地元住民の話がある（卯木 1979、平井 2002）。客観的資料は残っていないが、誤認する可能性のある種が同じ環境に生息しないことから、かつて本種が生息していた可能性を否定できないと思われる。しかし、ハイマツ帯は至仏山にも存在するものの、発見できた文献資料は2点とも燧ヶ岳（福島県）の記録であることから、ライチョウは群馬県の目録から削除するのが妥当と判断した。

040. オオホシハジロ *Aythya valisineria*

2000年6月28日に館林市多々良沼で1羽が記録された（太田 野の鳥 241）。ホシハジロの中には、夏羽で嘴がほぼ全て黒く、オオホシハジロと似た個体がいるため（氏原・氏原 2015）識別には注意を要するが、今回は画像等の資料がなく、記録の検証ができなかった。

071. カラスバト *Columba janthina*

1964年2月19日に館林市城沼畔で2羽が観察された。「飛行は早くて直線的、飼ハト（ドバト）ではなくカラスバトであった」（鈴木 野の鳥 22）というが、観察地は本来の生息環境とは大きく異なること、カワラバト（ドバト）の中には全身黒い個体もいることから、検証が必要だが、画像等の資料がなく、記録の検証ができなかった。

113. ヒメクロウミツバメ *Oceanodroma monorhis*

2007年7月17日に拾得された本種とされる標本が中之条町歴史と民俗の博物館に展示されている。しかし、この個体は本種にしてはやや大きく（標本は測定していないが、目測で翼長が180mm程度ある）、尾羽の形状が深く切れ込んだ凹型である点が本種と異なる。また、腰が背と同色で淡色には見えないことなどからオーストンウミツバメ *O. tristrami* とも異なり、この個体はクロウミツバメ *O. matsudairae* の可能性がある。

125. ヒメウ *Phalacrocorax pelagicus*

戦前、玉村町五料の利根川で記録があるというが詳細は不明（卯木 1985）。元の記録をたどれず、本県に渡来する可能性を示唆する記録も見つけられなかった。

149. クロサギ *Egretta sacra*

本種とされる数例の観察記録があるが、いずれも交雑個体である可能性を否定できない（日本野鳥の会群馬 2014）。

173. ツルクイナ *Gallicrex cinerea*

観察記録があるというが詳細は不明。

238. コキアシシギ *Tringa flavipes*

2001年4月24日に館林市多々良沼で観察された(太田 進 私信)。タカブシギが本種と誤認されることがあるため検証が必要だが、画像等の資料がなく、記録を検証できなかった。

287. ズグロカモメ *Larus saundersi*

1984年9月15日に玉村町五料橋で水面に降りている冬羽の1羽が観察された(斎藤 野の鳥 145)。画像等の資料がなく、記録を検証できなかった。

313. エリグロアジサシ *Sterna sumatrana*

1990年8月19日に館林市郷谷で観察・撮影された(飯塚・伴場 野の鳥 181)。この個体は、特に頭部の色彩(図9)から本種と同定され、台風による迷行として記録が採用された(日本野鳥の会群馬 2014)。しかし、1990年には8月10日に第11号が上陸して群馬県を通過して以降、9月19日の第19号まで台風は接近していない。また、画像から、エリグロアジサシとしては風切や背が暗色であること、頭部の黒色部の形状がやや異なること、尾が翼端より短いこと、雨覆が暗色であることから、コアジサシではないかという指摘を受けた。この画像では口を開けていると思われるが、嘴が細く長めに見える点はエリグロアジサシに近いが、画像が不鮮明であり、それ以外の点はコアジサシの特徴に一致することから、この個体はコアジサシの誤認であると判断された。よって、この記録を削除する。なお、本種の第1回夏羽についての記事(小茂田 2019)が、識別の参考になる。



図9 コアジサシ(伴場 茂)

320. トウゾクカモメ *Stercorarius pomarinus*

1999.07.12に千代田町利根大堰で観察・撮影された個体は、トウゾクカモメ(編注:トウゾクカモメ類の意と思われる)として支部報に掲載された(井上 野の鳥 235)。細部を検討した結果、この個体はシロハラトウゾクカモメと考えられた(日本野鳥の会群馬 2014)。

406. シロハヤブサ *Falco rusticolus*

1984.02.11に藤岡市三名湖で1羽が観察された(鮎川 野の鳥 142)。画像等の資料がなく

詳細は不明で、記録を検証できなかった。

626. シベリアジュリン *Emberiza pallasi*

1993.03.07 に高崎市観音山探鳥会で本種と思われる観察記録があるが、探鳥会の記録にはシベリアジュリン sp.とされている（編注：*Emberiza* sp. シベリアジュリン？ の意か）。画像等の資料がなく詳細は不明で、記録を検証できなかった。

文献

平井 敦 2002. 尾瀬の麓の探鳥記. 卓企画, 前橋.

小茂田英彦 2019. 日本の図鑑には載っていないコアジサシ第 1 回夏羽です. 野の鳥 356 : 5-7.

日本野鳥の会群馬 2014. 群馬県鳥類目録 2012. 日本野鳥の会群馬, 高崎.

氏原巨雄・氏原道昭 2015. 決定版 日本のカモ識別図鑑. 誠文堂新光社, 東京.

卯木達朗 1979. 群馬の鳥を探る みやま文庫 76. みやま文庫, 前橋.

検討中の記録（リストでは ×）

今回の情報収集期間中に得られた記録のうち、改訂版発行までに同定できなかったものが 1 例ある。2012 年 6 月 5 日にみなかみ町で、台風（2012 年第 3 号）の余波による迷行と思われる個体が保護され（図 10）、野鳥病院に收容されたが死亡した。「水田の脇でうずくまっていた。衰弱していて足が不自由。」とのメモが残っている。

全身灰色の小型の海鳥であることから、ハイイロウミツバメとして收容されたが、尾羽がハイイロウミツバメのように深い燕尾型ではなく、目先など顔の広い範囲が白いことなどから小型のシロハラミズナギドリ類の一種 *Pterodroma* sp. であると考えられた。額が灰色であること、くちばしが太短い形状であること、上面が一律な灰色であること、尾の先端に暗色斑がないことなどから、マダラシロハラミズナギドリ *P. inexpectata* の可能性が高いと考えられるが、最大の特徴である体下面や翼下面の特徴が確認できないため、確実な同定には至らなかった。



図 10 種不明の保護鳥（野鳥病院）

編集後記

日本鳥学会の目録編集委員から、日本鳥類目録改訂第8版への協力依頼が届いたのは2019年3月14日のことでした。2012年に発行された第7版のときと同様、鳥学会に協力することで県内の鳥の記録を整理し、群馬県鳥類目録の改訂をしてはどうかと思い立ちました。群馬県鳥類目録を出版してから5年、掲載したデータから考えると7年が経っていました。追加種が何種かありましたし、新たに写真記録を得られた種もありました。初版の誤同定も訂正したかったし、実によりタイミングに思えました。とは言っても、記録の収集は一人ではできません。野鳥の会群馬として協力するとなると、私の独断でも進められません。早速、代表の浅川さんに相談したところ、会の役員会に諮り、快諾していただきました。作業時間と予算の問題がありましたが、今回は目録編だけを改訂すること、出来上がった原稿は印刷物とはせず、お金のかからないPDF版で発行することで、問題をクリアできました。とはいえ、実際の作業は難航し、作業チームのみなさんには多大な迷惑をかけてしまいました。原稿がほぼできた段階でのPCトラブルや、新型コロナウイルス騒動で仕事が立て込んだこと、予定が遅れたためにメッシュ調査のまとめ時期と重なったことなどで、遅筆癖のある私の原稿執筆がさらに遅くなりましたが、文句も言わずに最後までお付き合いいただき、本当に感謝しています。

今回の改訂作業で、とても勉強になったことが3つあります。1つ目は記録を残すことの大切さです。利根川源流の調査報告書を読んで、卯木さんが奥利根でマキノセンニュウを確認したことは前から知っていましたが、初版作成の時に、清棲図鑑にさらに古い記録が載っていることを見つけた時は驚きました。ただ、清棲図鑑では記録された山名が曖昧で、場所の特定ができませんでした。ところが今回の改訂作業の最終局面で、引用元の観察記録が「野鳥」に載っていることを偶然知り、野鳥の会本部の資料から1959年の記事を読むことができました。そこには日付と登山コースがきちんと書かれており、知りたかった山名が判明したのです。記録を残しておいてくれたことのありがたさ、それと同時に、自分たちが記録を残しておくことの大切さを痛感しました。2つ目は思い込みの怖さです。台風による迷行と思われる保護個体の記録が出てきました。ハイイロウミツバメとされ、数枚の写真がありましたが、海なし県の悲しさで縁の薄い海鳥です。写真の個体に違和感を持ちながらも、そこで思考が止まってしまいました。ただ、最終原稿を確認しながら初版のエリグロアジサシの誤同定の一件を思い出し、専門家に同定を依頼しました。その結果、シロハラミズナギドリ類の一種であることが判明し、検討を継続することになったのです(危なかったです)。3つ目は記録をお寄せいただいた方々の観察眼の鋭さです。改訂作業の当初、追加種はせいぜい5~6種だろうと思っていました。ところが、作業を終えてみれば17種もの新記録がありました。初版発行後のわずか7年間で得られたわけですから、すごい数字だと思います。本当に、みなさんの観察眼には脱帽です。これからも県内新記録が得られることと思います(先日、ノドアカツグミの可能性のある写真も拝見しました)。何か面白い鳥、気になる鳥を観察された際は、ぜひ本会のHPなどを通じて記録をお寄せください。次は本会創立60周年の記念冊子として「群馬県鳥類目録改訂第3版」を発行予定ですので、引き続きご協力いただければ幸いです。宜しく申し上げます。

2020年3月アオシギを見つけた日 深井 宣男



群馬県鳥類目録 改訂版

編集：日本野鳥の会群馬（群馬県鳥類目録改訂作業チーム）

浅川千佳夫、谷畑藤男、柴田 栄（協力・元会員）、深井宣男

2020年3月31日 PDF版 ver.1.2 発行

2020.04.24 ver.1.3 p.2 謝辞追記

2020.05.02 ver.1.4 p.71 - 72 日付訂正

発行：日本野鳥の会群馬

〒370-0046

群馬県高崎市江木町 980 新井ビル 2F

Tel. 027-325-5211

E-mail office@wbsj-gunma.org

本書の著作権は日本野鳥の会群馬が有します。

ただし、本書の中で使用されている写真の著作権は撮影者に帰属します。

本書の一部または全部を無断で複製することは固く禁じます。

